

基督教公判録

(原名「法律の聖書審査」)

倉本澄等訳

92

271

(M)

020445-000-1

92-271

基督教公判録

ハワード・エッチ・ラッセル/著

M35

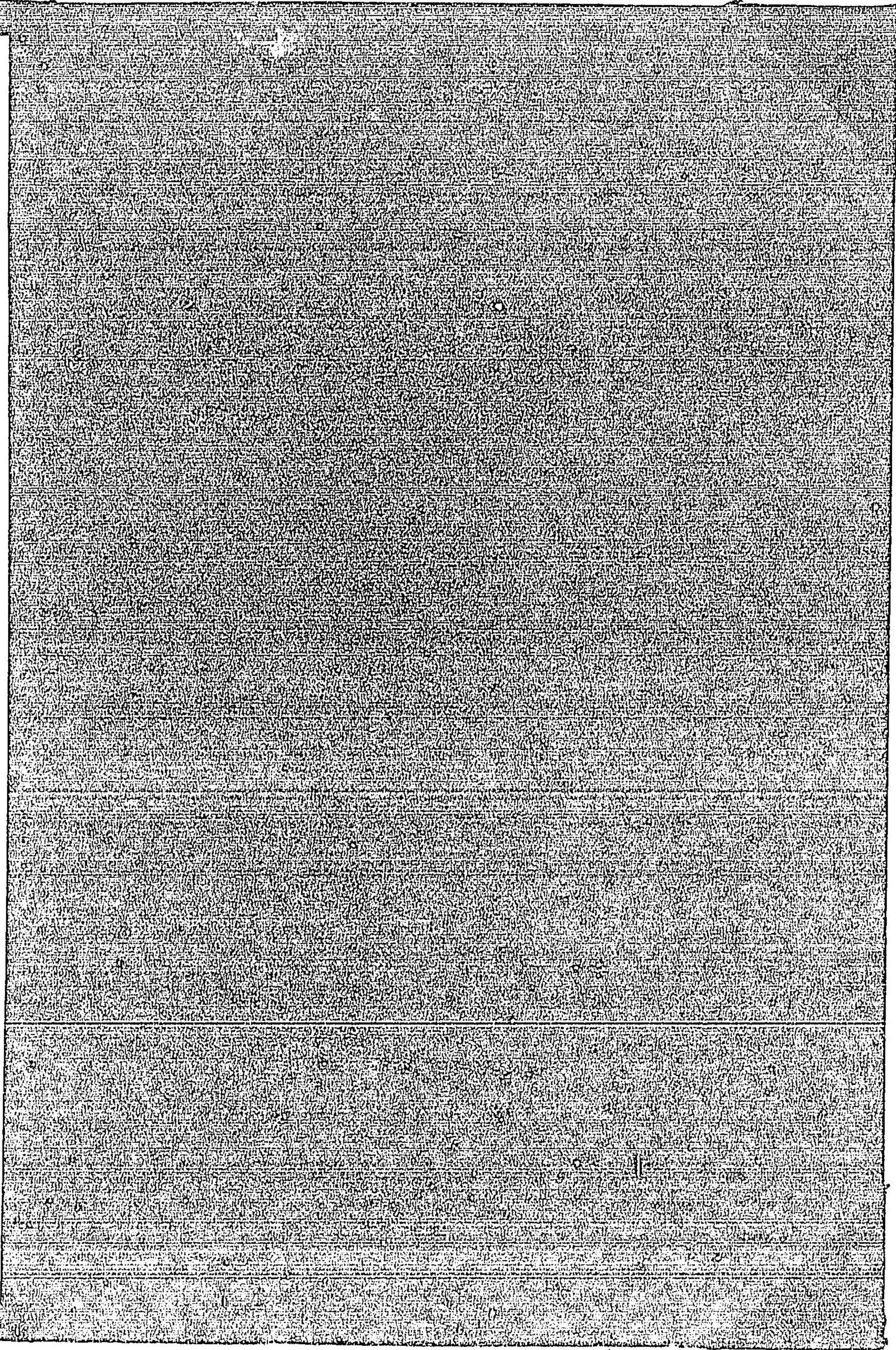
ABI-0255



明治三十五年一月

基督教會年報

教文館發行



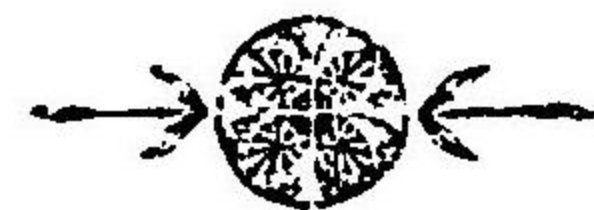
92-241

A LAWYERS
EXAMINATION OF CHRISTIANITY
BY

REV. HOWARD, H. RUSSELL, D D.

(Pres. American Anti-Saloon League.)

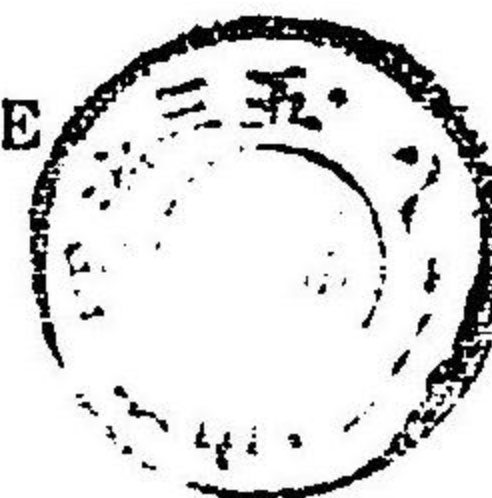
1



METHODIST PUBLISHING HOUSE

TOKYO

1902



REV. HOWARD H. RUSSELL, D. D.

拙著基督教公判録の和譯に題す

予がオペリン大學に在りし當時親善なる交誼を結びし學友中に數名の日本人ありき予は是等極東有爲の青年學者と書窓を同じし日々交情を温むるに隨ひ旭かゝやく日の本の國に對する敬慕の念漸く加はり他日機を見て親しく其邦土を踐まんと決心したり

爾來教務閑なく予が旅客としての希望はなほ未だ遂げられざるも今や幸にして宗教問題に關する意見書一通を先驅として豫め貴國に派し諸君に伺候せしむるを得るに至りたるは予が最も榮譽として自ら満足する所なり予は本書を諸君に致すに際し紹介の勞を吝まれざりし友人アーチスト、ダブリユ、クレメント氏及び譯者大倉本澄氏を経て太平洋の彼岸に在る予が檢閲官に親厚なる友情を寄すると同時に救主キリストイエスが教へ給ひし福音の要求に對し諸君が予と同一の精査を遂げ予と同一の判決を下し予と共に同一信仰の見證者と爲り以て予と同一の歡喜を感得せられんことを熱望して止まざるなり

予は他日神若し許し給はば風光世に隠れ無き諸君の郷土に於て親しく諸君と相見んとを豫期し心裏今

より既に嬉然たらずんばあらず
救主降生千九百一年六月

米國オハヨー州に在る諸君の親友
エナ、エナ、ラッセル識

基 督 教 公 判 録

左に列坐せる基督教の證人は何れも皆
世界有数の法律家なり

エドモンド、パーク曰く人間の最も高尚なる生活の法則は基督の福音中に備はれり

ジョン、セレンデン曰く世に幾万の書冊ありとも死に臨んで我等の靈魂を委託し得るもの聖書を除きて他にこれあるとなし

サー、ウヰリヤム、アラックストーン曰く人生百歳の法則は「自然」の法則と默示（聖書）の法則とを以て二大基礎とす

トマス、ブリスキン曰く基督教の信仰に聯關する諸般の真理に深く感動せる者余の如きは他に多く其比を見ざるべし

ジョセフ、ストリー曰く請ふ吾人をして聖潔なる熱誠を以て聖書に依り頼み之を以て宗教の唯一根據と爲さしめよ

ジョン、マクレーン曰く予は多年聖書に示さるる道徳と基督教主義の傳播とを以て我國家の制度を維持改善するの基礎と
思惟せり

ダニエル、ウエブスター曰く吾人若し聖書が教ふる所の原則を確守せば我國家は益々隆昌進歩すべし

ジョン、シヤーマン曰く予は聖書を以て人類に與へられたる神の尤も高貴なる賜とす聖書は吾人の生涯が死と共に終ら
ざる事を保証するが故に慈善善行の最も強き獎勵なり

デー、ツ、フレイジャー曰く世に聖書ほど多くの真理を保有せる信頼すべき書卷あるとなし悲む者を慰め弱きを強め

第一回 左に列坐せる基督教の證人は何れも皆世界有数の法律家なり

第一回 左に列坐せる基督教の識人は何れも皆世界有数の法律家なり
高尚なる志望を奮勵し人生をして興味あらしめ又能く死をして安易ならしむるもの聖書の如きは他に之あらざればなり
セー、エフ、テイロン「米國辯護士會長」曰く人類を統轄する道徳の眞法則は永遠不滅なる正義及び權利の知覚なり此知
覺は人間の心裡に記録せられ又聖書に啓示せられたり

基督教公判録(原名、法律の聖書審査)

米國法學博士 ハワード、エツチ、ラッセル 著
全文學士 イー、キルソン、クレメント 譯
日 本 大 倉 本 澄

第一回 本件の陳述

紀元千八百三十年喜望峰の沖合に於て暴風雨の爲めに沈没したる一船あり、幸ひに船員及び船客は慘
死の難を免れしも船体及貨物は悉く海底の藻屑となりぬ、アレキサンデルダップ氏も亦印度宣教の
途上此不幸なる船客中の一人なりしかば他の旅客と共に一時難を海岸の一茅屋に避け空しく八百餘卷
の書籍を失ひしを嘆きけるに偶々一水夫あり海濱に漂着したりとて一個の小包を持來れり、開き
見れば是なん日夜愛讀したるタワプ氏の聖書ありき積込の際には他の書籍と共に箱に納めたりしに今
や同氏の手に戻りしは只此聖書と同封の讚美歌集とのみなりしかは此奇しき出來事は痛く氏の胸を打

ち是れを聖書が印度の爲め全世界の爲めに他の書卷よりも此上なく必要なることを啓示せる神の聲なりと深く自ら感じけること

夫れ人類が大膽にも聖書てふ巨船を破砕せんと試みたるは其度數幾千回なるを知らず偏理説てふ風雨あり懷疑論てふ狂瀾あり科學的否定てふ怒濤ありて一々枚舉に追めらすと雖ども聖書は常に斯る難關を排除し來り今尙依然犯すべからざる威嚴を保ちて世に存在せり

吾人は今や讀者と共に斯る驚く可き聖書存続の原因を審問せんとす吾人は該書の淵源に溯り該書と其教るふ宗教とが廣く現今の文明國民中に行はれ隨て又未だ暗黒の悲境を脱せざる國民を歩一步光明に導きつゝあるの緣由を考察せんとす又吾人は基督の福音を審問の題目と爲し最も明確なる推理と法律上の規定及先例とに遵據し以て基督教が神より人間に賦與せられたる天啓の宗教なりと主張する證據の眞否如何を穿鑿せんとす

公判廷茲に開かれ「基督教」對「不信説」事件の審問將さに始まらんとす裁判法の順序により先づ陪審官を選任せざる可からず而して本件に於ては言ふ迄もなく讀者其人こそ最も適當なる陪審官なるを以て諸氏は此良心の法廷に於て一々其贊否を表せざる可からず「我に就らざる者は我に反く者なり」

とは原告なる基督が主張し給ふ陳述なりとす

吾人は陪審官の名簿を檢閲して少くも四種の人物より組織せられたるを發見せり第一は老實なる基督教徒なり彼等が頼りて立てる信仰の基礎は既に極めて確實なれば必ずしも此判廷に臨席するの要無きが如く見ゆれども而も尙ほ自己の信念を深からしめん爲め且つ適當に他人に其所信を傳ふるの便宜を得んが爲めに此席に列し以て自己の保持せる信仰の基礎を再審考慮するは尤も望ましきこと信す、第二は他人の勸誘に依り若くは信徒の品性に健全なる効果あるを見て虚心平氣に此宗教を受理したる人々より成れり、想ふに這種の人士は基督教の行はるゝ國土に生れ信徒なる父母の家庭に生長したる者多からん斯る人々は既に聖靈の召を認めて之に應じられたれども身自ら其歸依する宗教の根據を精査したると無きを以て偶々己れよりも辨論に長し多少の才智を有する不信徒に邂逅し若くは誠意よりして各種の疑問を提出し深く之を攻究せんと欲する人々と對話するに際しては忽ち辨明の途を失ひ馬太傳の記者は何故に馬太なるカラザロの誕生は何故に歴史上の實事なるかを解説すると能はざるべし、されば吾人は切に望む此階級に屬する人々が吾人と共に興味深き眞理探究の遠征を爲し因て以て遂に「爾曹の衷にある望の緣由を問ふ人」に充分の答を爲し得るに至らんとす

著者二日友人と語る彼れ余の間に對へて曰く「余は基督教徒に非ず又此宗教に就て深く思念を凝らせしと無し」と是則第三種の人なり想ふに讀者中此人と趣を同くせる者少からざる可し果して然らば余は實に諸氏の爲めに懸念せざるを得ず諸氏は日夜福音の響を耳にせるにも拘はらず他の必要ならざる俗事の爲めに空しく思慮を費し却て神と靈魂との間に存する關係を示教する絶對的必要問題を輕々看過せりされば今より吾人が開始せんとする真理審問の法廷に列して具さに本件を觀察し以て正當なる最後の結論に到達するは諸氏に取りて復た得易からざるの好機會ならずや

吾人はまた我が陪審官中に幾多の懷疑家あるを知れり是れ第四種に屬する人々なり想ふに基督の福音を審問に附せんとの公告は是等懷疑説を抱持せる人々の注意を惹起したるならん來れ這種の人士よ吾人が開設せる真理の法廷は何人にも陪審官の坐席を占むることを認許せり古昔に在りては異端者を遇する頗る嚴酷を極め今日も尙懷疑者に對して懲らに訓誡するの度量を欠ぐの人々ありと雖も吾人は力めて基督に倣ひ疑惑と不信との差別を認め全然公平の處置を期する者なり夫れ疑惑は「信し得ざる」の謂にして不信は「信するを欲せざる」の謂なり前者は光明を望めども後者は暗黒に満足する者なり「光よりも暗を愛す」とは基督の痛く詰責し給へる所なれども其心光明を求めて未だ疑惑の密雲を排除

し得ざりしトマス、ピロピ、ニコデモの徒に對しては諄々教へて厭さ給はざりされば其の心を頑にして故意に眞理を容認せざる儕輩に對しては吾人其施す可き術あるを知らされども苟且にも誠意を以て事理を攻究する疑感者又は質議者に對しては吾人之を公判廷に歓迎し以て公明正大の審議を遂げんと欲するなり

さて吾人は豫め諸氏の同意を得ざる可からざる一事あり他なし審問中正當に立証せられたる事實及び正當に應用せらる可き事實に就ては諸氏之を認めて動かす可からざる確定事件となすに躊躇せざらんとは是なり、法學家グリーンリーフ氏曰く「公判廷に於ける聖書が我等に要求する處は他にあらず只だ我等が他の事件に關する證據を扱ふが如く聖書の證據を扱はんとは是なり」と吾人は本件研究の始めに方り陪審官たる讀者に向ひ全然偏頗心(自己の偏見)を棄て事實の真相を看破せんことを請はざる可からず偏頗心は眞理の敵なり偏頗心は常に心門を閉鎖し公平なる眞理の攻究を嫌忌するものなればなり

米國アイオワ州に一奇話あり或る重要なる裁判事件に於て原告の辯護士其意見を陳述し被告將に口を開かんとするに際し陪審官中の一人突然退廷したり主任判事此違例の舉動を詰りしに彼は「余は既に

心中に決する所あり最早被告の辯論を聞きて其決意を亂すの要なし」と答へたりとぞ世間幾多の事件に過失錯誤を來すは必竟事實の終始を精査せしめて匆卒之に斷定を下すに歸するもの多し深く慎まざる可からず特に宗教問題に及ぼす偏頗心の弊害に至りては更に甚しきものあるを以て吾人は尤も謹直公平に之が判定に従事するの覺悟なかる可からず

然るに世人の陥り易き弱點は自己の推理力に對する自負心なり此心は兎角基督教に反抗する偏頗心の源因となると多し如何なる智者と雖も基督の教へ給ひたる天啓の福音を學ばんと欲せば須く其足下に膝行し愚者に伍して其教を謹聽するの勇氣と謙遜となかる可からず軍役に服しては百万の財を有する富豪も貧賤なる農夫も共に同一のコップによりて其渴を醫するが如く眞理の水を飲まんと欲する者は學者も無學者も共に同一の泉に行き跪て之を掬せざる可からず「幼兒の如くならざれば神の國に入るに能はず」とは眞理の國の入口に高く掲げられたる標札なり世に自己の才智學識を衒はんとする輩は斯る謙遜の徳を理解せざる者なり

惡に對する人性の傾向も亦眞理の會得を妨ぐる一大障礙となれりロチエスタ―伯爵は多年素行修まらざる有名不信者なりしも晩年敬虔なる基督教徒となり成るべく過去の過失を拭ひ去らんことを力め

屢々その手を聖書に置き「邪惡なる心よ汝こそ此聖き經典の敵なりけれ」と叫ぶを常としたり然りと彼の言の如く邪惡なる心は高慢なり復讐の意熾んなり慾望を以て燃るなり利己の念に驅らるゝなり然るに福音は全く之に反し謙遜を命し寛恕を求め満足を勸め更に進んで他人の爲めに生命を捐てよと悔の聖書に曰く「人其行爲の惡しきにより光よりも暗さを愛す」と蓋し邪惡なる心は屢々人の腦漿を攪亂して正邪を識別するに能はざるに至らしむる者なり故に吾人は諸氏と共に眞理探究の遠征に上るに際し斷然偏見と確執とを棄て嚴肅公正なる注意を本件の上と與へられんとを乞はざるを得ず

さて吾人は審問の開始に先ち原告又は被告の爲めに万丈の氣焰を吐かんと片唾を呑んで辯護士席に扣へ居る人々の思想品性及び素行如何を單簡に觀察するは頗る有益にして而かも太だ興味あること信ず吾人が斯る提議を爲すは抑も故なきにあらず嘗て同一の辯護士會に屬する二人の法律家ありしが一人は常に正當の理由ある事件のみの依頼を請し決して不正なる辯護の依頼に應せざりしも他の一人は之に反し正邪理否の差別なく報酬豊かなりとし云は、如何なる事件をも厭ふとなく寧ろ力めて斯る不正事件を求めて偏ら自己の收利を圖りたり斯りければ遂に世人は訴訟ある毎に之が辯護士は甲なるか乙なるかを聞き探じめ其の訴訟の性質を測知し曲直何れの方面にあるかを推察するを得たりとぞ世間普

通の事件に於て既に然りとせば本件の如き道徳上の訴訟に於ける辯護士の人格は特に吾人の注意を惹く可き緊要問題なりとすさて吾人は今や原被告の辯護士を比較するに方一驚を喫せざらんとするも得ざるものあり先づ第一は被告則ち不信者の辯護士として出廷せる學者の極めて少数にして而も其多數は第十八世に屬する人物のみなる是なり請ふ其重なる人々の誰なるかを見ん

曰くウラルテールなり彼は戯曲の作家なり詩人なり顯著なる才物なり十八世紀の過半佛國に於ける智識界の君主なり彼は其多産なる筆を揮ひて七十余冊の著作を爲し又口を極め精を盡して基督教を攻撃したる一人なり彼が基督(ウ氏の繼續者とも謂ふ可き有名なる不信者)レナンは基督を評して古來歴史中に見る可き最も純潔濃厚なる人物なりと稱したり(を誹謗するに用ゐたる套語は「惡漢を撲ち倒せ」てふ忌はしき一句なりき彼は屢々此語を使用して憚らざりければ遂には家中慣用の一句となるに至れり彼は天才を有せしにも物はらす幾多の敵を有し頗る不幸なる生涯を送りしが晩年に至り其身の痛く世人に嫌惡せられつゝありしとを悟りしと見え世を去る三ヶ月前郷土なる佛國に歸着せし時稅關吏が彼に向つて「輸入禁止の物品を携帶せざるや」と問ひければ彼は悄然として「余自身の外禁止の物品は何をも有せず」と答へたりとぞ以て彼が如何に國民の冷遇を受けしかを自覺せるを知る可し彼が

死去當時の事に就ては多少の異説あれども兎に角憐む可き最後を遂げたるは疑ふ可くもあらず彼れの主治醫及び看護婦共にウ氏の苦痛を証明し「ウ氏臨終の苦痛は其激甚極度に達し天下また斯る苦惱なかる可しと思はれたり」と断言したり

吾人は更にエデンバーの哲學者また歴史家なるダビット、ヒュームの肩を登かして法庭に立てるを見る、吾人は公平に彼が知識上の力量を認むると同時に彼が好んで隊を容れし宗教談中には殊更に事實を曲げて自己の偏見を助くるの用に供したるが如き卑劣の行爲あるが故に「人」としては毫も信任を置くに足る者なきを認めずんばあらず

嘗て基督教會に關係ある職務を帯びたる一青年ありヒュームの著述に迷はされて親しく其示教を請ひしに彼れ平然として答て曰く「今の時や適當の業務を得る頗る難し請ふ君依然現職に在れ是れ君が一身上の利益なり」と此言や以て彼が心事の如何に陋劣なるかを知るに足る彼れ母を失ひし時語りて曰く「予は學者界を喜ばせんとして試みに種々の異説を立てしかども、實は甚しく他人の信する所に異なれる想念を抱けるにはあらず」と此一語や以て彼が眞實てふことを重する人士に對つて毫末の尊敬を要求するの權なき事を證して餘ありと謂ふ可し

吾人は次に英國の史家エドワード、ギッポンの意氣揚々として席に着けるを見る彼が宗教上の見解は終始一定の形態を備へたることなく初めは新教徒に加はり中頃羅馬教に入り其後また歐洲新教徒の信徒と化し最後に至り全く宗教を棄てて純然たる背教者となれり夫の有名なる羅馬帝國衰亡史は史書中優に第一位を占る者なるが彼は實に此書を以て基督教攻撃の具となし巧みに毒筆を弄して屢々事實の真相をくらし讀者を蠱惑して真理と正義とに適はざる結論をなさしめんと力めたりされば幾多の大學教授等は學生に勸むるにギッポンの歴史を讀まんとせば必ずミルマン及びギゾーを併讀せざる可からずと教ふるに至れり殊に彼は宗教に對して嘲笑の筆を染め乍ら未だ嘗て心を潜めて聖書を研究したるとなし星學者ハレー嘗て理學者の泰斗アイザック、ニュートンの面前に於て無神論を唱へしかばニュートン直ちに詰りて曰く「君は未だ斯る題目を推究したるとなし未だ審査を遂げざる問題に對つて輕忽に斷案を下すが如きは却て自己の體面を毀損する者なり」とハレー深く其言に服したりギッポンの如き亦た同一の非難を受く可きものなり彼れ自ら公言して曰く「予は宗教の真理に就て最後の見解を作成するに先づ僅かに約翰傳と路加傳一章とを一讀したる而已」と其大膽寧ろ驚く可きに非ずや吾人はまたマルメスベリーのホッブスに注意する所なかる可からずボルテール、ヒューム及びギンペ

ン等の時めきし第十八世紀は實に不信説跋扈の時代なりしがホッブスも亦前世紀の中葉大に其持説を主張したる一人なり彼が著名の一書「レヴィイヤチン」は基督教首要の真理を全然顛倒せんと極力之を毀めたる者なるが此書大に議會の非難を受けしかば之が辯疏に就ては頗る苦心せざるを得ざりき彼は宗教を攻撃するに初めて歸納論法を適用したりしが其論法及び思想は後に至りてフリストレー、ハイドレー及びヒューム等の襲用する所となりたり而かも彼が宗教上の見解——否な寧ろ見解の缺乏——は死に臨みて彼を失望の淵に沈淪せしむるの外何の慰藉をも與ふると能はざりき彼は九十歳の長壽を保ちしかば信徒ならんには皇天の祝福に満足し寧ろ此世を去りて主基督と共に在らんとを希願すべき高齡なれども衷心一の慰安をも有せざる彼は死に瀕して大に戰慄し叫んで曰く「嗚呼予は今や暗黒に向て恐る可き一跳躍を試みざる可からず予にして若し全世界の首長ならんには一日の生命を得んが爲めに全世界を擧げて之に與へん」と彼が末路寧ろ憐む可きに非ずや

吾人は不信者の列に在る顧問官中尙ほ一人の知名の士あるを見るトーマススペイン之なり彼は不信時代の終末に出で其鋭利なる智識と比類なき敗徳とを以て異彩を放てる當時の特別産物とも稱すべき一妖星なりとさりとて彼は必ずしも思想深遠なる哲學者にはあらず彼が文戦上の重要な武器は寧ろ冷笑

と嘲罵とにてありき且つ素行脩らざる彼は敵として味方としても決して重きを爲すべき品性を有せざりき特に其晩年は彼に取りて頗る不幸の生涯にして其臨終は實に悔恨を以て満されたり

吾人は略不信者に與みせる著名の辯護士を列挙し了れりハレー、ハートレー、及びブリーストリーの如きも其氏名多少人の記憶に存すれども何もホップスブヒューム等と同派に屬する第二流の輩たるに過ぎずボルテールの旗下にも亦幾多の破壇論者ありルーツー、シャフテスベリー、ペイル、ホリンゲブローク及びインガソールの如き要するに彼れの亞流にして又雷同者たるに過ぎずされば吾人は既に不信者なる辯護士中學識に於て誇り得る者極めて少數なること偶々學才を有する者あるも空しく之を自己の利慾と偏見との奴隷となし了りたる不誠不實の敗徳者なることを發見したり

吾人は之より眼を轉して暫く他の一列則ち信者の方面を瞥見せん此方面には品性高潔學識該博なる幾多知名の牧師あれども今は假りに之を言はざるへし而かも古今の歴史中より牧師なる一階級を除去する時は世界の智識界に廣潤深厚なや大空虛を生ずべきは何人も首肯する所なるべし

先づ此方面に於て傍聴者を驚倒す可き顯著なる現象は反對者の員數寥々たるに引替へ味力の人數は牧師を例外とするも尙ほ許多の碩學鴻儒偉人傑士所狭き迄に列坐せると是なり二千年の昔發祥の中に在

りし教主に賜せし東方の博士の如き古人は敢て言はず更に近代の人士をのみ紹介するも尙詩聖として詩界の君主ミルトンを初めスペンサー、サツソワツツ、ヤング、スコット、コレリツチ、ダンテセキスピア、ローウエル、ロングフエロー、ウイチャヤー及びテニン等を得べし

讀者或は言はん詩人は本件の審判に重きを爲す者に非ずと豈に夫れ然らん詩歌は人の心の聲に非らずや靈妙なる人間の精神が地上有限の事物に満足せず更に天上無限の神靈に接せんとして發せる叫びにあらずや人之か爲めに喜び人之が爲めに泣く眞に人の衷心に徹し情緒に觸るゝものなくして焉んぞ然るを得んや讀者若し何の希望をも有ざる不信者の社界に於て美妙高尚なる音樂詩歌を聴くと能はざる所以の理を一考せば思ひ半に過ぐるものあらん不信徒の團體は血をも情をも有せざる冷なる死の團體なり無韻無聲の曠野なり若し強て彼等の中に一の詩歌を求めんかケンブリッヂ大學の教授クリッソフアイド氏が自己の墓標に鏤す可しと命じたる碑文こそ好箇の標本とも謂ふ可きか曰く「予は始めに無き者なりき予は生れたり予は生活したり予は死したり予は今無きものなり」と嗚呼何人か斯る斷語を以て自ら満足し得る者あらんや

基督教の辯護士中には世界の大音樂家を有せりハンデル、ヘイドン、バッタ、ビートベン、メンデルソン

モザリの如きは實に基督の救贖に依りて得たる全世界の大希望を歌へるなり
 吾人は亦普通文學者を代表するアチンソン、スコット、ビーチ、ゴールドスミス及ジョンソン等が相携へて基督教の側に立てるを見る。不信者文學者中誰か能く斯る文豪と比肩し得る者ぞ大技術家を不信者間に求めんか殆ど一もこれあるとなし而も信者としてはクリストフハー、レンの如き建築學者ありラフェエル、コレジヲ、チ、アン、ハント、ドレ、ミレー、レイノルド、ウエスト、アストン、モンカクシーの如き美術の泰斗ありアンゼロ、トナテロ、カノバ、トリルワルゼンの如き鑿眼の彫刻家あり且つ夫れ世界の所謂大美術として痛く世人の稱讃を博せる者は殆どこれ聖賢中の光景。人物若くは基督に對する世界の信仰を表白せる者に非ずや是れ實に思想家の輕々看過す可からざる一大事實なりとす

政事家を比較するも亦同じく不信者の寥々たるに引替へ信者中にはグロシアス、セルデン、モンテスキュー、ラレー、バーク、ピット、ワシントン、クレー、ウエブスター、グラドストーン、ガーフィールド、ブレインの如き幾多偉人の襟を正うして着座するを見る

法律家は如何吾人は十字架の勇將としてブラックストーン、ハール、ソマース、マンフィールド、マー

シャルストリー、ケント、セワートの如き法学の大博士を擧げ心を安んじて不信者に戦を挑まざるはあらず

又醫術大家としては吾人はハーバー、シデンハム、グレゴリー、グッド、クーパー、ラッシュユ、アグニュー等の名を列擧するを得べし

哲學界に於ては我等に巨人ありと揚言する不信者中果して能くロード、ペーコンを凌駕する者ありや

ニユートン、ボイル、ロツク、ライブニッツと輸贏を争ひ得る者ありやデビー、ヘルシエル、キエール、及びウキリヤム、ジョーンズと其學殖の豊富を競ひ得る者ありや

以上列擧したる氏名は原被兩告の陪審官の間に如何に著しき對比あるやを立證して餘りありと信するを以て吾人は今亦更に氏名を加へて讀者の厭倦を買はざる可し一時英國に滯留したる亞弗利加の一君主嘗て聖書に關する意見を問はれしかば彼れ直ちに答て曰く「予は確信す聖書は神來の書なり何となれば凡ての善人は之に信頼し凡ての惡人は之に反對するを見ればなり」と素より多少の例外なきに非ずとするも吾人は社會の情態と聖書の眞理とを觀察するに従ひ愈々益々此君主の斷案が事實の梗概を得たるに服せずんばあらず

吾人は茲に開始の陳述を結ぶに際し先づ數言を以て原被兩告の本件に對する論點を查察すべし且つ吾人が特別に讀者の注意を惹起せんと欲する一事は各人皆宗教的性質を有すといふ一大事實なりと見よ機に觸れ物に接し信するも信せざるも共に宗教に對する問題自ら胸中に浮び出で之に適當なる解釋の與らるゝ迄は不安の念止み難きものあるに非らずや是れ必竟自ら氣附かざるも人間の靈が實は大に宗教に渴けるの證なり吾人は今より不信者と基督教徒との面前に立ち徐ろに双方の申立を聴かんす讀者請ふ予と共に彼等の言ふ所を公平に吟味せよ

予は先づ不信者に問はん

予の住める世界は誰の造りしものぞ

曰く進化に由りて成れり——世界は其自身に進化せしなり

予は信者に問はん

予が住める世界は誰の造りしものぞ

信者は直に「真理の啓示」(聖書)と稱する一書を取り清明たる音調を以て開卷第一語を讀む曰く「元始に神天地を創造たまへり」

予は茲に於て再び不信者に向ひ左の數問を發す

予を造りしは誰ぞ

曰く予は之を知らず

予は何故に造られしぞ

予は之を知らず

予が行爲の規準は何による可きや

之れ予が意を留むる所にあらず

斯る答辭に満足する能はざる予は更に信者に對し同一の問題を發せざるを得ず

予を造りしは誰ぞ

「神其像の如くに人を造り給へり」

予は何故に造られしや

「そは彼を信する者には神の子たる權能を與へんとてなり」

予が行爲の規準は何による可きや

「汝心を盡し精神を盡し意思を盡し力を盡して主なる汝の神を愛し又己れの如く汝の隣人を愛すべし」

予は三たび不信者に問ふ

予は自己の心に對し隣人に對し又「より高き機能」(神)に對し罪を犯したるの感あり、而かも尙ほ將來に一縷の望みあるべきか

予は望みに就ては何をも知らず

予が最後の運命は如何なるべきか

予は更に之を知らず

茫然自失せる予は更に信者なる證人に問ふ

予が罪を赦さるべき見込ありや

「神は其生み給へる獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へりこは凡て彼を信する者には亡くと無して永生を受しめんが爲めなり」

予が最後の運命は如何なるべきか

「我父の家には邸第多し若し然らずば爾儕に語らざるべし我れ爾儕の爲めに處を備へに行く是れ我が居る處に爾儕をも居らしめんことなり」

茲に於て双方の論據は明白となれり

即ち「聖書と稱せらるる書冊は造物主なる神が人類に與へたる啓示にして神の聖慮其中に表現せると

救拯は神子基督の苦死に由りて成遂げらるるゝと靈魂の永遠不滅なると信仰を以て基督の贖罪を受ける者

は此世に於ては幸福に來世に於ては救拯に與かると基督を信せざる悪人の永生を受る資格なきこと」

等は基督教徒の主張する所にして不信徒は凡て此等の事を否定するに在り

いざ之より本件の審問に入らん

第二回 左の證人は何れも一國の君主若くは統治者なり

左の證人は何れも一國の君主若くは統治者なり

ピクトリヤ女皇曰く聖書は英國の偉大なる所以の秘訣なり

ワシントン曰く神を畏敬せざるは正當に世界を支配することは到底不可能の事に屬す

ジョン、アダムス曰く聖書は世界に於ける最善最良の書なり

トマス、シャフエソン曰く凡ての宗教中基督の宗教ほど純潔なるはなし

ジョン、キロー、アダムス曰く予は一年一回聖書を通讀するを例とせり聖書は實に智識と徳義の淵れども盡する大鐵山なり

リ

アンドリュエー、ジャクソン曰く聖書は我大共和國が依て以て其上に安んずる大盤石なり

マーティン、ヴァン、ビューレン曰く基督の教訓は人間の靈魂に對する唯一の治療にして又慰安なり

アブラハム、リンコルン曰く聖書は神が人間に與へ給へたる最上の賜物なり

エー、エヌ、グラント曰く汝が自由の保證として聖書に信頼し汝の心に其教訓を銘じ汝の生活に之を實行せよ

ゼー、エー、ガーフィールド曰く神の力と其攝理とを認めざる者は如何なる國民の歴史をも眞個に理解するの明なき者なり

ハンジヤミン、ハリソン曰く今や世界の平和を見るの時期漸く近づき仲裁委員をして國際上の争議を和解せしむるに至れ

るは是れ必竟平和と正義との根源なる基督教の勢力に外ならず

ナカレチン、ボナパルト曰く基督は如何なる點に於ても予をして敬畏せしむ其精神其意志共に然るなり彼とは到底比較す

べき者に非ず彼は實に卑獨超絶の聖者なり

第二回 左の證人は何れも一國の君主若くは統治者なり

第二回 証據物件の正確

基督教の証據物件に舊約及び新約の二種あり吾人は本件の審問を簡易明晰ならしめんが爲め別々に之を提出し本章以下六章迄は専ら新約聖書に就て審査を遂ぐることを爲す可し基督教は各自獨特の二十七冊子より成る一巻の古書を法廷に提供し主張して曰く「此書は八人の著者に由りて記述せられ耶蘇基督の精確なる傳記と其宗教の教義とを記録せる者にして基督の徒弟（即ち基督と時代を同くしたる而已ならず一二を除くの外は悉く該書中に載せたる出來事の目撃者）に由りて基督世紀の第一期に於て發表せられたる經典なり」と、新約聖書即ち是なり

吾人は新約書を以て基督の福音の事實と教義とを包括する信憑す可き証據物件として受理するに先ち豫め左の二問題を解決せざる可からず

第一新約書は實際該書が主張する八名の著者の手に成りし完全なる證據ありや

第二該書は其歴史上の細目に付き十分の信用を置く可き價値ありや、即ち該書中の記述なるが故に眞實なりと認め得可きか、換言すれば新約書は信憑し得可きものなりや

凡そ書冊を審査するに二法あり曰く著述者の正確曰く記載事項の確實是なり此二者は各自特別の問題にして必ずしも相混同せる者に非ず或書は其著者明白なるも事實に於て虚構なるもあるべく又或書は事實正確なるも著者の不分明なる場合あり例へば「ガリバー旅行記」の如し其著者のゼー、スウキフトなるとは正確に知り得べきも其記載事項は一篇の小説たるに過ぎず「ジュニアムの書簡」は其記述せる時事習慣及び人物に關しては充分之を信受すべき者なるは何人も首肯する所なれ其該書が果して何人の手に成りしかは人能く之を知るものなし而かも「グランド將軍の傳」に至りては著者事實共に信憑すべき眞個の歴史なり吾人は今や第二第三兩回の公判に於て新約書が是等三種の書籍中何れの部に屬すべきかを精密に觀察せんが爲め先づ著者に就て吟味する所あらんとす

さて基督教が提出したる新約書てふ証據物件に對しては反對證人中より種々異議の申立を爲し之が無効を主張せりトマス、ペインの申立に曰く「新約聖書なる一書は基督が此世に在りしと稱せらるる時代より後るゝと三百有余年にして始めて世に顯はれしものと思はるゝを以て信者の申立には反對す」とト

「トマス、ハックスレーの異議に曰く「福音書の記者に就ては我等全く何を知らざるが故に該書は名もなき似而非記者の手に成りしと言はざるを得ず」と

茲に於て基督教の辯護士起立して曰く「證據物の提出を拒まんとする者は該物件の無効なることを明白に論證するの義務あると古今法律の要求する定則なり若し該物件が適當の貯藏所則ち斯る證據物が適當に發見せらる可き場所と思はるゝ處に於て發見せられ且つ斯る人々の手によりて保存せらる可き者と思はるゝ人の手に於て保存せられしものならんには法庭は之を有効物件と認め參考物中主要の地位に置くは法律の規定する所なり反對者若し之を拒まんせば該物件が廢物たる反證を立派に提供せざる可からず徒らに否認するは決して法律上真正の反駁にあらざるを以て如何に嘲罵的語調を以て無効なりと叫ぶも其理由を辨辯せざる限りは毫も法庭の裁決を動すの効力なきを以て此故障は全然消滅に歸す可きものなり」と

斯の如く基督教は法律上の規定及び先例に基き泰然自己の權利を主張すると同時に其の提出せる證據書類が大抵基督教の死後數年(其の最後のものと雖も六十年)内に其の徒弟によりて記述せられたりし最も確實強固なる證據を示さんとす是れ讀者の聽かんと欲する所なるべければなり

さて吾人は如何にして聖書の著者を確む可きやと言はば他の書物を檢定する普通の方法と毫も異なる所なしと答へんのみ假りに有名なるバンヤンの天路歷程を以て例解とせんか我等の父母は此の書を我

等の祖父母より受け祖父母は更に其父母の手より之を受けたり斯の如く階段を登りて歩一歩進み行かは遂に千六百七十八年則ち該書の公けにせられし年月に到達し且つ該書が何れの時代に於てもバンヤンの作として廣く世に知られしを發見すべし彼が世に在りし當時の歴史中には該書が彼れの著作なることを明記せられ其措辭にはバンヤン時代に行はれたる特點を有し其文体には彼れの精神と特別なる品性の状態とを明白に表現せり且該書は世界民衆の稱讚を博し幾多の國語に翻譯せらるゝに至りしかども誰ありて其著作權を争ひし者なく人皆認めてバンヤンの傑作と爲せり嗚呼是れ眞に完全なる證據にあらずや

吾人は既に二百年前に溯りて天路歷程の著者を識りたり更に八百年前に公けにせられし一書則ち英國の「ツームスデー、ブック」が果して第十一世紀に於ける戦勝王ウヰキリヤムの治世に著述せられしや否やを見ん世人の熟知する如く該書は第十一世紀以降幾多普通の歴史中に引用せられたるのみならずヨウテ三世が統治したる國會は之が摹寫を世に公けにしたり且つ千百年以後の英國裁判所が今日に至る迄明かに之を引用せるを知らば誰かまた其眞偽を疑ふを得んや

請ふ吾人をして之よりも更に五百年の日月を 溯り夫の著名なるチャヌタニアンの「法律原理」が第六

世紀に於て世に出でしことを見さしめよ夫れチヌスチニアンの手に成れる律典の編成及原理の出版は實に法學界に新生面を開きしものにして多少法學上の歴史的智識を有せる者は第六世紀が前後の明暗を區畫する標識なるを認めざるはなし彼れの「法律原理」は當時羅馬、雅典、ペイルト、コンスタンチノール等の市府に於ける法科大學の教科書となり彼が編成したる法典は歐洲諸國が頼りて以て政治を施爲したる模範なりしなり斯くして彼の著述は父より子に子より孫に傳はり以て今日に至れり吾人若し更に五百年を溯らばアウガステン時代則ち聖書の時代に到達するを得べし請ふ吾人をして當時の哲學者セチカの著作を採ばしめよ彼は基督より數年前に生れ基督の死後凡そ三十五年頃暴君ネロの爲めに殺さるたり吾人は如何にして其著書が確實に彼の作成に係るかを知り得べき乎他なし當時タシタス及びクキンチリアンの徒が彼れの所説を引用論評したる而已ならず爾來今に至る迄時と國とに論なく敵と味方との差別なく共に屢々彼の著書を引用し毫も彼が其著者たるを疑ふものなければなり

以上吾人は千八百余年の昔に溯りて著者を確むるを得る所以の實例を示したれば是より歩武を進めて本件の證據物件たる聖書の記者を確めんとするに先ち一二の適例を擧げ古書の鑑定には其文体

及字句のみにても如何に世の批評學者を満足せしむるに足るかを示す可し羅馬の大歴史家リビの書は彼が死後處々に散亂して遂に全たく世より失はれ爾來一千年間嘗て之に就て聴く所なかりき然るに其後種々の斷編の發見せらるゝや世の批評家は競ふて其文体字句を精査し異口同音に之を眞物として受理したりシセロの一畫共和政体論も亦十四世紀の間世に知られざりしが同様の審査によりて受理せらるゝととなれり是れ必竟斯る書類の鑑定には外部に充分の證明なきも内部則ち書類其自身の有する證據が如何に有効なるかを證するものなり

勇敢なる新英蘭土人初めてベンシルベニヤ及びオハヨーを経て西方に旅せし時其過ぎりし林野の樹木に記號を附し以て無事に歸路を辿ることを得たりと謂ふ基督教も亦之に同じく十八世紀の間明白顯著なる標號(道しるべ)を處々に遺留して今日に至れるを以て吾人は此標號を辿りて其起源に達するを得べし之より聖書の有する證據を尋ねて使徒の時代に溯り行かん。

吾人は最初に一〇〇〇年前に溯り當時に於て聖書なる者のありしや否やを見る可し讀者の知る如く聖書は亞米利加合衆國の憲法を作成したる百年前の國會議場に於て朗讀せられ又清教徒の爲めにマサチューセッツ州のブリマスに建てられたる公設記念碑の上に立てる像は右手もて天を指さし左手には一卷

の聖書を持てり是れ實に彼等が乗船「メーフラワー」號に載せて英國より此新天地に携へ來りし聖書を表明すると同時に當時彼等が此書を信し之を以て理想躬行の標準として大共和國の建設に力めたりしとを立證するものなり

合衆國既に聖書を有する祖先を以て建國の基礎と爲せりさらば讀者若し大西洋を航して其母國英吉利に至らば三〇五〇年前即ちクランマー、リツドレー及び其他の改革家等が身命を國家に致せし時代に於て聖書を容認して使徒等の手に成りし眞實の經典なりと爲せるを疑ふ者なかるべし更に百五十年を溯りて第十四世紀に達せんか誰か當時ジョン、ワイクリッフが聖書を英語に翻譯したる顯著の大事業を否認するの愚を爲す者あらんやさらば第十三世紀は如何多少の讀書力を有する人士は聖書の「インスピレーション」を論述したるウキリヤム、ラフアスの大論文を知らざる者なかるべし更に溯りて第九世紀に於ける標號の有無を検せんか史眼を具ふる人は予か言を待たずして直ちにアルフレッド大王が當時切りに聖書を「サクソン」語に翻譯しつゝありしを認む可しさらば進て夫の尊敬す可きビード長老が第七世紀に於て世界に貢獻したる保羅書翰(新約聖書の一半)の註釋を繕くべし既にビードを見れば夫のラーガスチン及其率ゐたる眞教師等が紀元五百九十年グレゴリー大法王の命を奉じ聖書を掲げ

て英國に渡來し大舉傳道に従事したる世界歴史中著名の「快事は僅かに一步を隔て、精細に之を知悉するを得べし

吾人は既に第六世紀に到達したり茲に於てか六世紀のグレゴリー、シオドロット五世紀の聖オースチン、ゼローム、クリンストム四世紀の、アムブローズ、アサナシアス、イユセピアス、三世紀の、シグリアン、オリゼン、グレゴリー、二世紀のバピアス、タチユリアン等の如き大神學者を経て直ちにアレニアス則ちポリカールの高弟に達し得ると敵に於ても味方に於ても共に毫末の異議なき所ならんポリカールとは何人ぞ言ふ迄も無く基督最愛の使徒聖約翰の高弟また伴侶たりしなり
夫れ斯の如く二十世紀發端の今日より遠く使徒時代に至る迄の證明は徹頭徹尾切斷す可からざる連鎖を以て萬國民の目前に横はれり否な當に斯る一條の證明のみならず更に各自特別なる數條の證明を歐洲各國の歴史に徴するを得可し則ち以て六利に於てはグレゴリーより羅馬のクレメントに達する者一、佛國に於てはヒヨリよりアレニアスに達する者一、亞弗利加に於てはアンザンドリヤのクレメント及びタチユリアンに達する者一、シリヤに於てはエフレム、サイラスよりイグナシアスに達する者一、小亞細亞に於てはアナトリアス、バムフィリアスよりポリカールに達する者一、是等幾條の連鎖は共に

基督の直弟子なる使徒の時代に接觸し聖書の存在とその記者とを明瞭に確むるを得るものなり加ふるに吾人は第四及び第五世紀に於ける新約書の完全なる五種の古本と以下五世紀間に謄寫せられたる千五百冊の寫本とは完全に保存せられて今日に傳はれるを目撃するを得べし歴史と實證兼ね備はれる基督教の證明茲に至りて完璧無損としも稱すべし

吾人は今や錦上添花を添へんが爲め最初の四世紀に就て試みに更に精密なる調査を施さんか

第四世紀——吾人は今日に於ても尙ほ當時新約書に十一種の特別なる目録ありしを見るを得べし其内二種は基督教會の二大會議の録事中に他の九種は知名の九大學者の著述中に顯然たり是等の目録は一として吾人が今日用ふる新約全書の各部を明記せざるはなし左に記する者は其目録の出所及年代なり

紀元三百五十五年ガリザリヤの監督にして大歴史家なるイユセピアスの手に成るもの

紀元三百四十年學殖豐富を以て知らるる著述家アサナシアスの手に成るもの

紀元三百五十年ラオデキアの宗教會議に於て議決したるもの

紀元三百三十七年エルサレムの監督シリルの手に成るもの

紀元三百五十年コンスタンチヤの監督エピノニアスの手に成るもの

紀元三百七十年コンスタンチノブルの監督ナジアンゼンの手に成るもの

紀元三百八十年プレシヤの監督フィラスツリアスの手に成るもの

紀元三百八十七年羅甸教父中の最大學者ゼロームの手に成るもの

紀元(凡そ)三百九十年アタキレヤの長老ルフィナスの手に成るもの

紀元(凡そ)三百九十六年大神學者アウガスチンの名著「基督教々義」中に見ゆるもの

紀元三百九十七年カルセーデの國民會に於て議決したるもの

カルセーデの會議には四十四人の監督來會しヒツボの監督アウガスチンの如き實に其一人たり該會議定したる宗規第四十七條に列記する新約聖書中の書名及順序は今日吾人の机上に横はれる新約書と毫厘の差違あるとなし

第三世紀——此時代に於ける隨一の見証者は言ふ迄もなく使徒以後の最大宗教學者オリゼン其人なり彼が物せし新約書の註釋が世に出でしは實に紀元二百三十年なり其他カルセーデの監督ウイクトリナス、ネオカイザリヤのグレゴリー、アレキザンドリヤのダイオニシアスの如き教界の巨人は幾度か

其著作中に新約書の各部を引用註疏したり

第二世紀 吾人は先づ當時其人ありと知られたるカルセーヂウタチユリアンを召喚す可し彼が新約書を引用したる度数と分量の多き菊判三十頁にも餘れり彼れ明言して曰く「君が居若しアカイアに近からんか則ちコリント教會ありマセトニヤより遠からんか則ちビリビ及びテサロニケ教會あり以大利に行かんか羅馬教會あり亞細亞に行かんかエペソ教會あり是等の教會に於ては今尙聖書の記者なる使徒の親しく着坐せし椅子あるを見ん」と

吾人はタチユリアンの外にアレキサンドリヤのクレメント、アイレニアス、メリタス、ヘゲシバス及びタチアン等を擧ぐるを得べし殊に使徒約翰臨終の十年前呱呱の聲を擧げし史家ヂヤスチン、マター及び約翰の高弟ポリカールの徒第バピアスの兩人は當時最も有効の証人にして孰れも新約聖書を講解引證したり

使後時代 吾人は遂に使徒時代に到達しぬ當時聖書記者と年代を同ふしたる幾多の有力なる証人中に就いて吾人は最良の見証者として聖書中に其の名を記さるゝバルナバ、クレメント、ハーマス、ポリカール及びインナシアスを召喚す可し此五人は何れも親しく記者を識り且つ其著書を敬重して「聖

經」若くは「主の啓示」を稱し廣く之を世に推薦したる人々なりとす

讀者若し試みに新約書を以て基督の死後三百年の頃始めて世に出たりと主張するトーマス、ペイン及び其の他不信徒等の理由なく邪推と左の事實とを對照比較をば一讀釋然たらざるを得ざるべし、夫のオリゼンは紀元二百三十年則ち基督の死後二百年未滿に於て新約書より五千七百四十五句を引用しタチユリアンは紀元二百年に於て三千回の引證を爲しクレメントは百九十四年に三百八十句を轉載しアイレニアスは百七十八年に七百六十七回の引證を爲しポリカールは一篇の手翰のみにても三十六回の引證を爲せり彼は既に讀者の熟知せる如く使徒約翰の高弟にして八十六年間基督教徒の高貴なる生涯を送り百六十五年殉教者として其生涯を終りし人なりヂヤスチンマター、も亦百三十年精細に新約書の章句を引用したり

思ふに讀者は是等の歴史的事實に由りて既に不信者の假定の失當なるに心づかれしならん而かも予は更に他の方面より新約著述の時代に關する證左を提供し傍觀者をして毫厘の遺憾なからんしめんとを期すべし他の方面とは何ぞ文學的批判是なり文學批評家等は三福音及び書翰の一部の文体を審査し精密に其著述の年代を鑑定せり彼等は主張すらく馬太馬可路加の三福音は必ずやエルサレム滅亡以前の

作ならざる可らず何となれば其類で以て記さるゝ一種特異の希臘語は即ち使徒時代の用語にして該書に顯はるゝ辭句及方言は第一世紀末以後に於ては全く跡を絶ちしものなればなり紀元七十年エルサレム市全く敵手に陥り正統の猶太人は政事及宗教上の政略よりして遠く國外に逐はれ他國人四方より集來して其邦土を占むるに及んで猶太の國語は則ち一種の死語となりしなり故に紀元一百年聖約翰天啓を全ふして永眠せし時の如きは當時生存者にして新約書が頼りて以て記されたる國語を正確に談話し又記録し得る者にては恐らく一人もあらざりしならんされば第二若しくは第三世紀に於て使徒の名を妄用し假偽の書を著す者あらんには、それは恰も自己の國語の外何をも知らざる佛國人が大膽にも英語の方言にて一書を著しニューヨークの市中に生れたる一紳士の手になれりと公言し以て世人を欺瞞せんとするが如く忽ちに之を看破せらるゝと火を見るよりも明なり新約書は實に此點のみを以するも使徒の時代に成りしを証して餘りありと謂ふ可し

吾人は最後に最強の証憑を提出せんとて殊更に無言に附したる一事あり則ち最初の四世紀間に於て基督教の敵が新約書の記者と時代とを承認せる事之なり普通の裁判に於ては反對者が證據物件を承認する場合には該物件は完全有効の公證として採用せらるゝものなれば如何なる非基督教的論者と雖ども

吾人が是より列擧する特別の證人に就ては一言の抵抗だも爲し能はざるとを確信するなり

吾人は先づ有名なる背教者ジュリアン帝を喚問すべし彼は自己の權勢を利用し極力基督教の撲滅に従事したるのみならず多少の學才ありしかば紀元三百六十一年一書を公けにして大に斯教を攻撃したり若し彼にして新約書の記者と其時代の正確を否認し得るの材料を有したらんには驛頭必ず之を詳述し論難嘲罵遺す所なかりしならんも彼は此點に於て一言の故障を開陳せざるのみならず却て其正確を承認したり

更に少しく溯りてハイロクルスを見よ彼亦教徒迫害者の一人にして紀元三百三年一書を公けにして非基督教主義を主張したり書中屢々新約書を引用せしかども該書の著者及び其年代に就ては毫末の疑念を抱かず單に其内部に瑕瑾及び撞着ありて之が攻撃に努めたり

尙ほ進んでポーフイリーを召喚すべし彼は古代に於て尤も有力なる反對論者なりしが紀元二百七十年一書を草して大に斯教の排斥を試みたり而かも彼は新約書の各部を以て總て其名を冠せらるたる著者の眞作なりと斷言し毫も此點に對しては異議を挟まざりき

吾人は今日の不信者輩が驚く可き哲學者として尊重するセルサスを最後の證人として其申立を聴く事

とすべし彼は紀元百七十六年斯教を攻撃せんとして精を籠めたる一書を公けにしたり彼若し出来得べく
 んば必らずや筆鋒を鋭くして聖書の記者と其年代とを論倒非難せしならんも彼は斯る非難の全く無効
 にして縦令之を爲すも見證者の證明動かす可らざるものあるを以て其著書に於ては初より此
 二事を容認して立論したり、今や物變り星移り千八百年の歳時を経過したれば現今の不信者中には此
 歳時の経過を利用し聖書の記者と其年代とを誣ひんと試むる者ありと雖も以上讀者の知る如く最初の
 四百年間に於て彼等の先輩とも稱すべき不信者等が他の點に於ては兎も角も此二點に於ては明かに一
 致認諾したるを見れば彼等も亦等しく緘黙せざるを得ざるべし
 茲に於て吾人は聖書記者と其年代を論證し偏頗心なき人々の判断に訴へて毫も遺憾なからしめたりと
 信す反對者等は漫に聖書を以て偽作なりと無造作に放言豪語すれども其證據論據一もあるとなし然る
 に吾人に於ては時代より時代に溯りて幾種の歴史的實證を列擧し且つ文休言語及び記載の事項に基き
 聖書の著述せられし年代を確め又初代に於ける非基督教の學者等が聖書の年代と記者とを認諾したる
 とを觀察し讀者をして釋然たらしめたり

サーウヰリヤム、ジョーンス曰く善良なる法律は其淵源必ず基督教に存し又清潔健全なる風俗習慣も降下來れば福音に基
 かざるものあるなし
 ドクザヰル曰く基督教は自由の搖籃自由の良友、又自由の根原なり
 エドモンドマーク曰く予は朝、晝、夜、聖書を讀めり而して斯く讀むが爲めに心中に愉快と幸福を感ずると同時に徳性の
 上に進歩あるを覺ゆ
 ヘンリークレー曰く予は常に基督教に對して深厚なる尊敬を表し來れり將來亦必ず然らん
 マンツナミン、フランクリン曰く青年と予が汝に與ふる忠告は聖書を熟讀して堅く之に信頼するに在り之れ確かに汝の利
 益なり
 サリバー、ビー、モールトン曰く予は敬虔なる祖父母より基督教を教へられ爾來嘗て不信仰に陥りし事なし
 ウヰリヤム、エチ、スパード(外務大臣)曰く人類は偏へに聖書の力に依りて進化する者なり
 シモン、ケリレリーフ曰く基督教の品性には一の指摘すべき缺點なきのみならず有ゆる美德全く其中に具はれり

第三回 証言の効力

維時紀元一千八百六十五年四月十五日午前七時二十二分北米合衆國大統領アブラハム、リンコンワシントン市に於て永眠しぬと、是れ歴史が遺せる瑣々たる一記事に過ぎずと雖、而も亦實に合衆國…否全世界沸騰時代の終結を告ぐると同時に彼れの偉大なる生涯と悲嘆すべき横死とを人心に反響して止まざるに非ずや、彼や邊境草深き荒村に出で、法律事務所に府廳に其技倆を示し遂に累進して一國の主宰となり天賦の聰明によりて能く其國を擁護し、嘗に四年のみならず永遠無窮に倭人俗士の容喙を防遏せり、而して又村郷の寺鐘殷々として響き哀愁の雲低く合衆國の天を蔽ひて都府に悲嘆の色深き時、涙に悼む群衆の前、靜かにポトマックの寺院に葬られ冷かなる墳墓に隠れりぬ

如斯の生涯、如斯の時代を記して後世に傳へんものは誰ぞ之れ豈に當に記録するの價值あるのみならんや凡そ一時代の真相は次て來る可き時代に顯はるゝものなりリンコンの死後生れたる少年少女已に一個の男女とはなりぬ、若し今日にして筆を此歴史に驅るものなからんには、光陰空しく水と流れ時代は再び次に移り、白頭の老翁が爐邊に踞してリンコンと内亂との物語に其孫男孫女を驚嘆せ

しむるの外は十九世紀の最大人物と最難時代は遂に幽かに口碑の陰に没せんのみ

幸なる哉リンコンと其時代の歴史は近頃一の雜誌に連載せられ後ち美裝せられたる十卷の書物として世に出でたり、ニコラー、ヘー兩氏の合著に係るリンコン傳即ち是なり此リンコン傳こそ偶ま以て福音書の眞作なることを表示するに最も適當なる例證ならんか

新約聖書の記者に就ては既に幾多の證明を掲たれば馬太約翰及び保羅等が所謂馬太傳、約翰傳及び使徒書の記者なると極めて炳然たるものあるを信すれども或は上述の論點に毫も關係なき質疑を新たに提出し彼等の著せし書物には果して信するに足るの價值ありや、彼等各自は信用すべき人物なりしや如何にして新約聖書は信憑すべき書物なりと證明し得るや等の疑問を發する者もやあらん吾人は之に答ふるに際し反對者をして毫末の異議なからしむる爲めに普通一般の著書を考證すると同一の方法を以てせんとす夫れ基督教の起元史は我米國の戦史よりも遙かに重要なる價值ある史書なれば此書若し信すべきものならんか、其主人公の如き偉大なる人物果して何處にかある、其事業の如き絶大なるもの何處にかある、看よ爰にリンコンよりも大なるものあり

然り聖書はリンコン傳よりも大なり、然れども其眞偽を立證する方法に至りては一なり今爰に此兩

者相似の點を擧ぐれば共に僅々三年若くは四年の間に在りて幾万人の目前に於て其大事業を完成し共に至世界と其將來に關する音信を齎らし、共に高尚なる倫理の基礎を有しつゝ、一は精神的羈絆より他は肉体的束縛より人類を解放して自由を謳歌せしめんと計畫し共に水魚の伴侶を有すると同時に又水火相容れざるの敵を有し共に天職の爲めに慘憺たる最後を遂げたりき、國民依て歌て曰く

キリストは人類を聖ならしめんとて死に給まひ

リンコルンは人類を自由ならしめんとて死せり

と何故にリンコルン傳は斯く幾千万の讀者に愛讀せられて毫も其眞實を疑ふ者なきや他なし其著者ジョン、ニコレー及びジョン、ヘーの兩人は多年リンコルンと親善なる交誼を結び其心志を同うしたるのみならず彼が四年間大統領たりし間一は其秘書官とし一は副秘書官として朝々に夕べに相信し相倚り互に胸襟を開て其精神と經綸とを吐露し事局非にしては乃ち相扶け相慰め就中其一人は彼が臨終の枕頭に侍し其光榮ある生命の燈火忽焉として風前に消ゆるをすら目撃したり、されば其手に成りし傳記の材料は盡く彼等の熟知する所なるのみならず彼等自らも同一の舞臺に登り、同一の活劇を演じたりしなり加之ならず彼等の名聲と地位と人物の誠直なることは讀者一般の知り又た信する所にして殊に

其文体は著書が性質の温良と判斷の明敏と記録の正確とを証して餘りあり、リンコルン傳を愛誦する者にして其記者と記事の信偽を疑ふ者なき寧ろ是れ當然の事に非ずや

さて法庭に於て証言の信偽を定むるには左の如き嚴格なる三條の定則あり、第一証人は其事件を知るの機會を有したると、第二彼は事件を判別するの知能を有すると、第三彼は事件を陳述するに忠實なること是なり而してニコレー、ヘーの兩氏が此の條件に適合せる資格を有する證人なると今更繰返す迄もなし

吾人は基督傳の記者にも亦此條件を應用し其資格の有無如何を吟味すべし先づ聖徒約翰を見るに彼がベツサイダの漁夫にしてゼバダイといへるカリヤヤ人の子なりしとは彼と時代を同ふせる著述家等の證明によりて明なり其一族卑賤ならざりしが故に祭司長の一家にも親しき交りを有し其友ベタロと共に早くより主に接するを得たり又彼は常に主キリストに近侍しラザロ及ヤイロの娘の甦生主の變貌ゲッセマチ園中の苦悶の如き有ゆる大切の出來事を目撃したりき彼は十字架の下に於て具さに主の慘憺たる最後を見復活の朝には彼得よりも先きに馳せて聖墓に至り屢々復活後の主に接し又主の要求に應じて聖母を其家に携れまつりて生涯之を扶養したりき其後彼はエルサレムの附近に傳道し後

ち小亞細亞に後りて七個の教會を建て居をエヘンにトして此諸教會を監督したり、ドミチヤン帝の時彼はバトモスの孤島に流謫せられ配所の月下黙示録一篇を草しテロ帝の時赦されてエヘンに歸り紀元九十七年の頃其福音書と書簡を物し終にツラジャン帝即位の第三年即ち紀元第一百年百歳の高齡を以て敬慕すべき其生涯を終れり

以上列挙せる如く彼れ約翰は主と起居を同うせる家族中の一人たりし者心隔てぬ親しき交情を有して深く主に愛せられし者宣教の旅路にも静養の閑居にも將た十字架の下までも常に主と共に在り又他の弟子等と友とし善りし者なれば必らずや正確に福音の歴史を編むの智識と機會とを有し一呵筆を投じて立どころに眞歴史を成し得しと讀者の容易く許容する所にして彼が事實を判別し正確に之を傳へ得るの才能を有せし事もまた同時に明晰ならんと信す

されば殘る一問題は彼は果して忠實に其事實を傳へしや否やといふにあり吾人は先づ彼の著述其者を觀察せん若し讀者にして辯護士ならんには必ず彼れの記述が如何に詳細に如何に明瞭に而して又如何に用意の周到なるかを見て一驚を喫するならん之れ豈に偽作にあらざる著しき證據にあらざるや凡そ偽證を爲す者は可成其陳述を簡單ならしめんと努むるものにて時日場所人物等に關する精密なる證言

の如き偽證露顯の虞あるものは可成之を避け以て其事實を曖昧模糊の間に没し去らんと試むる者比々皆然り數年前夫の市長スタップス謀殺事件の公判に附せらるゝや懸賞金を目的とせる三人の刑事調査出で、未決囚人クラインが彼等に殺謀の罪狀を自白せりと申立てたり然るに此三個の偽證人は各自別々に且つ極めて短時間中に此自白を聴取りたりと陳述せんとを相互に豫約し居たりと偽證の奸策は其陳述を概略に止むるを以て秘訣となし眞證は其申立精密にして事重大なるに隨つて益々詳細なるを以て自然となす而して此等の特色は約翰の證言中に特に歴然たるを見るべし試にラザロ復活の記事を見よ管に村名を明記せるのみならず特に村中の何處なるかを斷言し最も深き干係を有する人々の氏名を掲げ不信者なる猶太人多く來集して之を見たりといひ其他會話の模様より、イエスの涙を流し給へる事此處に來り玉ひし目的、死体埋葬後の日數、墳墓の構造、既に閉鎖せられたると、死人の包まれし有様、墓畔に於ける全ての光景、其出來事の人々に及ぼせし結果、其時其處にて悔改めし者多きこと、又カヤバに行きし者もありて其噂の疾く巷街に喧傳せられしと等盡く列舉し來りて眞に精細を極む且つや約翰の歴史が廣く世人に讀まるゝに至りし頃は此來出事を目撃せし者猶多くベクニヤの村中に生存せしを以て若し虚偽の記事ならんには攻撃の丸は四方より約翰の身邊に集りしならん而も彼れ約

輸は自己の記事が何等の故障なく況く世人に受け容れられんとを預期したるのみならず又實に一人の

反對者だにあらざりしなり

以上は只其一例に過ぎずと雖も試みに此福音書を調査せば全部通じて皆然らざるはなしあゝ之れ彼が自ら事實なり真理なりと確信し恐るゝ處なく之を公にせし一大証據にあらざるや猶ほ彼が福音書の全部に就て風俗習慣又は當時の思想政治上の出來事などに關する記載の甚だ詳細なるを許さざれば余は茲に約翰の歴史が他の証據と相照して益々其確實の程度を高むる所以を一言するに止むるのみ

爰に單獨にして副証なき嚴正なる一証人ありとせんか、若し此証人にして自家撞着の跡なくまた非難せらるゝ點無き場合には之を以て正直なる證人と見做すは法廷の慣例なりされど若し他に二三の補證ありとせんか其證據の價值益々優力なる可きや智者を俟て知らざるなり讀者は約翰傳が實に七個の副證を有することを記憶せざる可らず吾人は先づ三人の福音記者に就て言はん其第一はガリラヤの猶太人マタイと名くる税吏にして一朝召されて基督に従ひ在來の宗教を棄て收入多き職業を擲ち翻然大悟し

て献身的の生涯に入りし人なり彼が福音書を物せしは紀元三十七八年の交にして福音書中最も古きものなり次ぎはバルナバの姉妹にして極めて敬虔なる一婦人の愛子マコ其人なり彼はパウロ及び其叔父バルナバと共にエルサレムよりアンテオケに至り其後パウロの招きに応じてテモテと共に羅馬に行けり其福音書は彼がペテロの書記生として又其指揮の下に紀元四十四年と五十年の間に編成したるものにして彼が殉教者の列に加はりしは紀元八十年頃なり第三はアンテオケの人にして醫を業とせしルカ其人なりポーロ捕はれてカイザリヤより羅馬に移さるゝや彼は之に随伴し彼と共に幽閉二年の苦がき月日を送りたり、彼が手に成る福音書は紀元六十三年に稿を終りしもの、如く後又使徒行傳と稱する初代の教會史を編成したり馬可と路加とは十二使徒の員に列せざれども幾多の事實に就て親しく見聞熟知し常に使徒等の好伴侶なりき

以上三人は同一の福音史料に就て各自特殊の詳細正確なる証明を與へたれば約翰が提供したる証據の効力は一層強固となれるが上に猶ほ其補証となるべきもの他に四種あり即ちパウロペテロヤコブユダの四聖徒が教會又は個人に宛てゝ約翰が載録したる事實を指示し之が眞實なることを主張せる幾多の書簡あると是なり只に之のみならず第一世紀に於ける他の基督教書類中にも幾多の証明ありて存す即ちボ

リカアブクレメント等は自己の實驗よりして此等福音史の眞否を検査し明白に其正史たることを告白せる人々なれば吾人は彼等及び前回に紹介したる多數の記者を再び茲に召喚するを得べし彼等が自己の著述中に聖書の辭句を暗示し又は引用したるは單に其歴史の眞實を辯護せんとはあらずして記載せる眞理其者を證明せんが爲めなれば彼等の念頭毫も其眞歴史たることを疑ひだにせざりしを推知すべきなり上述の關係に於て余は讀者が再びかのリンコン傳を想起せんことを希望す此傳記はリンコンの死後廿五年以内に出版せられたれば彼が牛耳を把りし當年の政壇に奔走し其死の悲嘆を頌ちたる幾百の人士猶ほ未だ世に生存して容易に此傳記の眞偽を批判し得るを以て如何に史筆を弄するも到底世人を欺瞞するに能はざる如く福音史編述の當時親しく其所載の事項を熟知承認しイエスの死後半世紀間自ら基督教徒として全生涯を送りし者其數幾千を超へたりしかば福音史の眞偽を判定すると此等の人々に取りては極めて易々たる業なりしなり而も一點指摘すべき虚偽の記事なかりしかば夫の失信者イヌカリオアのユダの如き大逆無道の痴漢さへも終に「罪なき血に反さ」と絶叫して基督の純潔と自己の反逆とを對照し且つ歎き且つ悔い自ら経れて以て福音史の眞實を告白せるに非ずや加之ならず福音記者の剛直と犠牲的生涯とは彼等か福音史に筆を着くるに際しても亦一言半句苟くも

せず况して虚偽を語るが如き者にあらざることを表示して餘りあるに非ずや紀元後四世紀間の歴史は教會史も普通史も口を揃へて使徒等の純潔と忠實を嘆賞し「普く行き廻つて善き事を行ひ」高尚なる道徳の理想を宣傳し又自ら之を實踐せしことを記載せり彼の有名なるブリニーがトラチヤン帝に送りし書簡の一節に「基督教信者は既にピラニヤ州に充滿し日時を定めて基督を拜し讚美を捧ぐると恰も神に對するが如し彼等の生涯は無垢にして純潔なり」と曰へり、利己は瞞着の烙印なり純潔は眞理の封印なり純潔にして剛直、福音記者の如きもの豈に敢て眞理眞道の大罪を犯さんや
 高貴なる品性尙且つ此證明に充たすと言はんか一死苟も辭せざりし殉教の血を以てせば如何、ガルバリ山上の木に「神なる人」の殉教ありし以來幾千の高弟師の足跡を踐んで死を厭はず證道の壇上幾箇の悲劇相繼で演ぜられたり見よ雅各は劍に死しアンデレは×形の刑架に上りペテロは倒まに磔殺せられスチバナは石殺せられポリカールは焼殺されインナシアスは猛獸の餌となり窮究たる美少婦フレドニアは沸騰せる油の中に沈められたり彼等は只幾多節士烈女の代表者にして一は彼等の神聖なる信仰を表明し一は彼等の最後が如何に悲惨なりしかを示す例證たるに過ぎざるなり讀者若しポリカール若くはインナシアス等が臨終の言を聴きたらんに彼等の信仰如何に堅く彼等の志氣如何に壯ん

なりしかを知るを得ん夫れ臨終の遺言が如何に貴重に如何に嚴肅なるか余は此書を読みつゝある法律家の爲めに特更に辨を費すの要を見ずと雖も現今英國の法曹界に重きを爲せる一判官の言を籍り來るも強がち失當の業に非ざるべし曰く「臨終の言は人生の終極にして原告被告が將に死に瀕せんとする最後の證明なり世の望み全く失せ不良の動機消果て、心念偏へに眞理に立歸る時の發言なり嚴かにして偽りなき告白なり、故に法律が遺言を認めて法庭に於ける更ゆべからざる誓言と等しき責任と効力を有する者と爲すは至當の事なり」と然り臨終の言如斯重し、獨り信仰の道を證しせんとして進んで死に赴きたる殉教者等が臨終の言を重からずとなすべしや

或は言はん殉教者は自己の誤謬の爲めに無益の死を遂げしのみと然れども基督敎の殉教者は他の所謂殉教者と大に其趣を異にし死以て證しし信仰の道に一々適當の證據を與へたりしを思へば蓋し思ひ半に過ぐるものあらん凡そ殉教者とは一死以て自家の信仰に最高最貴の證印を與へ終始一貫之に忠誠を表せる者の謂なりソクラテス然りき克蘭マー然りきセルゲエタス亦然りき然り彼等も自家の主義と所信を立てんとて死を厭はざりし者而かも尙ほ自家が思惟して眞理なりと信する所を貫かんが爲めに其生命を屠したるに過さず初代基督敎の殉教者に至つては大に然らず目親しく睹耳親しく聽きし

事實の眞實を證しせしなり説は智識より生れて誤謬と迷妄に傾向し易きも事實は五官より入りて毫も誤りなきもの也殊に福音史の如き明瞭確實なる事實に至ては五官の傳ふる所何人も首肯せざるを得ざるなりセルゲエタスが主張したる説の眞否は今尙之を是非するを得べしされど基督と世紀を同ふせし幾多殉教者の證言には一點の疑義を容るべからざるなり、イエスキリストが驚くべき休徴によりて其神性を表明せしと愛の福音を唱導せしと人類の爲めに貴き血潮を流せしと靈魂不滅の眞理を明示せんとて復活せしと等皆な彼等の証言する所にあらずや嗚呼此神來の事實彼等の耳目に接觸したるにあらずんば安ぞ斷頭臺下一死願みす能く幾層の艱難に堪え基督と其福音を知らずと言はんよりは寧ろ刑場の露と消へんてふ勇氣に燃ゆるを得んや、斯くても尙彼等の立證を疑はんか之れ疑ふ者の罪なり

嘗に彼等のみならず基督敎に反對する輩と雖も福音書所載の事實を許容せる者尠からず夫の有名人る背教者ジュリヤン帝ケルサス、ホルフヒリー、スエトニアス、マーシヤル、ジェヅエナル、ルシアン、エビクテタス、及びマークス、アントニナスの如き不知不識福音記者に力を添ふる者一々枚擧に遑わらずと雖吾人は爰にタシタスの言を其儘に引用するに止め置かんタシタスは斯敎反對の歴史家にし「基督敎は破壊的迷信」なりと公言せし人なれども其言に依れば基督更生後二十五年以内に如何な

る事が公然世に行はれ居たりしかを推知するに足らん曰く「羅馬の市街祝融の冒す所となりしに、
 帝は此災害の起因なりと目せられんとを恐れ責任を基督教徒の上に歸せり彼等はタイベリアス皇帝の
 世に時の代官ポンテオピラトに殺されたる基督を頭に載くによりて此名あり」と之れ豈に昔に引載せ
 られたる事實の真相を證明するのみならず延て福音史全体に力強き證據を興ふる者にあらずや
 假りに此等の事柄が全然虚妄にして之が記者たる者は何れも皆な事實の捏造者なりと言はんか左の如
 き困難なる結論に歸着せざるを得ざるべし、四人の史家と四人の著者（其中一人を除くの外は、
 文才もなく名聞もなき凡夫野人のみ）より成る微弱の一小團體が驚く可き空前絶後の大事業を空想し
 其事實を見たることもなく聞たることもなく否斯る事は決して有りしとなきを熟知せる幾百万の猶六民衆
 の目前に於て實際起りたる大事業なるかの如く世界に向て之を發表し之を信受せんとを警告するの計
 畫を立て、自から之に従事し更に之に従事するが爲めに自家の身上には誹謗と窮迫波浪の如く襲來せ
 んとを豫期しつゝも尚ほ此無謀なる計畫の必ず成就せんとを確信し又自ら甘んじて克己の生涯を送り
 只に讒誣流議の苦楚を忍ぶのみならず卑劣極まる詐欺妄言と自覺しつゝ戯れに世をして之を眞實なり
 と信せしめんが爲めに喜び勇んで無名の死を遂げたりと言はざるべからず之れ豈に天下にあり得べき

事ならんや故に吾人は斷言す世に若し聖書を以て捏造の書となすの假定を信じ得る者あらば彼は先づ
 聖書に記せる全ての奇跡を信するの却て容易なるを知らんと請ふ思へ馬太の如き從來の經歷と性格と
 を有せる者一度び其固執せる宗教觀を棄てたらんは容易く普通平和の生涯を樂むを得たらんに好んで
 忿怒暴慢當り難き公衆の面前に立ち死をも恐れず自己の所信を發表したるを見れば其口にする處其筆
 にする所自覺自信奪ふ可らざるものありて然りしを察知すべきなり
 基督教の辯論斯如整然として威儀寸毫も犯す可らず福音書の記事到底埋没し難きを見るや機敏なる
 反對者は道を轉じて神の榮光と基督の神性を否認せんとす讀者若し史家ギボンに向つてイエスが眞
 實に世に生存して宗教を教へし事、及び其福音が非常なる勢力を以て世界に傳播したることを信する
 やと問はば彼は言下に答へて「然り然れども假りに基督の歴史が其大体に於て眞實なりとするも猶愈
 は其人間の淵源に基づくことを信せざるを得ず」と言はん又ストラウエに向つて汝は此歴史を信する
 やと問はば彼は言はん「然り余はイエスなる者の生存せしこと其宗教を組織したることを信するも
 イエス及び其弟子等は全て詐欺者にして基督教は神聖なりと稱せらるゝ僅少の遺念を基礎としたる虚
 誕妄説に過ぎず」と、ルナンを招きて福音の眞偽を問んか彼は曰はん「余は基督の生存せしこと及び

其教を傳へしことを信し又其純潔にして敬愛すべき人物なりしことを確信すれども彼が神なりと自稱したるは自ら欺ける者なり其奇跡の如きも一種の手に過ぎざりしが彼も傍觀者も共に其氣の如くなりて之を眞實なりと誤認したるのみ」と至て是等の人々は何等の理由をも提出せずして單に自己の想像を逞しよして漫に福音書中の瑕瑾若くは撞着(若しありせば)を發見し之を排斥せんと勉むる者に外ならず余は嘗て此問題に付て數回の講演をなせしが一日左の如き手簡を受けしとあり此れ實に以上諸反對説の主意を摘要したりとも謂ふべければ爰に之を掲載することとせん

敬愛するラツセル君足下

過日足下より聖書は初代の基督教徒及び反對者なる著述家によりて忌憚なく屢々引用せられたるか故へに信用すべき記者の手に成りし正史なりとの高見を承り候が小生に一の困難を生し候故爰に一書を裁して貴意を得度存候餘の義にても御座なく例へは福音書中顯著なる一紀事とも謂ふべき變貌を親しく目撃したる約翰が之を其福音史中に載せざるを以て見れば馬可と馬太に載せたる傳聞は眞實なりとして許容せらるべきものに候や又馬太はヨセフをヤコブの子なりと言ふに路加はヘリの子なりと言ひ馬太にヨセフをダビデの子ソロモンより出たりと言ひ路加はダビデの子ナタンの系統

より出たりと言ふ果して何れを是認致すべきや小生が聞知せる所に依れば傳聞は陪審官の採らざる所又撞着は決して彼等の許さざる所と存し候勿々敬具

月 日

質問者

繰回すが如き嫌ひあれども今再び此質問者の質疑に答ふるは嘗て証言の効力に關係あるのみならず偶以て法官等に興味ある事と信す
先づ質問者をして困難を感せしむるは基督の變貌を目撃したる約翰が之を記載せずして却て此事實を見ざりし馬太、馬可等が之を記載したるの點にあり言を換て曰はば變貌は果して眞實なりや否やと云ふの點にあるなり若し質問者にして約翰が最後に筆を取りたる記者にして其大体に於て前三記者の遺漏を補はん爲め其福音書を起稿し注意して記事の重複を避けたるを思は、蓋し思ひ半ばに過ぐるものあらん又質問者は大膽にも馬太、馬可兩福音書の記事を以て傳聞に過ぎすと云へば聖ペテロは主の變貌を目撃し又明かに之を證明し居るにあらざるや而して馬可はペテロの秘書として其福音を記したりしに非ずや且つ約翰之を記録せずと速断するも註釋者等の見解によれば約翰傳第一章十四節を以て變貌の事實と直接の關係ありと云ふに非ずや、況んや馬太、馬可兩傳に既に詳しく記したれば之を繰回す

の必要なかりしが故に約翰は之を再叙せざりしをや
次に質問者の非難する所は系圖の問題なり曰く馬太はヨセフをヤコブの子と言ひ路加はヘリの子なり
と言ふ又馬太はヨセフをダビデの子ソロモンより出づと言ひ路加はダビデの子ナタンより出づと記せ
り何れを是なりと認むべきかと
是れ亦少しく研究する所あらんには兩者の間に毫も撞着するの點あるを見ざるべし馬太の記す系圖は
アブラハムより始まり漸次降て「ヤコブマリヤの夫ヨセフを生めり此マリヤより基督と稱ふるイエス
生れ給ひき」と云ふに至り路加の系圖は基督より發し漸次溯りてダビデに及び更に「アダムは神の
子なり」と云ふに終る而して路加のヨセフよりダビデ迄の系圖と馬太のダビデよりヨセフに至る系圖
とは甚しく相違すれども是れ一はマリヤの系譜、他はヨセフの系譜にして共にダビデより出たりと
すれば疑惑忽ちに氷解するを得ん之に依ればヨセフと結婚する前マリヤも別に一家を有したるを推察
するに足り國法に従へば(民三六〇八一九)産業あるものは他の支派に嫁くことを許されざりし故に同
じ系統に屬するヨセフと結婚せしとも明かになるべく從て又戸籍調査の爲め遙々ヘツレムヘ來り
し譯柄をも解釋し得らるべきにあらずや則ちマリヤはナタンとヘリを經たるダビデの後裔にしてヨセ

フとは血縁上の關係を有せしなりさらば何故に馬太傳にはヨセフの父をヤコブとなし路加にはヘリと
なせるか曰くヘリは養父なりしなり今も昔も養子に己の娘を嫁するは美はしき風習にして獨娘の場
合には尙更に然ると我日本人の實際に照すも容易く人々の首肯し得る處にあらずや斯の如く基督は二
重の意味に於てダビデ王の後裔なりき
以上の如く質問者によりて提出せられたる三大問題は已に解釋せられたり即ち聖書の記事は信憑し難
き傳聞にあらずると變貌は實際にありしと二様の系圖はヨセフとマリヤの系圖にして毫も撞着するも
のにあらざると等何れも明白に證明せられたりと信す
終りに余は上述の證明に添へて幾百年間存在したる幾多の古遺物に向つて讀者の注意を惹かんと欲
す凡そ物あらば必ず其依て來れる原因なるべからず讀者は古羅馬の地下に遺れる彫刻物又は寺院墓
碑等の遺物を如何に解釋せんとするか古代の美術家が畢世の天才を集注して製作したる基督及び福音
史の彫刻繪畫等を如何に説明せんとするか若し聖書の記事が荒誕なりとすれば基督の歴史を基礎と
して著述せられたる幾千万の典籍は抑も何を意味せりと謂ふ可きか斷頭臺よりも絞殺の繩よりも寧ろ
大に嫌忌すべき十字架を取りて或は陣頭の旗幟とし或は寺院の塔上に掲げ宛がら光榮ある裝飾の如く

用ゐられるは抑も如何なる故あるか
聴けや囀明たる讚美の頌之れ古代教會に於て基督を讚美する爲め詩篇讚美歌と共に併用せられ猶太の
丘上一群の羊牧者に傳へられし天使の歌を反響しつゝ今日に至る迄玲瓏たる其聲瞬時も絶ると言ふも
のにあらずや

イエス降誕しましたればこそ世にクリスマスの紀念あるなれ、イエス復活しましたればこそ世にイ
スターの嘉節あるなれ古の安息日はイエスが前に墓下に眠り玉ふ間に暮れてイエスの復活と共に新
安息日の旭日は輝けり是イエス復活の記念にして又其證據なり否世界暦日の大時計すら一度は停止せ
られ基督此世に降臨しませる日を以て新暦日を回轉せしめヘツレヘムの星一たび靈光を放ちてより基
督の名を負へる世紀は轉轉として千九百有余年の星霜を重ねて今日に至れり見よやシーザーポンペー
の柱下に斃れて羅馬の歴史は其潮流を更め基督カルバリの丘上に寶血を流し給ひてより世界の歴史は
劃然上下二部に區分せられしに非ずや
夫れ如し聖書記者は眞理の公判廷に於て法定の手續を経て充分なる審問を受けたるに其主張に一點
偽證の跡なきを以て人物の順良行爲の方正言論の精確共に審判官の認定する所となれり

且つ夫れ彼等記者の爲めには同時代の共證者多く、異教徒猶太教徒と雖も其眞實なるを承認して之
に改宗し更に進で殉教の印章を以て其所信を保證するに至り、反對者却て有力なる種々の證據となり
又幾多の古遺物ありて此等の歴史を立證せりされば吾人は前回に論じたる如く聖書は署名の記者によ
りて記録せられ且つ事實の上に基礎を置きて叙述せられたりと斷案を下すも反對者に於て何等の反證
を擧ぐると能はざるを信するなり

十九世紀に於ける「自由」の化身アブラハムリンコンの暎して爰に二十五年今や近親朋友相謀て故人
の勳功と其時代とを叙して世に公けにしたれば必ずや其書は後世人衆に愛讀信憑せられ危かりし當年
の政界に幾多愛國の士と共に東奔西走し人生の鐵鎖を破りて自由の光明を照さしめん爲め一生を犠牲
に供し以て「平民の爲めに平民が保護する平民の政府」の基礎を堅うしたる一大偉人と一大事實とを
誠實に傳ふる正史として永く世人に珍重せらるべきなり

救世者中の救世者、萬國民の救主たるイエスキリスト杳然として人目を離れ給ひし以來一千九百年の
星霜は去り又來る春秋の花鳥と共に過ぎたれども忠且つ善なる福音の記者等が羊皮紙上書き遺す愛の
筆跡は能く主の生涯と苦死と其齋し給へる救贖の大業とを後世に傳達し得るが故に縱令世は今後幾千

万年を経過するとも「神は其生み給へる獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へり此は彼を信する者に滅ぶるとなくして終始なき生命を領しめんが爲なり」との美妙なる恩籍の聲は永へに人間の耳朵に鳴り響かん

チャールズ、ノードホッフ曰く善良なる國民たらんと欲せば基督の教訓を信じて之を實行するにあり
ゼームス、ラツセル、ローウエル曰く人生に永遠の希望を興へ現世の艱難を堪へ易からしめ死より恐怖を除去したるもの
世に救世主一人あるのみ
サムエル、マクスウェル曰く公平なる意見を有する人にして聖書を精讀せば該書の根源神にありて神と人とに對する我等の義務を教示せるものなる事を確實に理解すべし
マカロック博士曰く斯る書物をば普通人間の智慧より産出したるものと云ふを得べき其偉大なる効驗は已に此書が神より出たる事を證明して余りあるに非ずや
ハンナ、モーア女史曰く基督教は天啓教たる各種の表號を有せり、教既に天より來る、故に其目的は我等を引て天に昇らしむるにあり
ステール夫人曰く予は教主が教へ給ひし「祈禱」の外に基督教の真理たる他の證據を要せざるなり
ジョーザ、エー、セクダン曰く基督教は生ける者を高め死に預せる者を慰め以て万民の父なる神の愛を凡ての人に傳達す
シヨセフ、パーカー(初め懷疑家なりしが後悔改めて信者となりし人なり)曰く不信說に對する余の憤懣驚怖は愈々益々太甚しくなれり不信說は人心狂亂の極度にして人靈の全き破壊と零落の徵に外らず是れ余が實驗によりて知る所なり
ウヰリナムシー、ブライトント曰く基督の生涯と教訓と事業と苦難とに對して適當に表はし得可き十分なる歎美と愛と感

謝は世に之れあらざるなり

第四回

第四回 奇跡

先年ストラスブルク大會堂に極めて精巧なる大時計を据付けたるに初めの程は正しく時を指して誤るとなかりしが間もなく不思議にも動かすなりぬ是或事情の爲に製造者が 豫め秘密の巻線に觸れ若干日の後停止するやう取計ひ置きたるものなれば幾多の良工名技を招きしも之を修繕すると能はず爰に於て遠く製造者を招きしに容易く之を修理したりとぞ是れ此時計が彼れの手に成れる一證にして復雜なる機械何れの部として彼が意の儘ならざるなきを示せる者なり

吾人は新約聖書を繕き讀下未だ幾頁ならざるに此宗教の開基イエス、キリストが神意を傳へん爲めに人間の形体を取りて世に降臨したる神なりと自ら揚言せる驚く可き記事に遭遇す若此揚言にして眞實ならんには彼は明かなる方法を以て其神力を表顯し以て「神人」たる徵證を與へざる可らずストラスブルク大會堂の時計を製作したる者が任意に復雜なる機械の運轉を停止するを得たりし如く「神人」たるイエスも亦特殊の方法に依りて宇宙萬物を主宰するの權能を表示せざる可らず、然り彼は人間の生命てふ秘密中の秘密なる時計を停止運轉せしむるの大能を示さざる可らざるなり

第四回 奇跡

宜なる哉猶六人は我等に休徴を興へよ我等之を見て信せんと叫び救主は我が爲す工によりて我を信せよと宣へり「賢者は見跋者は歩み癩病人は潔まり聾者は聴き死者は復活さる」とは洗禮のヨハネに與へられたる主の證言にして「ラビ我等汝は神より來りし師なりと知るそは神もし人と借ならずば爾が行せるこの休徴は人之を爲すと能はざればなり」とはニコデモがイエスを認めて天地の主宰者なりと信じたる主要の因由なりしなり

さて吾人は推理上に於ても法理上に於ても公平に本作の審按を遂げんが爲めに先づ不信者をして奇跡に對する故障を申立てしめ然る後之に答辯を興へ以て奇跡によりて表明せらるゝ神力を論證するは當然の順序なりと信ず故に吾人は不信者中の有力なる代表者デビットヒューム、アーチストルナンの兩人を召喚し近世不可思議論の勇將たるトマスエチハックスレーをも出庭せしめ各自其意見を陳述せしむる所あるべし

ヒュームの辯論に曰く夫れ奇跡は自然法に違背するものなり然して自然法は確實なる經驗によりて成立せるものなれば奇跡なるものは此經驗に違反すと言はゞ奇跡を否認するの辯論既に充分なりと言ふも不可なし吾人の經驗に照し之を如何なる方面より觀察するも奇跡なるものは有得べきことなりと云ひ

得るの證左一もあるとなし假りに一二證明と思惟せらるゝものありとするも、同時に幾多の反證あるを如何せん凡そ人間證明の價值ある所以は經驗の有無にあり而して自然法も亦同じく此經驗によりて確實なりとせらるゝものなれば此證明と自然法とが相撞着する場合には何れかを誤りとせざる可らず故に予は論斷せん奇跡は人間從來の經驗に背反するものなれば之を有り得べきものなりと言ひ得べき理由なしと

ヒューム陳述を終るやルナン即ち起立して曰く余は我黨の辯護士ヒューム氏の所論に附加するに多少趣を異にしたる辯論を以てせんとす余は基督教の提議に係る奇跡は徹頭徹尾有り得べきものに非ずとは言はされども本件に於ける奇跡に於ては未だ充分の證據はれりと云ふを得ず凡そ奇跡を行ふ者にして其手品にあらざることを明にせんと欲せば必ず生理學者物理學者化學者等より成る審査委員を設け屍体を驗査し其眞實に絶息死亡したることを明確にし委員の指定したる場所に於て一點疑を狭むべき虞なき準備を整へ然る後執行せられたる復活の奇跡にして始めて信するに足るものとなるなり余は超自然的行爲の有り得べき事及び或人々には超自然力の存することを承認するに躊躇せざるべし然れども試験の目的物も方法も證明も共に執行者其自身に於て撰擇したる以上は之を信すべき價值ある充

分の證據ありと云ふを得ざるべしと

トマスハックスレー辯じて曰く奇跡は不可思議の範圍に屬するものなれば到底之に断定を下すと能はず
す縦し下すとすも完全なる證據を以て之を辯明する能はざる可し素より奇跡の有り得べきとに就ては我等敢て反對の意見を有するにあらざれども此事たる人間の智識を以て明知し得がたきを以て其證據に至ては得て知るべからざるなり之を要するに我等は斯る事實に關して何をも知る能はざるが故に止を得ず反對者中に席を列せざるを得ざるなりと

以上三代表者の論辯を摘要すればヒュームは奇跡は不可能なり、ルナンは證據不充分なりハックスレーは知り得べき範圍内にあらずと論斷したるに過ぎず

吾人は今や聖書中の奇跡を論證せん爲め先づ反對者ヒュームの説を調査すべし若しヒュームの論する如く奇跡にして果して不可能ならんには本件に關する論辯は全く無用に歸し訴訟は茲に却下さるべきものなり前に掲けたるはヒュームが長論辯の一節に過ぎざれども其論旨の梗概を明示して餘あり曰く人間經驗に反するとは不可能なり、奇跡は人間の經驗に反す故に奇跡は不可能なりとヒュームの前提にして若し眞理ならば其結論も亦眞理なるべしと雖ども如何せん其前提に詭辯ありて

存す彼れ曰く人間の經驗に反するとは不可能なりと然り奇跡が普通經驗の範圍を脱したるは事實なり若し然らざればイエスが神たる證據にはならざるべし然れども之を目標したる者の爲には經驗に反するものにはあらざりき若しヒュームの第一前提即ち人間經驗に反するものは不可能なりとせば從來人間の經驗にあらざりしものは一も眞なりと言ふと能はざるが故にコロンバスも船首を西にして航せざるべく又歸りて後如何に地球は圓形にして裏面に新大陸あるとを説くとも人はヒュームの原則に従ひ耳を掩ふて聴くとなさざるべしエスキモー人に向ひ四時草木繁茂して紅白の美花爛熳たる處ありと言ふとも信せざるべくシヤム人に水の表面凝結して馬の走り車の行くと恰も橋上を行くが如き地ありと言ふとも如何で信せんやもし人間經驗の範圍にあらざるものは之を信せずとならば己前の經驗に反する事實を見聞する毎に自己が感覺の錯誤なりとせざるべからず鐵片地上より飛んで磁石に附着するとも輕氣球が地より天空に昇るとも千里を距て、人相話るともヒュームが奇跡を排斥する爲めに用ふる前提によれば己往の經驗と自然法とに反するを以て悉く是れ虚偽なりと爲さざるべからず世間豈に斯る理あらんや

人間の經驗とは果して何人の經驗を意味するかヒューム自身の經驗なりや若し然らば自ら經驗したる

とにあらざれば信する能はずと云ふの意にして例へばヒュームはヴェスピアス山の爆裂したる光景を見ざりしが故に幾多の都市地下に埋没せりてふ明白なる事實を否認すと言ふの義となるを以て氏の所謂人間経験とは思ふに人類全体の経験を謂ふなる可し即ち凡そ事は人類全体の経験に合はざれば眞實なりと言ふを得ず奇跡は人類全体の経験に反する故に假令幾多の證人ありとも眞實なる事實にあらざるの意なるべしされど此の奇跡が全人類の経験に反するや否やは即ち吾人の論點にして黑白の分る所即ち此處にありて存す吾人は斷乎として言明せん曰く奇跡は古今諸國民の屢々経験したる所なりとヒューム若し眞に吾人の見解に異議を申立てんとあらば宜しく先づ奇跡が人間の経験に違反せるを立証せざる可らず然るに之を爲さずして漫然第一前提を作爲したるが故に論理の法則により其結論も亦從て無効なると推理に因て事物を處決せんとする人士の直ちに首肯する所ならん

ヒュームに就て尙一言讀者の注意を惹きたきは其論法の甚だ陋劣にして如何にもして基督教が要求する責任より其身を脱せんとするの觀あると是なり即ち彼は結論に到達する前に一度論法を股路に避け詭辯の跡を暗まし斯くて強て自己の願望する論結を得んと努めたりフイドロック會社の出版に係るヒューム論集第五百六十六頁に曰く「余は爰に一の制限を置きて諸氏の注意を促さんとす即ち余が奇

跡は不可能なりと云ふは宗教組織の基礎としての奇跡に就て言ふの意にして奇跡其者の不可能を言ふにあらざる蓋し時には人間の証明を以て奇跡又は超自然的物事を辯明し得ると無しとも限らざればなり例へば紀元千六百年一月一日より引續き八日間世界全く暗黒となれりとの紀事世界諸國の記者によりて傳へられたりと假定せよ又世界中に其口傳ありて之を信する者多く且つ外國より齋す傳説の如きも尠も此記事と撞着する所なしと假定せよ必ずや學者等は此傳説に疑ひを挟まざるのみならず却て其原因の研究に力を致すに至るべきなり而かも若し此事を以て宗教組織の基礎となさんか虚誕妄説と稱すべきものにして深く攻究するに足らざるなり」と

讀み去り讀み來れば懷疑論者の首長たるヒュームが論法首肯し難きもの甚だ多し彼は先づ奇跡に付ては一の信すべき証據なしと主張しながら直ちに鋒先を鈍らし、されど人間の智識によりて證明せられ學者亦眞實なりと首肯する奇跡なきにしもあらずと言ひ、更に其遁辭を制限して宗教が奇跡を以て神來の表徴となすに至ては拒斥せざるを得ずと斷言す此れ奇跡は眞なり難きも猶眞に眞なれとも信し難しと云ふもの彼が論據の陋醜爰に至りて極まれりと謂ふべし

言を左右にして捕捉すると能はざる此論辯を爲す者は誰ぞ其攻撃する聖書をすら熟讀したるとなしと

告白するヒニーム其人に非ずや自己の信せざる宗教も職業とならば之に従事すべしと青年に勸めたる無主義のヒニームに非ずや此撞着此詭辯を弄して恬然恥づる所なき寧ろ性むに足らざるなり

以上吾人は畧ぼヒニームが論辯の誤謬を指摘したりたれば是より進んで奇跡は果して可能なりや將た不可能なりやを叙述し以て基督教の奇跡の可能を立證するとせん奇跡の定義に就て或人は自然法の破壊なりと言ひ或人は自然の系統的順序を錯亂するものなりと言ふそは何れにあれ鬼に角奇跡は自然以上人力以外の権能により事物自然の順序に據らずして行はるゝ出来事の謂なるや明なり

さて吾人は聖書に記せる奇跡以前に於て事物必然の状態に反し又己往の経験に違背する出来事が此宇宙間に起りたるを證明し得たらんには是れ即ち奇跡なるものゝ出来得べく又あり得べきことを立證するものなり故に吾人は之が證明として暫く人間生命の起原を論せん

不信者或は言はん汝は聖書を於て其論據を爲さんとすと吾人は斯る反對家の邪推を免れん爲め先づ聖書を閉ぢチンダル、ハックスレー、デナ、ライト等の科學者と共に遠く太古に立歸り起原探求の旅行を試み地上に於ける人類の成効及び失敗の證たる幾多の遺物東方諸國の興亡埃及の金字塔洪水の事蹟等を後へに見て夫の氷結時代に遡り更に進んで Quaternary Age of the Cenozoic Time を過るり此處

に人間存在の第一痕跡を發見し尙ほ幾期限を経 Mesozoic Period 時代をも Paleozoic Period 時代をも越へて遂に Archaean time に達せん此時期に於ける地球は溶鐵の如き一種の熱塊なりしかば人類其他の生物が一も生存し得るの道理なきと現今の製鐵場にある大火爐中に於て吾人が生命を保ち得ざると毫も異なるとなし茲に於て吾人は踵を轉して再び歸路に就き Silurian Age 時代の初期に至らば初めて植物も最も劣等なる生物の發生を認めざるも未だ人類存在の跡方を見ることなし更に一步下りて Devonian 時代に至れば魚族水中に游泳し羊齒屬水面に浮漂すれども人類未だ見へず尙ほ下りて石炭時代 (Carboniferous Age) に至れば樹本繁茂し他日出現す可き人間の需用に充てらる可き石炭の豊かに準備せらるゝを見れども人類未だ見えず、愈々降りて Mesozoic Time に達せば爬蟲屬及び温帶生物の發生を認むるも人類未だ見えず次に Tertiary age 時代に及んでは有脊動物哺乳動物鳥屬の如き高等生物を見れども人類の痕跡に至りては「Quaternary」時代を境界相接觸せる氷結時代に達せざんば之を見ると無し之を要するに此時期に到達する迄は人類生存の痕跡遺物一もこれあるとなく隨つて人間と稱する特殊の動物は未だ此世に出現せざりしなり

然るに Quaternary 時代の曉に至り突如として人類存在の跡を認むるは眞に奇と云ふ何し英國、歐洲

大陸、シリア及び亞米利加等の洞穴河沼などに於て發見したる人類存在の記念物中には石にて造れる矢鏃手斧及び骨貝等に粗雑なる彫刻を施したる器物及び人間の頭蓋骨體骨等ありて明かに其存在を証明せり此突如たる人間の發現は全く自然の法則に違反したる一大奇跡なりき地上に男女の人間生存し始めしは是を顯著なる奇跡と云はずして何ぞ、彼等が遽然此世に出現せし時は成人なりしか小兒なりしかそは何れにせよ其發現は當時に於ける自然法を全く破壊擾亂したる者なりき嘗て在らざりし者現れ來りしなり、是れ豈に三才の兒童も理解し得べき論理ならずや余は近頃佛蘭西の片田舎に於て二人の少女と其從兄との間に起れる物語を聞きたり從兄は近頃迄巴理に在りて教育を受けし青年なりしが其從妹等の熱心に讀書せるを見て

「御身等が熱心に讀みつる小説は何人の作にや」

「小説ならず、神の民の歴史なり」

青年は微笑しつゝ、

「げに我も前には神ありと思ひしが巴里へ赴き哲學科學政治學などを修めしより今は神なる言葉は意味なき空言なりと思定めぬ」

少女の一人は屹と青年を凝視して

「われは未だ巴里へ行きしと無ければ哲學などいふ六ヶ敷もの學びしとなく只信仰の手引一巻を知るのみ御身今は學者となりて神なしと言はるゝを見れば卵の何處より來りしや教へ給ふと最と易からん聽かせ給へ

「奇妙なる問を尋ね給ふとよ言ふ迄もなく鶏が生みしなれ」

「では卵が先きなりしか鶏が先なりしか」

「我は御身が質問の要領を得がたけれど兎に角先きにありしは鶏にこそ」

「では卵より生れざりし鶏ありしと言ひ給ふかわれは鶏こそ卵より出で來りしと思ひけるに」

「あ、許し給へ先なるは卵なりし」

「では鶏の生まざりし卵ありと言ひ給ふかわれは卵は鶏が生みけるものとのみ思ひしに」

「げに然り能く々々考へ見れば矢張鶏こそ先なりけれ」

「鶏は卵より出で卵は鶏より生まるさらば最初の鶏は誰の手に成りしか」

青年梢や色を作して曰く

「五月蠅くも尋ねらるゝものかな御身は我を鳥屋と思ひ給へるにや」
爰に於て少女は襟を正し静かに説て曰く

「御身若し知り給はずば教へ申さん最初の鶏又は卵そは何れにもあれ其初めは天地の造主即ち我等が神と稱しまつる者の聖手に成りしなり」

と、青年悟る所ありけん否な少くとも迷ひたりけん遂に何の答ふる所もなく緘黙したり、夫れ斯の如く吾人も亦世の神學なるものが超自然的解釋に頼らずんば能く原始男女の解釋に何等の光明をも與へ得るものに非ざるとを斷言するに躊躇せざるなり

人或は是れ進化論者の解釋したる所なりと言はん吾人は斷じて否と答へん縱令假りに進化論者の言ふ所に從ひ暗夜田畔を行くが如き頼みなき徑路を辿りて種族と種族との間に存する發達の關係を究むるとするも尙は且つ生命の本源に至りては拱手默然たらざるを得ずさればこそ進化論の泰斗グルウキンさへも其生物起原論の四百二十二頁に於て有名なる一牧師の論定を承認して「神は二三の生物原体を創造し之に漸次種々の生物に進化するの素質を與へ給ひしと思惟するも或は神は一々異種の生物を創造し給へりと論定するもそは何れにもせよ共に吾人が滿腔の尊敬を表すべき高尚なる想念なり」と斷

言せる果して然らば生物の起源は神力の發顯則ち奇跡を措きて他に説明の法なきを知るべきなり
或人又問はん偶然發現と謂はば則ち如何と答へて曰く偶然發現説の如きは已に陳腐に屬し今や科學者中一人の之に加擔する者なく又有神論者と無神論者とに拘はらず苟も學者を以て自任する人々の中には先在生命より出でざる新生命ありと云ふが如き妄説に耳を傾くる者あるとなしチングル教授其名著生命始原論の結尾に言明して曰く此論文は余が八ヶ月間孜孜として専ら此問題を研究したる結果の網要に過ぎざれども余は此研究中偶然發現に關しては微弱の証跡だに得ると能はず却て幾多の反証を得たるを以て余は下等動物より高等動物に至る進凡そ生命と稱するものは必ず一の先在生命ありて之より發出せざるべからずと結論するの己むを得ざるに至れり
之を要するにダルツキンと云ひチングルと云ひ共に其結論は生命の始原が凡ての生物を造りたる者より出でざるを得ずと言ふに歸着するが故に讀者若し此結論を咀嚼せば奇跡の問題立どころに氷釋するを得べし請ふ思へ人体中に斯る精緻の機管を整備したる大能者が疾病に悩める者に觸れて其健康の常態に恢復し又斯る驚嘆すべき巧妙の視管を抽出したる全智者が盲者の哀願を容れて言下に光明を與ふるも毫も怪むべし所なきに非ずや初めに人を此地上に發現せしめし權威者が百夫長の娘をラザロ

ことを死より甦らしめ自己も亦一度十字架に死して葬られながら再び墓石を排して復活し給へるは寧ろ當然のことに非ずや奇跡は決して不可能にあらざるなり

吾人は今や更に一步を進めて最後の論點に及ばん曰く新約聖書の奇跡は事實なりや否や證據の眞偽を判定するに三個の條件則ち記者等は果して事實を知るの機會を有せしか之を判別するの能力ありしや之を陳述するに忠誠なりやの三點あるとは吾人已に前審に於て之を敘述證明したりしがいやが上にも精細ならんと欲するが故に彼等は果して事實の眞相を知悉するの機會を有したりしや否やの問題に關して聖書中より二三の事實を撰び（吾人は前數回の審査によりて既に聖書より事實を引用するの權理を得たり）具さに之を穿索する所あるべし

第一 吾人が先づ讀者の注意を惹かんと欲する點は聖書記載の奇跡が純然たる奇跡にして普通の理法によりては決して成立し難きものなることなり基督の奇跡にして夫の靜まれと命と給ひければ暴風怒濤立ちに蕭然として治まれる一事實のみならんには人或は之を暗合と云はんされど一言もて枯たる手を癒し即坐に十人の癩病人を潔め平然として海上を歩み給へる幾多の行爲を總合せは何人も其純然たる奇跡なるを拒むと能はざるべし

第二 基督の奇跡は五官を以て判別し得たるものなり基督果して神ならば人々が見て以て眞に奇跡なりと辨識し得る明確なる方法を探り給ふと素より容易にして又當然なりしなり而して吾人は基督の奇跡を見て實に其然りしを知るが故に今や暫く先きに掲げたるルナンの反對説を吟味すべし彼は基督の奇跡が生理學者物理學者化學者等の専門家を以て檢査せしめたるものにあらざるが故に之に信を措くを得ずと主張すれども凡そ法廷に行はるゝ通則に依れば普通の證人が信憑すべき證明を興へ得る事項に對しては殊更に専門家の考證を要せざるものなり裁判法に曰く「専門の研究と經驗とを要する場合は外は専門技師の證明を要せず例へば彼は泥酔せりとか打傷によりて動くと能はさりしとか云ふ如き常人の見て以て確實なる證明を興へ得る場合には殊更に専門家を出廷せしむるの要なし」と

今一例として夫の四福音書に載せられたる「五千人」の奇跡を擧げんか女子と小兒の外に五千人ありしと言へば想ふに一万乃至二万二千の群衆ありしならん假りに一人に半個のパンを興へ給ひしとするも猶五千個のパンを要し加ふるに十二の筐に滿つる程の遺屑ありしといへば如何に疑心深き者と雖も實際に之を見之を食ひし人々が常識を有する限りは此事實に對して信賴すべき證明を興ふると能はずと云ふを得ざるべし時に彼等は自ら粉を捏りてパンを製し日々之を食したる人々なれば

此奇跡に對する好箇の諸人こそ言へ證人たるの資格なしなど誣ふると能はざるなり而して彼等の證言は如何なりしか「こは誠に世に臨るへき預言者なり」と言ひしにあらすや斯くて驚嘆せる群衆は強てイエスを立て、其王と爲さんとせしにあらすや

病人を癒し死者を甦らせし場合に於ても亦常人判別の機會なしと云ふを得ず百夫長の娘ナインの寡婦の子及びラザロ等は皆なイエスが遠く他の地に在せしとき死去したる者にして彼等の病革まるや必ず之を往診したる醫士もあるべく愈々最後の呼吸を爲すや玉緒の糸切れたりとの宣告も與へられしなるべく又埋葬の準備も整ひしなるべし殊にラザロの如きは死後四日の間墓中にありしにあらすやイエス自ら十字架上に事切れ給ひし時は彼の友と其宗教を信する者によりてにあらす却て彼を蛇蝎の如く嫌忌せし敵によりて全く死せりと認められ給ひしに非ずや論じ去り論じ來ればルナンの似て非なる反對説は基督の奇跡に對して全く無効の空言たるを知るべきなり

第三 イエスの奇跡は公然衆目の視る所にて行はれたり殊に聖書に記されたる四十の奇跡は世の所謂奇跡と稱するものとは全く其趣を異にし十八ヶ所の市邑に於て會堂に街上に廣野に士民の集まれる處に幾十万の男女群集したるエルサレムの節會に學者パリサイ人祭司百夫長等有ゆる階級に屬する

人々の面前に公然之を行ひ給ひ決して人なき片隅に云爲し給ひたるものに非るなり

第四 イエスの奇跡に對しては詭騙的行動にあらざるかとの疑を容るべき餘地あるとなし、かの癒されし盲者中風癩病人等は何れも己前より衆人の熟知せる者にして快癒の後も長く基督の神力を實證する活證人として生存し各自天壽を全うして世を去りたり、又かの數多の猶六人の面前に於て甦らされたるラザロが其後ベクニヤに於て或る祝節の筵席を占め居たりしに「多くの猶六人等死より甦らされたる人を見んとて其處に來れり」と云ふに至りては何人も此奇跡の正確を疑ふと能はざるべしさればこそ基督の敵も其奇跡を見る毎に之を承認し又之によりて基督を信じたる者尠からざりき

第五 奇跡の種類と方法との夥多なることは其眞實を保證するものと謂ふべし聖書に特記したる四十回の奇跡の外に馬太傳四章の如きは「其名聲あまねくスヤリに播まりしかば人々すべての患へる者萬殊の病また痛み惱める者あるひは鬼に憑られたる者癩癩癩瘋の病に罹れる者を彼に携れ來りければ之を醫せり」と明記せり又其種類に就ては生來の盲目跛者不治の癩病、瘋癩中風其他種々の疾病を癒し果實を結ばざる樹を咀ひ海上を歩み暴風を静め三度び死人を甦らせ最後に自ら復活し給へるなど其奇跡の種類が極めて豊富なるは偶ま以て一時の詭騙に非ざるを證して餘ありと謂ふべし

第六 イエスの奇跡には一の失敗なし彼れ語り給へば事即ち成りぬ其宣教三年の間群衆は至る所彼に追隨し多くの奇跡を要求せしが敵も味方も嘗て一の失敗だに發見すると能はざりき若し一度にても此事あらんか猶太教と異教の徒は好機逸す可らずと爲し斯致攻撃の好材料と爲せしや必せり而かも基督時代及び其以後二三世紀間に出でたる不信徒の著述中能く之を言ひ得る者一もあるとなし

第七 尚ほ一の重要な事實は此等の奇跡を自撃し驚嘆措く所を知らざりし人々が直ちに其場所にて之を喧傳したると之なり 隨て基督の名聲は猶太の全地に噴々として鳴響き其行爲は人口に膾炙するに至れり或者は好奇心に驅られ或者は多年の病苦を癒されんとて許多の群衆常に基督の前後を圍めりされば使徒ペテロがエルサレムの十字街頭に立ちて大説教を試し「イスラエルの人々よナザレのイエスは爾曹の知る如く神かれに託て爾曹の中に行し妙なる能力と奇跡と休徴とを以て爾曹に證し給へる所の人なり」と叫ぶや三千と註する多數の人衆は容易く此證言を承認し直ちに「一度び十字架につけられてまた 甦りし」基督の忠誠なる門徒となりしに非ずや是れ何よりの證據なり

吾人は長談讀者を倦怠せしめんとを恐るれども尙一ノ遺漏すまじき事件あり反對者が奇跡に對する態度是なりかの猶太人等はイエスの奇跡を騙欺なる妖術となさず却て自然以上の性質あるとを認め惡鬼

の力を藉るものと思惟し彼はヘルゼンルによりて惡鬼を追ひ出すなりと云へり異教記者中にもケルサスヒエロクリスジュリアン帝の如きはイエスの奇跡を事實なりと認めたるを以て其點に於ては何等の抗議をも提出せず只可成其價値を損傷せんと努めたりジュリアン帝曰く「パレスチナの邑々に於て跋者又は啓者を治し狂人を癒したるが如き瑣細の出來事を以て偉大なる行爲なりと爲すにあらんばイエスなる者は他に譽むべき何等の動作をも爲したるとなし」と不信徒者流が斯る誹謗の毒舌を弄する中にも奇跡を認め居ると略ぼ推知すべきなり否之のみならず讀者若し眸を轉じて初世紀に於ける幾萬の異教徒と猶太人を見れば更に大なる保證あるを知るべし見よ奇跡に關する事實の真相を熟知せる彼等は之を承認するの結果として不名譽と迫害と慘死とを預期するの已むを得ざるを知らながら斷然祖先と同胞の奉じ來れる偶像と迷信を放棄してイエスキリストの宗教に入れり基督の奇跡に光明を與ふると蓋し之に勝るものあらざるべし

以上吾人は基督教の根據たる奇跡を論述すると稍々盡せりと信す吾人は既に斯教には毫も干係なき科學の論結を以て聖書に記せる人類生命の起元を研究して奇跡の可能なるに論及し進では基督の奇跡に關する記録の信憑すべき紀事なると隨て其奇跡は純然たる奇跡なりしと常人の五官を以て眞偽を

判別し得るものなりしと公然群衆の前に行はれしと騙欺なる妖術にあらざりしと奇跡の數量も種類も
 許多にして一回の失敗だも無りしと之を見たる者は直ちに諸方に喧傳して毫も疑念を狹まざるのみな
 らず却て基督敎の信者となりて奇跡の眞實を自證せしと十字架の敵すら吾人の要求を諾ひて其著書に
 之を記載せしと幾千萬の人々は猶も一教と異敎とを棄て、基督敎の信仰を容れ以て奇跡の事實なることを
 確證せしと等を詳論し概ね新約聖書に録せる奇跡の可能と眞實とを立證したりと信す
 如斯證據充分なる以上は心を虚しくして其判決に悦服するは永遠の眞理に對する吾人の義務なり吾
 人は爰に本回の辨論を終結するに際し再び前回に於て例證したるスタップス謀殺事件に對する高等法
 院判事ギンソンの判決を見るべし讀者の既に知らるゝ如く被告ウキリヤム、クラインはアイオワ州ホ
 ルク市長スタップス謀殺の嫌疑を以て告發せられしが狡猾なる刑事巡查兩三名申合せ多額の懸賞金を
 得る爲罪なきクラインを伏罪せしめんとて虚偽の申立を爲しかば哀れ斷頭臺上に永遠の恨を呑むの慘
 状を見るべき場合に立至りしに幸なる哉身分ある十二人の市民連署して謀殺の當日被告クラインが
 遠く他の地に在しとの證明書を提出したりギンソ判事が下したる判決の末節に曰く「證據の輕重強弱
 によりて事件を處決するは吾人の義務なり若し此法則を度外視せんか裁判所の必要茲に止み地上亦正

義を見るの時なからん本官は本件に關して刑事巡查と市民とが提供したる證據の數量及び性質を審査
 し茲に被告を放免す」と
 されば此神聖なる宗教に對しても自己の慢心と偏見とを棄て虚心平氣に是迄で得たる正確なる證據の
 性質と數量とを考察し以て正常なる判定を下すは吾人各自が負へる所の義務なりとす

マシニー、アノルド曰く人皆聖書に復歸す、蓋し此書なくんば彼等生活し能はざるが故なり
 トマス、カーライル曰く實に高貴にして万民の讀むべきは此書に在る之れ實に世の始より終りまで絶ゆる事なき大問題
 即ち人間最後の運命と此の世に於て人間に對し給ふ神の聖業とを教示する大記録なり
 シヨン、ラスキン曰く此書は千五百年間歐洲に於ける徳義の公認案内書なりき
 キゾー曰く不信仰と信仰の戦争に於て全然、凱歌を奏するものは聖書其自身なり
 アイザツケ、ニエートン曰く予は他の如何なる歴史よりも更に多くの實録たる表徴を聖書中に認む
 フランシス、ベーコン曰く宗教界に於て法律界に於て公衆を益すると斯る程度に及びたるもの未だ嘗て聖書の如きも
 のあらず
 ヘンジヤミン、ラツシユ曰く聖書は人生に必要なる知識を他の書よりも多く含有す
 シエームス、デー、テナ曰く科學は聖書の記録を以て神聖なりと宣言せり、神の外誰か能く永続の秘密を斯くも正確に記
 述するを得んや
 シエー、ビー、リツチャード曰く聖書の第一葉は人間の手に成れる凡ての書冊よりも優りて重きをなせり

第五回 證據物件として豫言の提出

フエルプス博士言へるとあり或る有名なる猶太學者嘗て好奇心に驅られ戯れに馬太傳(新約聖書の初
 卷)を繕きしが讀去り讀來るに隨ひ嚴かなる興味徐徐に加はりければ彼は再度之を精讀せしに顔色
 全く土の如く基督臨終の狀態の如きは殊に深く彼が注意を惹きたり、彼れ三度び此書を讀み基督の苦
 死と埋葬との章に至るや忽ち書を閉ぢて叫んで曰く「眞に是れ實事なり嗚呼かの呪はれしナザレ人こそ
 實に預言者の所謂メシヤなりけれ」と、頑固なる猶太學者をして斯くの如く絶叫せしめしは必竟基督の
 傳記と七百年前に預告せられたるイザヤの言葉と全然符合して寸毫も矛盾する所なかりしが故きり
 吾人は既に幾多の證人を出廷せしめ聖書が信頼すべき正史なることを立證し且つ寄跡に就て満足なる解
 釋を下したれば本件の勝敗は既に定まれりと謂ふも不可なけれども反對者をして一言半句の苦情な
 らしめん爲め更に別種の證據物件即ち聖書の預言を提出するとせむ
 夫れ智慧ある神は我等人間と將來との間に透過す可らざる幔幕を張り之を以て一定不變の法と爲し給
 へりされば神若し基督教の爲めに一時此宇宙の法則を打破し將來起るべき出來事を精細に預言するの

能力を特に或る人々に與へ給ひしとせば是れ即ち基督教が神の啓示に係る眞教なりとの顯著なる證據ならずんばあらず

聖書は常に預言を以て斯教の天啓なる所以の證明と爲せり耶利米亞第十八章九節には「泰平を預言する所の預言者は若しその預言者の言とげなばその誠にエホバの遣し給へる者なることを知るべし」と言ひ、彼得後書一章廿一節には「そは預言は素より人意に由て出しに非ず神に屬する聖人聖靈に感じて語りし者なれば也」と言へり故に吾人若し一箇の預言を立證せば以て敵を軍門に降服せしむるに足る是れ預言の成就は聖書が神感を受たるとを確定すればなり、基督并て「事未だ成らず我先づ爾曹に告ぐ事成らんと共に爾曹之を信すへき爲めなり」(約十四〇二九)と教へ給へるとあり、されば基督の爲し給へる一の預言を證明したらんには是れ當に基督の夫子としての資格を證明する而已ならず併せて其神性をも立證するものなり、預言と奇跡とは其關係甚だ密接なり預言は言語上の奇跡にして奇跡は動作上の預言なり一は言辭に於て一は行爲に於て何れも超自然的機能を要するものなれば兩者共に神より來らざるを得ざるなり

不信者等は預言に對しても奇跡に於けると同様の故障を提出せんとす、彼等の代表者ヒューム曰く「吾

人が奇跡に就て申立たる故障は何等の變更なくして預言にも應用すべきものなり」と反對者は一同此故障に賛同せり、さり乍らさすがの不信者等も預言と其成就を共に否認するの勇なしと見へ或者は預言を拒み或者は其應驗を拒めり、夫のボーフィリーの如きはダニエルの預言が餘りに能く事實に契合せりとして其預言を疑ひ、ペインの如きはダニエルの預言を信するも之に應驗したる事實を疑へり彼等は其否定に對して何等の證據をも提出せざるを以て其否定の効力は極めて薄弱なると同時に却て彼等兩人の説を總合せば預言成就共に眞實なりとの自由を得るものと謂ふべきなり

夫れ回々教と云ひ佛敎と云ひ共に似て非なる奇跡を以て世に其宗教を推薦せんと試みたれども基督教の如く正確なる預言と奇跡との銳利なる二種の神器を以て武装せる宗教は他にこれ有ざるべし、吾人は今預言を提出して審問の材料と爲すに際し豫め預言を管理すべき完全なる公則を列擧すべし

第一則、預言は事實の起る以前に於て洩く世人の知る所とならざる可らず事實經過の後に於て始めて斯々の預言ありなき言ふは眞個の預言に非ず故に第一則は預言の眞否を吟味する上に重大の關係あるとを記憶せざる可らず

第二則、預言が指定する事柄は人智を以て想像し得べきものとは全然其趣を異にせざる可らず、若

し人間の經驗想像及智慮によりて推斷せらるる事實ならんには是を稱して超自然力の表現とは言ふ可らず博士エラスマス、ダーウインは十八世紀の詩人として又科學者として一頭地を抜きし人なるが非て「世はやがて蒸氣を利用し船車を走らしむべし」と歌ひたり斯る事實は學問上當然の豫想にして決して預言と稱するを得ず其他風候の觀測に長したる者が豫め暴風雨の警報を發する如き必意觀察と熟練との結果にして超自然的預言の資格を有するものに非ず

第三則、預言には曖昧の點則ち二様の解釋を下し得る言辭ある可らず偶像教の所謂神託と稱するもの又は偽星學者妖術者等の大膽なる似而非預言は實に此種に屬せり詩仙ミルトン嘗て之を筆誅し彼等は「曖昧にして幾多の意義を含める言語を操り以て世人を蠱惑せり」と罵倒したるとあり

リナイヤ王クリーサス軍をペルシヤに進めんとするやト者を招きて預言を請へり、彼答て曰く「クリーサスは有力なる一國を破滅し歸せん」と、クリーサス謂らく我れサイラスの王國を破滅せん」と、實にや彼は有力なる一國を破滅したりしが其破滅したる一國は即ち自己の王國なりき、而かも此ト者は平然として我言の中せりと揚言するを得べし、彼が意義には二様めればなり讀者若し少しく聖書を研究せば神の奇跡は斯る意義漠然たる謎の類に非ざるを知らん

第四則、眞實に神感を受けたる預言者は其預言の神より來れることを示すに足るべき公明正大なる言辭と態度とを以て之を發表せざる可らず、然らずんば彼が表白する豫知は必竟人間の空漠たる想像に止まるごしも見ゆべければなりされば預言者イザヤは「天よ聽け地よ耳を傾けよ主エホバ勅り給へばなり」てふ威嚴ある言辭を以て其使命を開陳したり

第五則、預言には明白完全なる應驗（成就）なかる可らず、若し應驗なくんば其預言の眞否を規定するの標準なければなり

以上列擧したる五條の法則を適用して毫も間然する所なき預言は即ち是れ神來の預言たる十分の證據を有するものと謂ふ可し

吾人は今や聖書中の預言に此法則を應用し以て其眞否如何を檢査すべし

第一、吾人は先づ耶穌基督に關する預言を吟味せん讀者請ふ記憶せよ大部なる舊約書は其末卷と雖も基督降誕を去ると遠く四百年前に書き了られたるものなることを、如何なる苛酷なる批評家と雖も該書中の各卷が基督降世前少くも二百年に於て廣く世に行はれしとを歴史に徴して容認せり、然らば吾人は先づ此過去の世紀に溯り果して如何なる事の預言せられしかを見ざる可らず、曰く一個の顯著な

る品性を具したる者猶太に出でん其人は「メシヤ」として世に知らる可し、彼は人間の罪過を拭去るべき救拯の道を携へ來らん、一個の先驅者彼に先ちて出で「主の途を備へよ」と絶叫せん、彼はヘツレヘムに於て處女なる母より生れん、第二の宮殿の尙ほ存する中に來らん、ユダの種族中より出でん、タビデの後裔として生れん、ガリラヤに於て其任務に就かん驚く可き教師たらん、比喻を以て教を説かん「其上にエホバの靈即ち智慧聰明の靈謀略才能の靈知識の靈エホバをおそるゝの靈といまらん」正しく人間を教導する權威者の如き態度を以て人を誨へん喜ばしき音信を説かん、失望せる者に慰籍を與へ、惱める者の良友たらん、盲者に明を與へ聾者を醫し啞者を治し跛者を歩ましめん、柔和温厚にして人之に親近するを得ん、罪惡を叱責せん、人の如く墮落すると無らん、正義の勇士たらん、自ら神なりと要求せん、其徒弟は貧しく且つ卑しからん、世より好まれざらん、數多の敵を有し惡み且つ苦しめられん、非常なる苦難の生涯を送らん、其面貌は損れつらん、悲哀の人にして親しく苦痛を嘗むるならん、驢馬に乗り凱歌を奏してエルサレムに入らん、似て非なる一人の友の爲に敵の手に付されん、銀三十にて賣られん、此三十の銀は陶工の手に入らん、背を背たれ頬を打れ又其面に唾せられん、羊が其毛を剪る者の前に在る如く沈黙服従せん、手足とに釘たれん、遂に殺されん、され

て其骨は一だに碎かるゝと無からん、敵は彼れの苦痛の中に彼を嘲り罵らん、彼れ渴ける時彼等は醋を飲ましめん、彼の上衣は圍にて彼等の間に分たれん、彼は人間の罪惡過失の爲めに其身を傷けらる者なれば單に肉体の苦痛のみならず精神上の苦痛も亦一層激甚ならん、彼は「我神々々何ぞ我を棄て給ふや」と叫ぶならん、彼は人々の罪を赦して義なる者と爲らしめん、彼は一個の罪人として死するも富める人の墓に葬られん、其死体は腐敗せずして天に昇らん、基督の來臨に關する舊約書の明白なる預言は實に三百三十三回の多きに及べり、吾人は前項に於て其六十を擧げたり看よ暖味なる陳述とては一も之れあるとなし、而かも一樣に基督の生涯の外には未だ曾て世にこれあらざりし一種特別の生涯を表示せり嗚呼何たる高貴の品性なるが、驚くべき行爲と言語、比類なき智慧と權威、罪惡を憎めども罪人にやさしく、神なりと自ら宣言すれども平然として困苦に服し死と墓とに打勝ちて天國に凱旋す、是れ神來の權能と超絶と威嚴を證する紛ふ方なき證據に非ずして何ぞ若し夫れ世の文學に神の高貴なる品性を明白に開陳したる記録ありとせば聖書の預言こそ則ち其ものなるに非ずや

以上列擧したる預言中に表るゝが如き事實は人間普通の觀察の能く及ぶ處に非ざるや言を竣たず、否

な寧ろ人間の豫想に違反する事實なりとす、彼は神なれども人間の爲めに殺されんと言ひ、ベツレヘムに生まるれども其母はガリラヤに住まんと言ひ、其心清く慈悲深くして人々に愛せらる可き品性を有すれども痛く憎まれて遂に殺さるべしと言ひ、罪人として殺さる、貧しき者なれども富める者の黨に入らんと言ひ、處女なる母より生れんといひ、殊に七百年前に於て精密に三十の銀にて賣られんと明言するが如き、一々數へ來らば誰か此豫言の奇異なるに驚かさらん、且や基督の降誕前千四百年より四百年迄即ち一千年間に於て斯る豫告を與へられしを思は、以上の豫言は全く人間想像の範圍外にあると火を見るよりも明かにして何人も容易に超自然的権能の其中に働きたりしを知るべきなり

吾人は爰に新約奇跡の眞實なるを見、又舊約豫言の眞實なるを見たり斯る隔離せる二つの時代に於て斯くも精細に契合せる一大出來事を見出せしめたるは必竟是れ全能の神が救拯の大道を確立せんとして特更に備へ給ひし感謝すべき一大方法なりと結論するの外なきを信するなり

第二、吾人は今や猶六國民に關する預言を視察すべし、此預言は聖書の各處に散見せり、三千餘年前の著述に係る申命記(二十八章)には「エホバ地の此極よりかの極までの國々の中に汝等を散じ給はん其國々の中において汝等を散し給はん其國々の中において汝等の安寧を得ず又其足の踵を休むる所を得じ此國々にて汝等は人の詫異む者となり諺語となり諷刺とならん又汝は諸の國にて虐遇にあはんと記され、亞歷書九章九節には「我れ即ち命を下し諸にて物を飾ふがごとくイスラエルの家を萬國の中に於て飾はん一粒も地に落ちざるべし」とあり、何西阿書三章には「イスラエルの子輩は多くの日王なく君なく犠牲なく表柱なく「エボテ」なく「テラビム」なくして居らん、その後イスラエルの子輩はかへりて其神エホバとその王ダビデを尋ねもどめ、末日におのゝきてエホバとその恩恵にむかひてゆかん」と明言せられたり

夫れ猶太國民が己に滅亡し了れると及び其滅亡せるにも拘らず猶特殊の一國民として世に存在するとは讀者の知悉する所にして斯る奇怪なる事實は諸國民の歴史中他に類例あるとなし、看よ彼等は預言の如く「諸國民中に散らされ」たるに非ずや、彼等は世界至る所に於て其市民なれども、さりとして世界中何れの國の市民にもあらざるなり、彼等が「國なきの人」にして一定の國籍を有せざること今や世人の熟知する所となれり、彼等は先きに處として漂遊せざるは無かりしが今日も尙ほ同一の漂遊を繰返しつゝあるなり、紀元七十年エルサレムの滅亡以來彼等は東離西散諸國に客寓し其身心を安しす可き場處とては一も見出す能はざりしなり、爾來今日に至るも尙「地の極より地の極にまで散され」

「篩にて物を篩ふが如く萬國民の中に於て篩はる」と真に預言の文字の如し、且つ一人に驚異しまれ諺語となり諷刺ならん」とこの預言は正に應驗的中し、猶太人の狡猾、貪慾、吝嗇、富有等は今や天下諸國の諺語と爲れり

然らば彼等は果して預言に言へりし如く困苦に遭遇したりしか、然り大に然り、吾人は彼等が諸國民より受けし迫害、禁錮、盜難、殺戮、追放等の歴史を想ふ毎に未だ曾て心膽を寒からしめずんばあらず、試みに悲惨なる彼等の歴史を一瞥せんか、紀元七十年羅馬人に打滅さるゝや或者は殺戮せられ或者は奴隸と爲られ或者は處定めず打棄てられたり、百七十年に至りてはルシアスの爲めに虐殺を肆にせられ百三十五年にはバーコクバの爲めに其都市を滅ぼされ、三百五十二年にはシーザー、ガリアスに苦められ、四百十五年にはスイルルの爲めにアレキサンドリアより追放せられ、百年(四百三十年より五百三十年迄)の間はペルシヤにて迫害を受け、五百二十年頃にはイタリーに於て羅馬教徒に苦められ、五百二十八年にはチャスチニアンンの爲めに邪魔物視せられて法律の保護外に置かれ、六百十二年には西班牙に於て迫害せられ、六百二十三年にはモハメットの爲めにメデイナより追はれ千十年には佛國に於て迫害を受け千九十六年には日耳曼に於て十字軍の爲めに掠奪虐殺を肆にせられ千百

八十二年にはノイリツプ、アウガスタスの爲めに佛國より追はれ千八百八十九年には英國のヘンリー二世の爲めに巨額の資産を奪はれ倫敦に於て虐殺に遭ひ千二百年にはジョン王に困められ千二百五十年にはララン會議によりて特別の服装を命せられ、千二百三十六年にはフルグに於て虐殺せられ千二百九十年にはエドワード一世の爲めに英國に於て絞罪又は追放の刑に處せられ、千三百年にはノイリツプの爲めに財産を没收せられ又フランスより追放せられ、千三百四十八年には悪事を爲せりと認められ大陸に於て虐殺せられ、千三百八十九年日耳曼に於て迫害せられ産業を奪はれ、千四百九十二年西班牙と葡萄牙に於て千五百四年チープルス及びシ、リーに於て千五百二十年ブレーグ及びボヘミヤに於て追放の命を受け、千五百九十六年には法王バイアス五世の爲めに法王の領土より追はれ、千六百十五年ルイ十三世の爲めに佛國より千七百九十五年魯國より追放せられたり、諸者若し彼等が受たる斯る非運の終始を知悉せん爲め一度び年代記を繙かば更に幾多の事實蹟を接して彼等の頭上に襲ひ來りしを發見すべし

夫れ然り然れども猶太人には他日再び一國民として恢復せらる可き時期あるを以て斯る慘苦の間にありても尙ほ全く滅絶せざるのみならず常に他國民と混同するゝなく何れの地に在りても殊に區別せら

れたる特異の團體として生存し回復の期到るを候ちて世界各地より選出集合せらる可きことを此預言中に告示せられたり讀者の知る如く米國に移住せる諸國民が互に相混和するの程度は極めて急速にして忽ち其本族の性格を失却するを常とす故に米國の市民が其祖先の誰なるかを調査して數個の異なる國民の後裔たるを發見するは寧ろ珍事とするに足らず、然るに猶太人は千九百年間諸方に客寓して幾多の國民と共に雜居せるに拘はらず、正當に自己のものと稱すべき中央神殿をも犠牲をも君主をも政府をも住所をも有せざるに拘はらず、他の人種及び國民を鎔解滅絶したる迫害の烈火斷えず彼等を圍繞せるに拘はらず、千二百萬の巨數を有せる彼等の一體は毫も他國民と同化するとなく其特質は依然として昔日の如く又彼等が有する天然の相似は嘗て損傷破壊せられしとなし、之を要するに彼等は種々の鎔解力によりて屢々細微分子と爲されたるに拘はらず常に強烈なる親和力を以て能く之に抵抗し、現今の如き人種混合の甚しき時代にも尙は容易く自己を區別するを得るは奇中の奇とも稱す可き世界の一大事實なりとす、是れ必竟彼等は幾千里を隔て寒暑を異にする異境に客居するとも天の聲再び彼等と呼ばんには忽ち之を一處に集合せしむべき準備常に整へるを證するものなり試みに眸を轉じて他の諸國民を觀よ主が嘗て語り給ひし如く彼等は全く其終焉を告げしに非ずやアッ

シリヤ人今何處に在る、カルデヤ人今何處にある、マセドニヤ人は埃及人を滅し羅馬人はマセドニヤ人を滅しゴス人は羅馬人を滅せり而かもゴス人は今何處にある乎と問はば明かに答ふる者なかるべし然るに猶太人は幾世紀間國民的破船に遭遇せしに拘はらず、彼等が其築造に與かりし埃及の三角塔の萬古變らざるが如く依然として世界萬國民中に存留せり、フレデリツキ大王嘗て或る學者を召し最短の言語もて聖書の確證を示せと命じければ彼は立きこゝに「陛下猶太人は即ち其證明なり」と答へしとぞ、實に然り此事たる千八百年前に一度び行はれし奇跡に非ず、千八百年間連続して今日に至る迄吾人が肉眼を以て目撃し得べき一大奇跡にして萬國民は即ち是が證人たるなり

第三、吾人は新約書中の幾多の預言中より尙ほ一個の適例を擧げん即ちエルサレムと其宮殿の滅亡に關する基督の預言にして馬六傳廿四章、路加傳廿一章及び馬可傳十三章に詳述せらるるもの是なり是等の記録に依れば基督は少くも此事件に就て廿五種の精密なる預言を爲し給へり、斯る預言は神來の「インスピレーション」なくして出來得べきものにあらず特に此顯著なる預言を叙述したる馬太は凡そ紀元三十年に路加は六十年に馬可は六十七年に之を世に公にし、且つ馬太も馬可も共にエルサレムの滅亡前に死去したると讀者の既に熟知する所なり

さて此預言の成就に就ては何人の證明ありや、當時の有名なる猶太の學者ジョセフアス(滅亡の當時猶太の將軍にして羅馬人に生擒せられたる人)の火を見るよりも明なる証明ありて存す、彼はタイタスが聖都を劫掠せし時親しく之を目撃したる基督教の反對家なれば彼が證言は吾人に取りて二倍の効力あるなり彼はタイタスに伴はれて羅馬に往き其處にてかの有名なる歴史を編纂したりしがタイタス之を閱讀し其記事に寸毫の誤謬なきを見自ら之を公にせり、彼が信用す可き價値ある歴史家たるは今更言ふ迄もなし故に彼れの記する所全く基督の預言に契合したらんには是れ預言の成就したる確證にして世亦助る確實なる証據あらざるべし吾人は又史家タシタス(羅馬人にして異教徒なり)及びギッポン(英國の史家にして懷疑論者なり)の諸名家を證人として召喚しユダヤの滅亡史を演述せしむるを得べし、夫れ斯如く反對者の方面より蒐集し得べき許多の証明あるを知らば如何なる讀者と雖とも釋然首肯せざるを得ざるべし

吾人は今や試みに預言の項目廿五件と歴史上の事實とを對照比較せん

第一、數多の偽りのメシヤ起るべし

第二、彼等は數多の人々を欺くべし

第三、彼等は人民を荒野又は密室に誘ふべし

ジョセフアス記して曰くシモン、メーガス、ドシシアス、シユダスの輩自ら基督なりと揚言せしが其後斯る偽教師幾人どなく現はれ多くの男女を曠野に誘ひたり、エルサレムの圍まるゝや數多の士民は偽預言者に導かれて宮殿の奥室及び密室に入り斯くて羅馬兵の爲めに滅ぼされたりと

第四、戦争及び戦争の風聞起るべし

基督の斯く語り給へる當時は猶太全國のみならず四隣亦一般に平和にして毫も争亂の虞れあらざり然ると彼れの死後間もなく不穩の氣風國內を吹き荒らし、猶太人はローマ人に反抗し、アレキサンドリアに於てもカイザリヤに於てもダマスコ、タイル、トレミー、シリアの各地に於ても激烈なる争亂起りたりと是れジョセフアスの記す所なり

第五、饑饉及び疫病あるべし

ジョセフアス及びタシタスの歴史によれば猶太に於て七年間の饑饉あり、バビロン及び羅馬にはエルサレム滅亡前五ヶ年の間疫病所々に流行したり

第五回 證據物件として預言の提出
猶太に於て非常に激甚なる震動ありしがクリート以太利小亞細亞等に於ても亦た此災厄ありき
第七、恐る可き形象現はる可し

ジョセフアス叙して曰く劔に似たる一星聖都の上に現はれ又一年間断えず慧星を見たり加之ならず聖都の東門は非常に大きく之を開くには二十人の力を要する程なるに此門自然に開き兵車軍卒夕陽の雲間に現はれたりと、タシアス亦た同一の記事を載せたり

第八、使徒及び門弟等は迫害を受くべし

エルサレム滅亡の約六年前テロ帝は羅馬市を燒きて罪を基督教徒に歸し、幾千人の教徒を殺戮したり又ステパノ殉教の先登者となりし以來其跡を追ひし者擧げて數ふ可らず敬虔なる使徒の如きも天啓を全ふしたるは唯約翰一人ありしのみ

第九、弟子等は互に相背く可し

タシタス曰くテロ帝の迫害に際し夥多の教徒は其伴侶なる教徒の背信によりて痛く恐慌を感じたりと第十、福音は凡ての地に宣傳せらる可し、

弟子等は五旬節に於て外國語を操り得る特殊の賜物を受けしにより福音宣傳の道は急速に開かれたり

又信徒は迫害の爲めに各地に散居するの悲境に陥りしが偶々以て廣く斯教を傳ふるの便宜と爲れり

リニー、タシタス及びパウロの證明によれば福音は當時世に知られたる凡ての國々に汎く傳りたり

第十一、エルサレムは軍卒に圍まるべし

タイタス及び其軍隊が全市を圍みて之を陥れたるは讀者が史に徴して疾く知了せる所なり

第十二、破壊は電光の如く東より西に近づき來る可し

軍隊は東方のオリヴェット山より押寄せ來りたり、

第十三、驚、屍に集る如く集まらん

羅馬の鷲は其軍旗に表はれて聖都を蹂躙し遂に全く此預言を成就したり

第十四、聖所を潰すべし

此れ異教徒が神殿に其軍旗を懸し聖所を暴らしたるにて知らるべし

第十五、濠と堤を聖都の周圍に設くべし

是れタイタスが顧問官の諫言を採用せずして造りしものジョセフアス之を詳述せり

第十六、エルサレムの圍まるるや非常なる災難あるべし

シヨセフアス曰く斯る不幸を蒙りたる都市は他にありとなし又世の初めより罪惡其効を奏せし事も此時より甚しきはなし當時非命の死を遂げし人数の多きと古來未だ其比を見ずと、

第十七、聖都は掘り下げられて低地と均しくせらるべし

シヨセフアス曰く聖都を發掘し普通の低地と高低なからしめたり（全市破壊せられたり）されば此地に來る者をして先きに住民ありしと想像せしむるもの一物もあらざりしと

第十八、宮殿は一の瓦石をも残さずして取崩さるべし

此預言は讀んで文字の如く應驗したり見よ其城壁は二十「エーカー」の地を圍み東方の如きは谷より高きと殆ど八十尺に達し多く巨岩を用ゐたれば其建造堅牢を極め長さ六十五尺高さ八尺巾十尺の大理石すらありき、而かも是等の諸物悉く破壊されて一物も其跡を留めざるなり、

第十九、キリスト教徒は軍隊が聖都を圍める間にエルサレムを逃れ去らん

軍隊が聖都を圍める間に逃れ去らんとは寧ろ怪しむ可きとに非ずや、されどシヨセフアス録して曰く敵を圍めるセスチアス、ガリーリヤスは不思議にも突然退軍せしかば教徒は此機に乗じて遁れ出でたりと

第二十、聖都圍まるゝも基督教徒は皆安全ならん、「汝の頭の髮一莖だに亡ぶるとなし」

吾人は初世期の教會史によりて凡ての基督教徒がヨルダン河の彼方なるベラ山に逃れしとを知れども攻圍の爲めに非命の最後を遂げし信徒は如何なる歴史に徴するも一人だにありとなし

第二十一、猶太人は劍にて殺さるべし

シヨセフアス曰く此恐ろしき攻圍に於て死せし者の數は實に百三十万にして其大多數は劍にて殺害せられたり

第二十二、猶太人は捕虜となるべし

十万の猶太人はエルサレムより他の地に賣渡され容貌秀麗なる者はタイタス勝利の入城に勢威を添へんとて市内に留置かれたり

第二十三、異邦人の時充つる迄聖都は彼等の爲めに蹂躪せらるべし

果せる哉聖都は今日に至る迄異邦人の蹂躪する所となり世にエルサレムの如く暴され捕はれ掠められ破られ又再び建られ再び壊はさるゝ事の頻繁なる他に比例を見ず基督此預言を爲し給ひし以來聖都は羅馬人、回教徒、十字軍、佛人、等の所領に歸し今は土耳其帝の配下にあり、猶太人は健氣にも之を

第五回 證據物件として預言の提出

回復せんとて刀劍と黄金を用ひしかども毎次失敗に終るの外なかりき

第二十四、基督はエルサレム滅亡の悲劇が當時生存したる人々の時代に演せらるべしと斷言し給へり

此斷言に違はず萬ての事當時生存したる人々の生涯中に起れり

第二十五、基督曰く是れ復讐の日なりと

聖都包圍以來今日に至る迄猶太人種は基督を拒み且つ殺したる大罪に對する神の審判を受けつゝあるなり、昔時彼等は預言者を拒みし罪によりて七十年間俘虜の身となりしが今や預言者よりも更に大なる者即ち神によりて即ち永く告示せられし「メシヤ」を厭ひ且つ之を殺したる極惡非道に對する苦き審判の經驗を嘗めつゝあるなり

以上畧ぼ吾人は聖書預言の證據を陳述したり讀者若し心を凝めて預言てふ琴より出づる美妙の音曲に耳を傾け又目を開て猶太人種と其歴史及び現狀と彼等が日々其預言に應驗しつゝある情態を見又エルサレムの廢都と其滅亡に關する基督の精確なる預言を考察し且つ異邦人が今尙ほ聖都を蹂躙せるの事實に思到らば斯教が神の啓示に係る眞宗教たるを會得せざらんと欲するも得ざるべし

第六回 證據物件として結果の提出

サー、ジョン、ハーセル曰く人間の發明は何れも皆聖書にある眞理を一層確實に證明するに過ぎず

シエーモン、デー、テナ曰く神の自ら著し給へる古書（地球）今尙存せり吾等は之を精讀（攷究）するに隨ひ彌々聖書の眞理の理解せらるゝを覺ゆ

トマス、テック曰く聖書に記載せる宗教を注意と謙遜とを以て研究せば必ず其超自然的基礎を十分に確かむるを得べし

教授デー、エム、ミラチエル曰く世の最も驚く可き一書は疑もなく聖書なり

フランシス、ポーツェン曰く予は世界を創造して之を司配せる活ける神の備ち足れる徳を具ふる我等の主イエスキリスト

敬慕をば堅固のなる信仰と自覺を以て踏踏するとなく之を受理す

サムエル、ジョンソン曰く青年よ請ふ基督を信じて日々聖書を熟讀せよ

第六回 證據物件として「結果」の提出

米國の首府ソントン市に於て旅客の目を惹くべき場所の一は蓋し特許局ならんか、來觀者等は場内に陳列せられたる一見極めて精巧なる無数の設計及び意匠が徒らに小規模の標本として玻璃匣中に納められ毫も實用的形体を帯びて實際の世界に顯はれ來らざるを見て一驚を喫するならん是れ標本としては好良なるも大仕掛の器械としては摩擦加はり製造費嵩み使用費亦甚だ多額にして遂に其豫期したる利益の結果を得ると能はざるに丁るを以て欺る發明品は多く世間の知る處とならず空しく塵埃中に埋めらるゝを常とすされば此器械は果して實用に適するや否やてふ問題は發明者若くは來觀者の心中に浮び來る可き自然にして亦極めて必要なる問題なり今や吾人は基督教てふ幾世紀の間世に存在せる一種の宗教組織を吟味するに際しても其果して實用に適するや否やを問ぬるは自然にして又適切なる疑問なりとす

吾人は新約聖書の著者及び其記事の信憑すべき事に就ては既に満足なる證據を得又二回までも之を實證したり

されば今や吾人の疑問は基督教が天啓教なりとの證據は更に之を其結果に求むるを得可きや否やを確むるにあり吾人は此興味ある研究講壇に於て基督教をして千九百年の實歴を語らしむ可きなり

さて基督教歴史の思慮ある研究者の注意を惹く可き第一の事實は其發達の急速なるに廣大なるにあり斯く言はば反對者は直ちに曰はん他の宗教も亦廣く且つ速かに其教を宣布したり請ふ基督の後六百年に起りし回教の勢力如何を見よノツカを臨みて日々禮拜する二億に近き信徒あるに非らずや又世には佛教神道儒教等を信する幾億の民衆あるに非らずやと

基督教は對て曰ふ單に數のみを以て言はば論者の言或は眞ならんされど種々の要點に於て基督教の宣布は全く斯る異教と其趣を異にせる者あり、一事を擧げて言はば教訓と勸誘と犯す可らざる特殊の威嚴とを以て其教を布き敢て不當の方便と手段を採らざりし宗教は只此基督教あるのみ夫れ神より來れりと公言し人類の進歩を以て唯一の願望とする宗教を傳へんどの高尚なる志は基督が「万国に行きて福音を宣べ傳へよ」と其弟子に命し給へる時までには普通人間の全く夢想せざりし所なりかの回教の如きは徹頭徹尾劍の勝利にして人心の自由撰擇によれる勝利には非ざりき其懷抱せる主要の目的は宗教的信仰に非らずして政治的成功にありき故に異虐と鮮血とは則ち之を告白する證書とも謂ふ可

かりしなり且又困難と障礙とを排除したる點に於ても基督教の如きは一も世にあるとなし初めて基督教を世に紹介したる人々は常に財力なく交友なく又廣く公衆に知られて之が補助を受けるが如き機會なき而已ならず却て世より嫉妬輕蔑せられたる卑賤の儕輩のみなり其力薄弱其地位卑下なりし彼等は偏へに斯教の信仰に信賴し憚る處なく高慢なる猶太人と頑固なる多神教とを攻撃し彼等の罪惡を警戒して假す所なかりきペテロ、ホーロの説教を檢査し來らば最初の布教者等は富貴權勢の顯著なる地に赴き富も力も無き身を以て専ら聖靈の力に頼り基督の傳記を基礎とし彼に關する預言と其生涯と苦死と復活とに關する事實を擧げて説教し以て幾千人の改宗者を得たりしなり、されば「最も不相應なる人々が最も不相應なる教義を以て最も不相應なる方法に依りて世を改宗せしめたり」とは能く當時の實狀を穿ちたる名言なり且又最初の布教者等は身自ら最も嚴格なる克己の行爲を實踐したるのみならず彼等によりて福音を傳へられたる人々にまで同一の克己を要求したりし事と幾多の悲酸なる迫害が常に其進歩を妨害せしと當時に於て基督教を受くるは耻辱と苦痛と慘死とを意味せしとを記憶せざる可らず之を要するに最初の三百年間は猶六人と異邦人とが相激うて基督教徒を嫉妬迫害し老幼男女を問はず一様に此慘害を嘗ざるを得ざりしに拘はらず福音の進歩は此等の諸世紀に於て烈火と鮮血

この中に歴々其跡を認むるを得べし
然るに不信者中には好んで基督教と回々教の進歩を比較し其間に大なる優劣なしと思惟する者あるが故に吾人は茲に少しく此兩者を對照せん
回々教は第七世紀に於て戰闘を好む愚昧の人民中に而かも知識上最も暗黒を極めたる時代に於て起りしが基督教は之に反し古代に於て最も開化したる又最も知識の發達を遂げたる人民中に起りたり甲は其國の最高く最も著しき家族中の一人によりて開基せられ乙は最も賤しきナザレの一家に生れたる一人によりて基礎を据へられたり甲はユダヤの昔物語とアラビヤに行はるゝ迷信とを混同し以て散漫簡易なる道徳の法規を造り肉慾の生涯を許し快樂の未來を説き種々の腐敗せる嗜好と情慾とに耽る禁せず乙は理想を高めて劣情を抑制し努めて嚴正なる克己と道徳上の純潔とを守るべきことを命じたり甲は奇跡若しくは預言の如き神來の譚表なきも乙は斯る重要な證表に富めりマホメットは其門徒に安易幸福の生涯を約し基督は其信徒に損失と迫害と苦死とを約したり前者は其弟子を率ゐて戰闘に従事し後者は徐ろに平和の福音を説きたり前者は迫害と辯論とを斥け劍を抜くに非ずんば毫も其進歩を見る能はざりしも乙は溫和なる教訓と辛苦を厭はざる忍耐とによりて當時の所謂全世界に幾十万の改

第六回 聖蹟物件として結果の提出 百十
宗者を得たり前者は幾方の軍卒と刀剣とを以て新領土を開拓せしも後者は艱難に耐へ犠牲となり平和を旨として勝利を得たり前者は信徒の邪惡貪慾墮落殘忍を看過し後者は信徒の品性を涵育し正義順良の男女たらしめたり

吾人は之より進んで少しく斯教の發達を叙述すべし
基督の弟子等ベンテコスタの日初めて之が宣教に着手するや其日三千の人衆一時に悔改の實を表せしが此數は忽ち増加して五千人となり又エルサレムと其附近に於ても數多の男女數多の祭司等相率ゐて之に歸依したり、かのステパノが教に殉せし以後改宗者等は多く四方に撒散されしも三年を経ざる内に猶太ガリヤサマリアに多くの會衆を有する教會を見るに至れり又基督の死後未だ三十年を経ざる内に幾多の教會エルサレム附近の市邑に起りしのみならず福音は己に小亞細亞、ギリヤ、イジヤ海の諸島、アフリカの南岸等に傳播し以太利及び羅馬等にも及びり其他シリヤのアンテオケに於てヨツハに於てエペソに於てコリントに於てラサロニケに於てペリヤに於てイコニアムに於てデルベに於てビシテヤのアンテオケに於てリダゴサロに於て多數の會衆を得又カイザリヤ、ツロ、アデニス、ピリビ、リストラ及びダマスコに於ても幾多の改宗者を得たり

其後四十年を経て吾人が先に引照したるトラジヤン帝に贈れるブリニーの書翰を見れば基督教は遠くユダヤを離れてポンタス及びビシニヤの地方に早くも既に擴まれるを知るべしブリニーは該地方の民衆が男女老幼階級を論せず相競うて斯教に入れるを非難したり斯て彼が「迷信の傳染」と叫びし宗教は晉に都會のみならず僻陬の村落にも宣布せられ偶像教の殿堂は殆ど廢屋と化し隨つて其禮拜儀式共に廢棄の狀を呈したり

ブリニーの後三十八年即ち福音が異邦人に傳へられてより第一百年ジャスチン、マターは基督教傳播の盛況を叙して「凡そ磔殺せられたるイエスの名に依りて宇宙の造物主に祈禱感謝を献ぐるの徒を有せざるの國土は文野を論せず世界一箇所も之れ無きに至れり」と言へり
其後二三年を経てアレキサンデリヤのクレメントは趣味に富める筆を以て左の如く記せり「希臘哲學の教はギリシヤの邦土に限られしも基督の教義は其産地猶太を出で、漸次全世界に擴まり諸國の都市村落に於て無數の男女を改宗せしめたり夫れ希臘哲學を禁せんとならば我等直ちに其跡を絶つを得べし然かも基督教は大に其趣を異にし各國の君主其臣民と協同し全力を盡して之が撲滅に従事せしにも拘はらず却て益々現時の隆盛を致せり」といふ

左に記する信徒の員数は歴史の記録する所に據りて編成したる最も信憑す可き統計なり

- 第一世紀五〇〇、〇〇〇
 - 第二世紀二、〇〇〇、〇〇〇
 - 第三世紀五〇、〇〇〇、〇〇〇
 - 第四世紀一〇、〇〇〇、〇〇〇
 - 第五世紀一五、〇〇〇、〇〇〇
 - 第六世紀二〇、〇〇〇、〇〇〇
 - 第七世紀二四、〇〇〇、〇〇〇
 - 第八世紀三〇、〇〇〇、〇〇〇
 - 第九世紀四〇、〇〇〇、〇〇〇
 - 第十世紀五〇、〇〇〇、〇〇〇
 - 第十一世紀七〇、〇〇〇、〇〇〇
 - 第十二世紀八〇、〇〇〇、〇〇〇
 - 第十三世紀七五、〇〇〇、〇〇〇
 - 第十四世紀八〇、〇〇〇、〇〇〇
 - 第十五世紀一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
 - 第十六世紀一二五、〇〇〇、〇〇〇
 - 第十七世紀一五五、〇〇〇、〇〇〇
 - 第十八世紀二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
- 「右に據れば暗黒時代なる第十三世紀を除くの外は各世紀とも急速の進歩を表示せり又第十九世紀は未だ表中に加はらざるも其發達の顯著なると前數世紀の比に非ず」
- 紀元千七百九十三年三月二十日夫のウイリヤム、ケリー其家族を携へて印度に渡航し以て今日の所謂

外國宣敎事業を開始して以來十九世紀に於ける斯敎傳播の速度は極て急激なりしを以て教徒の員数は疑も無く約四億萬に達せり則ち全世界住民の殆ど四分の一を占むるに至れり

上來述ぶる如く今や醜態は既に世界各國遺す限なく配附せられたれば思ふに今後百年間の進歩は如何に偉大なる可き蓋し吾人が想像の及ぶ所にあらざるべし見よ偶像敎の古帝國は何れも零衰を極め佛敎儒敎波羅門敎は共に瀕死の苦礎を嘗め各種の野蠻的迷信は將に消滅の悲境に在り一時隆興を夢みし回々敎すら僅かに舊時盛大の名殘を留むるのみ聽けよ基督敎國に加はらんとこの叫びは己に極東の先進國なる日本帝國を始めとし及び太平洋の諸島嶼中より起りつゝあるに非ずや

以上吾人は此敎が眞正の天啓敎たるを測定すべき急速の進歩を見れば是より第二の問題に移り此敎が廣く社會に及ぼしたる勢力は果して人類の裨益たりしや否やを審にすべし

夫れ基督の福音の一度び世に出づるや社會が如何に之を要求せしか又社會に如何なる恩恵を齎らせしか羅馬史を一讀せる人々には一目瞭然たるべし試みにギボン、ノリグエール若くはチャー博士の羅馬史により第一世紀最高の文明と現今の所謂基督敎的文明とを對照比較せば思ひ半ばに過ぐるものあらん

先づ當時の主權者に就て言はんか、彼等の私生涯は酒色放肆を事とし公生涯に於ては殘忍邪惡を極めればジュリヤンよりコンスタンチンに至る四十四人の君主中暗殺者の凶手に觸れし者實に其半數を占む之に反して現今基督教國の君主たる人々は公私共に其品行極めて嚴正なり是れ必竟基督教文明の制裁ある今日に於てはカリギユラ、チロの如き暴君は瞬時も責任多き君主の地位を保つこと能はざるに由るなり。

貴族は如何、當時貴族富豪の輩は偏に利己と肉慾とを求め現世のみを目的として公然放蕩に耽り毫も耻づる所なかりしに引替へ現今基督教國の貴族等は概して心志誠直にして慈善に富み假令罪惡に陥る事あるも公然之を行ふとを深く耻づるの風あり。

庶民は如何、彼等は正當に有すべき功名心を缺き何の志す所もなく相率ゐて見るに堪へざる不潔の地に群集し其妻は奴隸の如く其子女は早熟の惡徒の如く終日パンに向つて叫び且つ彼等の日々見聞する所は虚偽竊盜放逸等有ゆる惡事の外なかりしに今日は公私學校の設備ありて貧兒も入りて學ぶべく又如何なる者にて志あらば容易く獨立の生計を營むを得るに至れり。

奴隸は如何、羅馬帝國隆盛の當時は實に六千万の奴隸ありて其數殆ど合衆國の全人口に等しかりき、

當時に在りては戦争の爲めに俘虜となれる者負債ある者皆奴隸として驅役せられ社交上及び政治上に於て何等の權力なきは言ふ迄も無く財産を相続し遺言を爲し合法的結婚をなすの特典をすら與へられず常に足枷と烙印とを施されて賣は主家の田畝に耕し夜は不潔なる土中の一室に閉ぢ込められ殆ど獸類と異なる所なかりき然るに現今基督教國に於ては全く斯る背理の制度を崇奉し悲境に呻吟せし者を悉く解放したり是人類が同一祖先より出でたる同胞兄弟たるを主張する基督教の大主義が事實として表現したるに外ならざるなり然らば第一世紀に於ける婦人の状態は如何、羅馬帝國の終末に於ける婦人は最も痛歎すべき状態の下に在りき是れ畢竟當時の墮落せる社會に於ては然らざるを得ざりしなり彼等は上下通じて婢女の如く見做されしかば朋友と往來するは素より親戚と交通するとすら容易ならず宛から牢獄に在る囚徒の如く終日戸内に閉籠められ男女の奴隸ありて之を監守したり其結婚するや自己の意志を述ぶるの權なく離婚せらるゝも亦然り必竟社會は婦人を目して家内の僕婢の如く若くは血族の斷絶を防禦する器具の如く思惟せしを以て夫も亦之を視ると玩具の如く之を遇すると奴隸の如くなり然るに基督教が此點に向つて盡したる不撓不屈の力によりて自由の門戸は斯る不幸なる婦女の上にも開かれ今や男子と共に平等の地位に在りて安然たるを得るに至れり。

更に日を轉して古代に於ける娛樂の慘酷にして血に渴せる状態を觀察せば思ひ手に過るものあらん。ト
 ラヂヤン帝の當時百二十日に亘る娛樂の催しありて一万の比武者と一万の猛獸は之が爲めに非命の死
 を遂げしが今や斯る無情の出來事を嫌惡するの情廣く世に感ぜらるゝに至りたるは如何に此種の思想
 が基督教の爲めに其根底より變化せられたるかを見るに足る又藝きには戰闘屢々起りて空しく貴重
 人命を害ひしも今は之を忌避するの念深きを以て多くは媾和の方策を取り容易に干戈を交へざるに至
 れり

此他又更に別種の一大變化が人心の根底に起りたるを知らざる可らず一大變化とは何ぞ無告の窮民孤
 兒を矜助することは是なり見よ幼兒を殺すは法律の咎めざりし所公衆の意とせざりし所病人癡人老人等
 一に其無慘の最後を遂ぐるに任せ孤幼窮民の爲めに設けたる救助の場所とては迄も之れ無かりしに今
 や幾千の施療院養老院及び孤兒院は到る處に設置せられたるにあらざるや是れ即ち基督教が人命の貴重
 と同胞相憐の大義を世に教へたる正義の記念碑に非ずして何ぞ

斯る驚く可き大變化を成就したる力は抑も如何なる力なるぞ是れ大に吾人の留意すべき點なりとす。
 吾人は茲に基督教の結果を記述せるストアース博士の著書より左の一節を藉り以て基督の福音が如何

に吾人の感謝と讚歎とを値ひする者なるかを示さん、博士曰く「文學開け技術進み勢力極はめて盛大な
 れども道德非常に奮敗し放恣逸樂徒らに肉慾に耽り其風習其生活殆ど名狀す可からざるの度に達せ
 る羅馬帝國に入り來りし基督教は其嚴肅なる禮拜と深奥なる真理と其慈悲と其教祖に對する忠誠とに
 よりて斯る厭ふべき社會の状態を改善し能く之に光明を與へたり且つ夫れ此宗教は冷評侮辱を當時の
 社會より政府より軍隊より人民より受けたるに拘はらず幾多の艱難を排して遂に之に打勝ち見事に敵
 壘を陥れ其將卒を降らしめ以て該帝國の道德的君主となれり」と

不信徒或は曰はん斯る人類の進歩は獨り基督教にのみ因るものに非ず他の原因ありて存すと然り他の
 原因ありて幾分の補助たりしや疑なし而も不信者等が強て斯る國家及び家庭の健全なる革新をば人
 生の自然進歩若くは商工業の發達其他全く基督教に緣故なき諸原因に歸せんと試むるは彼等に於て必
 ずしも然か自信せるが故に非ず只出來得る限り基督教の諸勢力を排除せんとして殊更に斯る遁辭を弄せ
 るに過ぎざるなり吾人は此問題に關し最後の證明を提供して論結する所あらん爲め近時の傳道事業よ
 りして證據となるべき二三の事實を擧ぐることにせん、前世紀の初めチャールズ、オートンが支那に
 向て出帆したる一商船不幸コーレー島の暗礁に觸れて破船したる事ありしが船員及び船客は万死の中

に一生を得て漸く海濱に達したるに土人等は偽り迎へて彼等を眠らしめたる後二人の幼童を除くの外無惨にも悉く彼等を殺害し且つ其肉を食したり斯る恐ろしき地をも厭はず勇敢熱誠なる宣教師等は聖書を携へて此島に上陸したり最初の教師等は上陸後間もなく土人の爲めに生命を失ひしも更に之に代りて福音の宣傳に盡力せし者漸ざりしかば今や明白に基督教のみの結果として野蠻の狀態を脱却し教育商工業の中心となりたれば該島の海濱に於て風波の厄に遭遇するは恰も米國の海濱に於けるが如く救助こそ受くれ決して殺戮などに遇ふの虞あることなし之れ基督教が湮没す可らざる感化力を有する顯著なる一例なり

マダガスカルに於ける基督教の傳道は千八百二十年即ち今を去る八十年前に開始せられしものなるが着手後八年にして主権者交代したる爲め宣教師及び信徒等は非常の迫害を受け石殺せらるゝ者突殺せらるゝ者絞殺せらるゝ者火殺せらるゝ者磔殺せらるゝ者溪谷に投せらるゝ者二十五年間其跡を絶す之が爲めに二千人の殉教者を出すに至れり此迫害の起りし當時は信徒の數纔に五十を超えざりしが二十五年の後には斯る迫害の中にも尙ほ五千の熱心なる信徒を得たり今や此地には三千人の土着教師と五万の壯年信徒ありて文明は野蠻に代りて全島を支配せり

夫れ水夫等は能く南洋諸島に於て其地の安全なるや否やを推知するの秘訣を知れり、一商船嘗て南洋に於て破船したることありしが此島は食人々種の住める地なりしかば乗組員中一人として其生命を全うし得べしと思惟する者なかりき然るに水夫中の一人小丘に上り遙かに塔上に十字架を掲げたる教會堂を認めしかば直ちに船客を招き心を安じて此地に滞留すべしと告げたり是れ如何に基督教が人心を感化するの力あるかを示せる適例に非ずや

ジエームス、ラッセル、ローウェル英國全權公使たりし當時倫敦に於て一の宴會に臨みしに談偶々基督教に及び座中一二の大に斯教を冷評する文學者ありしかば氏の立場は素より文學者また政治家にして直接宗教事業に關係なかりしも虔敬なる氏のごとて斯る冷淡なる談話を聴きては緘黙を守ると能はず痛く彼等を詰りて「世界廣しと雖も基督教なくして能く安全に愉快に生活し其子女に對して好良なる教育を施し幼老を愛し婦人を賤しませ能く人生を尊重するの地十万里を發見すること蓋し極めて難事ならん若し不信者にして斯る地を發見するを得ば彼等は其地に移りて自己の持論を主張すべし現今の所謂非基督教家と號する人々は身自ら基督教國の市民として自己の擯斥する宗教より各種の恩恵を蒙りつゝあるなり且つ彼等は基督教によりて教育せられ其品性を涵養せられたる後自己が上ほり來れ

る梯子を蹴倒さんと試むる者なり」と言へり、然り不信者等にして基督教の未だ至らざる地を探らん
 せば、千八百四十五年に於てフイジー島に之を發見するを得しならん當時此地に於ては人間一人を
 七弗にて賣買したり斯くて買入れたる後は買主の意に任せて或は働かせ或は撲ち或は其肉を食ふこと
 を得たりしなり、されど今や該島に於て人間を賣買する者一人だもあることなし、斯る大變化を成就
 せしは同地にある幾百の基督教會と十五方に餘る信徒の力に外ならず

英國の海軍士官嘗て該島にある或教會に詣でたる模様を語りて曰く「予は非常に感激したり十五年前
 には予が見し有ゆる人々は皆食人々種なりしに今や予の側には舊時の酋長手に聖書を開き眼鏡を懸け
 たり彼こそ二十年前には此恐るべき土地に於て最も恐るべき悪人なりしなれ且つ予の席より僅か十間
 を隔つる處には人肉を炊りし爐ありて其傍には死人の數を記せる大樽尙ほ存せり」と

印度總督ローレンス伯爵曰く「英國人は此國を益せんとて種々の事業を爲せしかども宣教師等の功勳
 は有ゆる人々の功業を合せたるよりも猶ほ大なり」とボンペー知事サー、パートル、フリアーの演説
 に曰く「基督教が印度に於ける一億六千万の波羅門教徒及び回々教徒に對して爲したる功徳は道徳上
 社界上政事上に健全なる變化を興へ其効果の弘く且つ速かなると、汝及び汝の父祖が近時の歐羅巴に

於て目撃したる有ゆる事物の比に非ず」と

此他サントウキツチ諸島よりシーラネオン人よりカフランス人よりカレンス人よりズルー人より同種の
 實例を引用し來るは極て容易なりとす

右の如く陳述したる實際の結果によりて之を見れば基督の福音は神より來れる人類救贖の力なること
 火を見るよりも明かなりとす此力は最初猶太人に來り次に希臘人に及び遂に世界の各國民に及びたり
 以上吾人は社會一般に對する結果如何を論述したりされど社會一般の道義的革命は個人の靈的勝利よ
 り起因し來るものなれば吾人は本題を結ぶに先ち基督教が個人の上に及したる感化に就て一言せざる
 可からず

夫れ然り然れども福音の道が徳義頹破せる人類を高貴なる品性に誘導したる實例は其數過多にして一
 々之を枚舉するの違なきを以て吾人は有名なる政治家ダニエルウエプスターの義兄ジョン、コルビー
 に係る一事を擧げて他は讀者の類推に委せんとす彼が傳記中の逸事は廣く世に知られざるものあるも予
 が今記述せんとする一條の物語はウエプスターと共にコルビーの家を訪ひたる一紳士の目撃したる確
 實なる事實にして千八百五十一年即ちウエプスターの死去一年前の出來事なりきウ氏其友に告げて曰

「予が今君と共に訪はんとするはジョン、コルビーなり彼は予の姉婿なりしが公私の要務予が身邊に蟬集し爲めに四十五年間彼を見し事なし彼が妻は不幸にして早く此世を去りたり予は今尙記憶す予が少年たりし當時彼は慾念特に深く常に金錢の奴隷となり其素行の修らざる其性情の邪惡なる又其敵神の念薄き事郷黨中誰ありて彼に及ぶ者なかりき之に引替へ予が姉は信仰厚く淑徳の聞え高き婦人なりしが彼女の死するや予が彼に對する友情も亦自ら冷却したり然るに余が今彼が門を叩かんとするは彼が心中に美妙なる變化起りて「絶えず祈れる人」となれりと聞きしに因る」と

是より彼等は馬車を驅る數時間にしてコルビーの宅に着し彼の住宅は体裁好き二階造にして前面に趣致ある庭園を有したり園を排して入るや彼は聖書を繕きて之を精讀しつゝありしもの、如し熟視すれば彼は身長六尺に餘る白髮の老翁にてありき彼れ兩人の來るを見るや直ちに起立して會釋し「イザ入り給へ」と言へり

ウエプスター曰く「御身はジョン、コルビー氏ならずや」

コルビー曰く「然り予はコルビーなり」

ウ氏曰く「想ふに御身は余を識らざるべし」

コ氏曰く「然り予は君を識らず、さるにても御身は如何にして予を知らるゝや」

ウ氏曰く「御身は全く予に見覺なしと言はるゝ乎」

コ氏曰く「然り少しも見覺なし」

ウ氏曰く「予が姉は御身が最愛の夫人なりき、予はグニエルなり」

コ氏大に驚き「げに君はグニエル、ウエプスターなるか、さても變れば變るものかな想へば此老紳士こそ馬に乗りて常に河邊に行きし髮黒々の少年なりしか」と過去を追憶し百感胸に迫り相抱きて嗚咽せり暫くしてコルビー曰く「イザ坐し給へ予は再び君を見ると能はざるべしと思ひしに珍らしき此來訪、さて何をか語り始むべき仄かに聞けば君は當世得難き偉人なりと又聞く令名噴々たりと予は之を聞く毎に歡喜極まり無かりき願はくば君が經歷の一伍一什を語り給へ、さばあれ、時短く君亦長く予と對話するの閑暇なからん故に予は只必要なる一事を問はん君は世評の如く定めて偉人ならん、しかも果して善人なるか君は基督を信じ基督を愛するの紳士なる乎、予が問は即ち是なり、グニエルよ予が悪人中の悪人なりしとは今は既や天國に息へる君が姉の具さに知りし所君亦必ず之を知りしならん、されを全能なる神の聖靈は來りて余を永遠苦痛の烈火より救出し給へり噫グニエルよ余は世の

初より今日まで人間の受たる有ゆる名譽を興へらるゝも此書に載する救贖の道には替へ難し、君は教徒なりや君は基督を愛するや乞ふ明らさまに子に告げ給へ」と

ウ氏曰く「コルビーよ、君は子に至重至要の問を發しぬれば之に答ふるにも誠意眞實を以てせざる可らず子は教徒なり少くとも余は教徒なりと自ら公言せり、されど子は心竊かに自ら願ふが如き善良なる教徒に非ざるを愧づ子は身を煩雜なる俗界に委し朝夕名譽と誘惑の中に起臥せる故に神の期望に合ふ完全なる教徒に非ざるを恐る子は君の如き堅固なる信仰と希望を有せざるを悲しむさはあれ君を淨化して天國の嗣子と爲し給へる慈愛の神は必ずや子にも亦同一の祝福を興へ給はん、想一度び茲に到る時子は實に感謝に堪へざるなり思ふに予等兩人の餘年長からざれば遂からずして更に此世に優る天の王國に於て君と再會し又教徒たりし他の知人等にも面晤するの期あらん此事や思ふに必ず遠からざるべし予が君の悔悟を聴く喜びは譬へんに物なし余が此地に來りしは必竟余が少時より熟知する君を見て親しく其實話を聴かんが爲めなりしのみ、實に然り君が自白する如く過去に於ける君は眞に悪人にてありき」と

コルビー叫んで曰く噫ダニエルよ君は予が如何に悪人なりしかを記憶せざるなり予は嘗て神に就て思

念せし事無く又神の聖慮如何を默想せしとなし予は異教徒にも劣れる者なりき余は今や只神に歸りて君が姉なる余の憐むべき亡妻に再會するを唯一の希望と爲せり余は切に望む君が祈禱に充てる敬虔なる教徒たらんとを、いざ是より共に神に祈らん」とて跪きければウ氏先づ熱心なる祈禱を獻げ引續きコルビーはウ氏と其家族の爲めに最も感動すべき言辭を以て神に懇禱哀求したり

斯て共に食卓に就き懷舊の談話に時を移して袖を分ちたり歸路ウ氏其友を顧みて曰く「余は基督教の反對者がコルビーの悔悟を見て如何なる言をなすかを知らんとを望む彼が教徒となりしは人事に於て殆ど有得べからざるとなればなり人如何なる詭辯の勞するとも余が目撃したるコルビーの變化は神の恩徳と基督の福音によらずんば到底之を爲し得ざることを確認したり」と

以上吾人は基督教が世に及ぼしたる結果を論述したり而も吾人が畧述したる所は必竟之れ幾千萬事實中の一二に過ぎざれども此等のみを以てするも猶ほ此世に於ける福音の急速なる進歩と其實際上の効果を立證して餘りあり請ふ見よ基督教は個人よりして家族に家族よりして國民に及び遂に全世界を感化したりしなり

然らば此宗教の淵原は果して何處にありや

コロンブスオソノコ河に到るや一水夫は何心なく「斯る大河は小島より發するものに非ず必ず大陸の水を集めざるべからず」と言へりとぞ、吾人の宗教亦此の如く上來叙述したる大革命は欺騙を事とせる儕輩の手より出で得べき者に非ず必ずや人間の爲めに十字架上の死をさへ厭ひ給はざりしキリストイエスの量るべからざる愛の泉より發せざるべからず基督教は則ち天啓教なり

左の證人等は皆な世界著名の文豪詩伯なり

サー、ナルター、スコット曰く此の長敵すべし書中には奥義中の奥義はれり、さるを之を疑ひ之を嘲る者は生れざりしこそ幸なれ

ウヰリヤム、グーバー曰く凡ての疑念を満足せしめ凡ての奥義を説明するものは黙示なり人の辿るべき路筋は之が爲に明
示せられ愚者も亦之によりて迷ふとならん

ジョージ、ビー、モリス曰く黄金の山にも此書を買ひ得るの實あるなし、我は此書によりて生くべき道を教へられた如
何に死すべきかをも學びたり

ロバート、ボロック曰く實に驚く可き書なり是が則ち主の輝ける燈、永遠の星なりける

アレキサンダー、ギーブ曰く古への聖歌(舊約)は主來り給ふと我等に告るなり聖者よ主の聖書を譯け替へよ主の聖書を見よ

セキスピア曰く神は讀むべきかな信する者には暗きにありて光明を興へ失望にありて慰めを興ふ

リチャード、エチ、シゴニー女史曰く御身は基督教者なるが、さらば御身の運如何に細くとも空に滿つる星のごと無量の
富は御身の有なり

ジョン、サー、ホウキイア曰く賢女等よ是れが御身の賢すべし眞球なれ神の聖言は價なくして得らる可ければ疾く取り
て賢たまへ

第七回 舊約聖書の審判

原告は今や舊約聖書と總稱する三十九卷の證據物件を提出し之を以て神來の教書なりと主張せり
 然らば舊約聖書が天啓の教書にして充分に尊信すべき價値ありとの證明は何處にありや
 吾人は此証問に對し幾多の證據中より最も明確なる三箇の辯論を提供すべし
 第一、是等の書卷は新約書の如く豫言と奇跡とによりて立證せらるべし吾人は曩に新約の豫言を論ず
 るに當り豫言は適當なる條件に合ふ時は有ゆる證據中最も確實なるもの、一なることを陳述したり或牧
 師常に其不信徒なる一友人を神に導かんとて苦心せしが一日其書齋に於て如何なる書を彼に讀ましむ
 べきかを思案し遂にカイスの「豫言論」と題する一書を撰擇して之を送りたり數月の後其友彼に告て曰
 く「君が手に貸與したる一書は君若し必要ならば予必ずしも之を返戻するを否まざるべしされど予が
 如何に該書を敬重するかは君が想像の及ぶ所にあらず該書は全く予の不信論を説破し予をして忠實な
 る聖書の信者たらしめたり」と斯て彼は教會に詣り其眞摯なる信仰を表白したりとぞ、夫れ「豫言の
 成就」はペテロとパウロが説教の好題目にして幾千の人々が直ちに教徒となりしも必竟茲にあれば現

今の牧師亦此好題目を捉へ來らば其効果必ずや著しきものあらん故に吾人は茲に舊約豫言中最も興味
 あるもの、一二を擧げ以て此辯論の據る所を知らしむべし
 讀者先づクロスに關するイザヤの豫言を見よ（イザヤ四十四章、四十五章）彼が其書を記録せしはク
 ロスの生れし前百三十年及びクロスがバビロンを征服せし百五十年前なりしかばイザヤとクロスの間
 には少くも三四代の星霜を経過したりしなり故にイザヤにして特別に神の啓示を受くるに非ずんば到
 底クロスが何人にして何事を爲すべきかを知らずは先づ其氏名を明示してクロスと云ひ次に其生るべき地
 イザヤが此人に關して録したる所を見るに彼は先づ其氏名を明示してクロスと云ひ次に其生るべき地
 方を斷言し第三に幼時西方より東方に移るべきことを示し第四クロスの品性に就て第五彼が眞神を知ら
 ざりしとに就て第六彼が得べき勝利に就て豫言せしがヘルシャザの滅亡こそ疑もなく此勝利を立證
 せるものなれ、又第七にはバビロンの滅亡を詳述し不慮の災厄此都市に起るべき事を教へたり當時バ
 ビロンの堅固なる如何なる強敵の襲撃にも耐へ得べかりしとは兵學者が一般に確信せる所なりしかば
 國王の如きも日々其臣下戦死の慘状を目撃せるに拘はらず猶ほ敵軍帝都を犯さんとは到底信ずると能
 はざりしなり而かもイザヤは百五十年前神の命を受けて精細に其滅亡の状態を預言し一々的中した

録判公教督基

讀者乞ふジョセフアスとヘロデタスとの歴史を見よさらば此預言が如何に事實に符合せるかを知るに至らんバビロンは十五方哩の大都會にして百尺有余の城壁之を圍みユーフラテス河之を横斷せること恰もテームス河のロンドンに於けるシカゴ河のシカゴに於けるが如し此大河の兩岸には同一の城壁ありて外敵の侵入を禦ぎ處々に設けられたる城門の如きも日没と共に之を閉ぢ勇悍なる衛卒嚴かに之を守りたり

然るに軍事に堪能なりしクスロは功妙なる策畧を以て此堅城を陥れたり彼は城壁を越ゆるの難さを見るや其周圍に溝渠を穿ち河水を之に導き、かくて夜に乗じて巧みに市内に入たり、其一度び市内に入るや更に内壁に登るの用に供せんとて鎖階子の準備を爲せしが神の成案は更に之に勝り豫め一ヶ所の城門を開放せしめ給へり、イザヤの預言に曰く「我れ扉を其前に開かせて門を開る者無らしめん」と史家ヘロデタス叙して曰く「當時若し城中の君臣クロスの策畧を察知したらんには其軍勢を塵殺するを得たりしなり、彼等は單に河口の關門を閉鎖し兩岸の守衛をして急に敵を攻撃せしめなばヘルシヤ人は進退度を失ひ全く死地に陥る可かりしなり、されどクロスの襲來餘りに突然なりし爲め彼等は徒

録判公教督基

らに周章狼狽するの外なかりき」と、然り突然なりき、されど是れ神の百五十年前イザヤによりて豫め教示せしめ給ひし古代史中の一大現象なりとす

猶ほ更に興味ある一の預言あり此預言は僅々二三節の明晰なる言語を以て表示せられたれば之を研究すると大に容易なり、耶利米亞曰く「汝のきてユダの王ゼデキヤに告て言ふべしエホバ斯くいふ視よわれ此邑をバビロン王の手に付さん、彼火をもて之を焚くべし、汝はその手を脱れず、必ず擒へられてこれが手に付されん、汝の目はバビロン王の目を見、又彼の口は汝の口と語ふべし汝はバビロンにゆくに至らん(三十四〇二、三)」と又エゼキヤの預言に曰く「ゼデキヤはバビロンを見ずして其處に死ぬべし」と、此二箇の預言は一見相矛盾せるが如き感あれども史家ジョセフアス事實の真相を記して曰く「ユダヤ人は一時其預言者等を評して自家撞着の言を爲す者と思惟せしが時過ぐるに及びゼデキヤはパレスチナの北リブラに於てバビロン王の手に付され斯てゼデキヤは王に面接し、口より口に彼と物語りたり然るに王はリブラに於てゼデキヤの目を潰さしめければ彼はバビロンに行き其地に於て死せしかども遂に親しく其市府を睹ること能はざりき」と

以上の如き方法を以て舊約の預言と其應驗に關する證據とを列擧したらんには容易に大部の書冊を作

すを得べし、看よ見る影も無きバビロンの現況、ツロ、シドン、モアブ、ニネベの滅亡、ダマスコ、イズミアの慘状等は皆是れ正確に預言せられし所に合はるるに非ずや、若し夫れバビロン、ツロ、ベツラ、ニネベの市邑が如何に滅亡せるかを確かめんとせば、ザルチー其他非基督教記者の旅行記程を讀むか或は身自ら是等の地を踏み手に史書を繕き以て事實の起りし幾百年前に發表せられし預言と現状とを比較せば思ひ半に過るものあらん

舊約書中には善く証明せられたる五十有餘の奇跡あり、凡そ神は人々の信仰を養成するの利益となり又其聖慮を實行するの補助となる可き場合には由來其全能力を用ふるを常とし給へり、神一たびバロの暴政より其民を救はんとし給ふや直ちに一人の首領を起して其職に當るの能力を授け給へり、彼は燃れとも燒盡ざる森林に顯現してモーセに其命を傳へ、斯て十回の奇跡を示し、バロをして神慮に服せざるを得ざらしめ、火と雲とを以て其民を導き、彼等の敵を紅海に沈め、不思議の方法を以て選民の饑渴を救ひ、修養に要する年月を経過したる後無事にヨルダン河を渡りて其強敵に打勝ち以て約束の國土に入るとを得せしめ給へり、斯の如く舊約の奇跡と其目的とを歴史に照して深く考察せば讀者は必ず斯る奇跡の上に神の力が合理に有益に又正確に表現せられたることを會得するに至るべし

第二、吾人は今や奇跡と預言とより得たる満足すべき証據を去りて更に聖書全部の一致より生ずる証據を研究せん、讀者若し双眼鏡中を窺はば、二箇の繪畫を見ん而かも眼中に入り來るものは二個に非ずして宛然一個の如き感あらん、舊新兩約の聖書に於けるも亦た此の如く、兩者鑿解して一個となり全卷を通じて「罪過と其治療」の解釋となるなり、此繪畫の裏面は暗黒なれど表面には十字架と其榮光燦々として輝けり、讀者は必ず音樂會に臨み幾多の樂師が種々の樂器を巧妙に彈奏して各々其術を極むるを見彼等の彈奏一致して斯る妙調を發するは何故なるかを訝りしならん、されど怪しむ勿れ、樂師長は豫め譜曲を整理して相調和せしめしなり、六十六卷の聖書亦此の如く十二世紀以上に亘る長年月間に於て各自其郷國、言語、風俗を異にせる四十人の記者によりて眞理の種々の方面を種々の讀者に種々の目的を以て記述せられしかども首尾前後全く貫徹し撞着の點とては更に之れあるを見ず、彼等は「罪惡と其治療」に關する問題を最も完全なる一致と調和とを以て解釋したりしなり、凡そ聖書は世界開關以來の歴史と預言とを包括する貴重の一書にして開卷先づ永遠無窮の初より此世の發端を説き、末卷に於ては明かに此世の終末を教ふるを見るべし、試みに創世紀の最初三章と默示録の末尾三章とを一讀せんか初頁に於ては新天新地あり、末頁亦た再び新天新地あり、是れ先きのもの皆な過ぎ去りたれば

なり、初頁には此世に對する咒咀を見末頁には此呪咀の除かれたるを見る初頁には惡魔の誘惑を見末頁には惡魔の地獄に投せられたるを見る初頁には人生の運命には疾病悲哀痛苦及び死を見、末頁には悲哀も疾病も痛苦も死もあるとなし、初頁には人は罪の爲めに生命の樹に近くを禁せられ末頁には「其衣を洗ひし者は皆生命の樹の果を受るを得又門より城に入るを得」とあるを見る始には争闘を見終りには勝利を見るべし

聖書の各部は即ち全部の一部にして何れも一致の性質を有するが故に其中一書を排除する時は全部によりて表示せらるゝ大真理の全体に一點の欠損を生ぜずんばあらず是れ如何なる部分も皆完全なる真理の殿堂に於て各其用を爲ばなり、時には一見其用を見ざるが如き部分あるも靜思熟考せば遂に其眞義を悟了するを得べし、例へば舊約中のエヌテル書の如き「書中神なる語を有せざるものは聖書中に一地位を占む可き資格なし」と云ふ人あらんも注意して該書を研究したらんには神の攝理が不思議にも充分其中に暗示せられたるを悟るべし縱令表面には見へずとも全知全能なる神の嚴正なる統御は邦國及び個人の運命を支配せりとの原理を誨告し人生萬般の事項に不可見的管理の存すると、善惡に對する最後の應報あると惡人一時の成効は決して終極に及ばざると艱苦に在る善人の最後に榮福ある

と等を教示し讀者をして明らかに神の名を見ざるも自然に神の攝理に思ひ到らしむるなり
聖書全部の顯著なる一致は各部相互に密接なる聯繫を有せるによりて一層其妙味を感ずるを得べし、シナイ山頭に與へられし十誡は基督山上の大説教と相應し、イザアの預言は福音書所載の事項と相照せり踰越は主の聖靈を豫示し聖靈は踰越の解釋となり又其應驗となれり果して然らば聖經全部を組織造營したる建築技師こそ全知全能の神に非ずして誰ぞ、

第三、最後に吾人は尙ほ一の舊約書に關する最も強く最も満足すべき證據を有せり、他なし吾人は新約書によりて舊約書を證明し得ると是なり陪審官たる讀者の明かに記憶せらるゝ如く二十七卷の新約書が眞實にして信憑す可き書卷なるとは吾人既に論定したれば基督降誕の奇跡的なりしと、預言に合ふ家系と場所とに於て生れ給ひしと、彼が自ら神なりと要求し給ひしと、奇跡と預言(彼の死後皆應驗したり)と奇跡的復活及昇天を以て其要求を自證し給へると等の事實、既に前數回の公判に於て確定し隨て神子なる彼が降生の目的は人類に對する神の意志を正確に我等に教示するにありしとも今更茲に再言するの要なし

さて吾人が手にせる舊約書は是れ即ち當時の人々が手にしたる聖書なれば書中の書冊全然同一にして

毫も異なる所なきは原被兩造の共に一致する所なり、此書や古來三大部に區別せられ律法五卷詩歌五卷歴史及預言廿九卷とす猶太教會が受理尊重したる聖經も基督が幼時より細讀研究せられたる聖書も必竟此書に外ならず若し夫れ舊約書を以て偽作の嫌ありと假想する者あらば吾人は基督を招請し左の諸問を發し其説を聴くとを得べし彼は神の代表者證人中の證人とも稱しまつる可き者なれば彼にして法廷に立つ思ふに一層公衆の注意を惹く所あらん

問「創世記とは創世に關する眞實の記録なりや」證人基督答て曰く「然り人間はモーセの記録せる如く創造せられたり、問「モーセの記したる最初の殺人事件は眞實なりしや」證人曰く「然りカインが實傳にして(約八〇五)ソドムの悲劇も亦實事なり(路十七〇二九)此外アブラハムイサクヤコブに關する叙事の如き凡て神威を受たる彼が眞筆に成りし實録なり(六八〇十一)問「出埃及記の記事は如何」證人基督曰く「モーセが出埃及記に録したる眞論の蛇は惱める猶太人を治する爲なりしが是れ子が十字架に上げらるるべき表號なり(約三〇十四)此他子は同書にある二個の奇跡則ち荒野に在り

てマナを食せしと(約六〇四九)とモーセが燃ゆる森林中に於て「我はアブラハムイサクヤコブの神なり」(太廿二〇三二)と云へる父の聲を聞きしとを擧げて該書全体の正確を保證し置くべし」と吾人は更に進んで痛く反對者の攻撃を受たる申命記に就て證人の言を聞かんと欲す讀者の記憶せる如くイエスは惡魔の誘惑を斥くる爲めに該書中の三節を用ゐて巧に其奸策を免れ給へり(六四〇四、七、十)此時に方りてや惡魔と雖ども彼に對して該書の眞正を疑ふ可しと明言するの勇氣なかりき、然るに十九世紀の今日之を疑ふの徒あるは吾人寧ろ其頑迷と大膽とに驚かずんばあらず然らばモーセの律法五卷を一括したる證人の見解は如何、證人イエスは「若しモーセを信せば我を信すべし、そはモーセ我事を書したればなり、若しモーセの書せし言を信せずば何で我言しとを信せんや」(約五〇四六―四七)と言明し淺慮なる古今の聖書批評家をして顔色無からしめ給へり預言の諸書も亦同一の證人によりて保證せられたり、吾人は此權威ある證人よりして親しくダビテが供物のパン(六十二〇三、四)を食ひしと、エリヤ、エリシヤの奇跡——長き饑饉、大雨、一人の發、ナーマンの快癒(一四〇二五―二七)——ありしと、イザヤ、エシミヤ、エゼキエル、ヨエル、アモス、等の預言がソロとシドンに於て應驗せしと(六十二〇二二)ダニエルの驚く可き大預言のと(六二四〇

十五、十六〇 ヨナに關する二件の奇事——ニヤシの悔改とヨナの死を免がれしと(六十二〇四十四、四一)及びマラキの施洗者ヨハネに關する預言(六十二〇十)等に就て何れも寸毫動す可らざる神來の預告にして又事實なりしと斷言せられたるを聴くを得べし

證人基督は其辯論を終結するに臨み舊約全部に對する最的確なる保證として吾人に命ずるに該書の研究を以てし該書は彼自身に就て立證する者なりと論告し(約五〇三九)又エマラ途上其弟子を顧みて「モーセより凡ての預言者を始めすべての聖書に於て己に就ての事は解明されたり(路四〇廿四)と訓示し最後に其信任せる十一聖徒に對し「モーセの律例預言者の書また詩の篇に録さんたる我事につく凡ての言の必ず應ずべきは我もと爾曹と偕に在りしと云語れる所なり(路廿四〇四四)と斷言し以て彼等の注意を惹起すると共に該書が信憑すべき神授の經典たることを嚴かに宣告し給へり

吾人は茲に至りて既に下級の裁判所より基督出廷の高等法院に至る迄各種の審問廷に於て反對者の異議を論破し以て舊約書の正史たることを立証したれば如何なる點に於ても本件が原告なる基督教の全勝に歸すべき公明正大の裁決を得べしと信じて疑はざるなり

不信者トマス、ホップス死に臨みて曰く予は暗黒の中に惑ろしくも今や飛入らんぞす

不信者デビッド、ローム自白して曰く予實は新約聖書を精讀したる者にあらす

不信者エル子スト、ルナン曰く將來如何なる偉大なる人物出づるとも決して基督に超ゆるも能はざるべし

不信者トマス、ハックスン曰く聖書は英國歴史の最も高貴なる部分を形成せる原料なり

ウイルナム、ビー、カーヘンター曰く科學が自己の範圍を脱して神學の位置を侵し恣に宇宙の法則を規定せんとするは之れ自己が占有すべき權威なき領地を蠶食したるものなり

ウヰーリヤム、イー、グラッドストーン曰く世界の創造に關する聖書の記録は最早動す可らざる事實として承認す可きものとなれり

ヘンツヤミン、フランクリン(トマス・ペインに向て)曰く假令汝の著書或種の讀者を喜ばすとあらんも到底此問題に關する人類一般の感情を變化するに足らずされば斯る書を刊行するの結果は徒らに天空に向て唾するが如し人に益なく偶々以て自己を害はんのみ

エナ、エル、ハスチンダス曰く基督教は兒童の玩具(起上小法師)の如し幾度之を倒すも遂に起たざれば止まず

第八回 終結

吾人は以上七回の審問を経て、今や萬事を擧げて陪審官の掌中に委託するの時期に到達せり。吾人は此期に臨み敢て諸君に致すに説教若くは講話を以てせず寧ろ赤心より赤心に親しく懇話する所あらんとす。

吾人は最初に於て讀者と共に證據物件たる聖書の鑑査に従事し聖書が果して神より出てし公書なりや否やを考察し且つ基督教が天啓の宗教なりや否やを攻究したり。

是等の研究に於て吾人は可成平易明晰なる推理に基き沈着明快なる辨論を用ゐ且つ審問の材料たる證據物件は總て法律上規定の例則に準據し慎重に之が調査を遂げ斯くて後基督教が幾多の動す可らざる堅固なる證據を有するを見たり。

吾人は證據を提供するに當り單に外部若くは歴史上の證據中より纔かに其二三を擇びたるに過ぎざりしを以て自餘の有力なる幾多の證據は此冊子中に盡すを得ざりし而已ならず内部の證據に至りては充分に之を列擧するの迫なかりき吾人は只證據てふ大洋の海濱を逍遙して二三の小石を拾ひしに過ぎざり。

りしが而かも是等の小石は傲然不信説を唱へて得々たる儕輩を愧死せしむるに餘ありき。請ふ吾人をして此満足なる証明に就て茲に單簡に再叙する處あらしめよ想ふに讀者は聖書記者と其記事の正確とに對して強固なる基礎ありしを想起するならん記者の正確に就ては新約諸書が使徒時代より今日に至る迄敵と味方とに論なく無数の著述家によりて引用せられたるにて知るべく記事の正確に就ても普通の歴史又は證券の眞偽を鑑識する場合の如く事實の目撃者が有したる機會と智識と誠實とを立證したるによりて充分に證明せられたり。

次に吾人は聖書中に啓示せらるる宗教が神より出でしこと基督教及び使徒等が天の使命を受けて此福音を宣傳せりと要求するを見たり而して彼等は其要求を辨明する證據の一として奇跡なるものを提供したり斯くて吾人は其奇跡の可能にして正確なること彼等の使命が明かに神慮より出でたることを發見したれば本件は茲に充分の満足をして落着を告ぐるを得たり、されど智慧ある神は尙ほ之に倍する満足吾人に與へんとて他の諸宗教に見る可らざる精密なる預言を與へて巧みに福音の神聖なるを示し給へり基督教に關する幾世紀前の預言は既に應驗し又猶木人に對する基督教の預言は今や吾人の眼前に成就しつゝあり人若し此二重の證據物件——預言と奇跡との合同効力が如何に本件の裁決に力を與ふる

かを思は、疑心忽焉として消散するを覺ゆべし預言と奇跡とは二個の大柱にして神は此柱上に黙示て
 一線門を設け給ひしなり。此の大柱は既に幾百千の星霜を経幾度か懷疑の狂風に吹荒されしも自若と
 して寸分も動くも無し斯くの如くにして、本件は三度び證論の終結を告げたりしが吾人は更に歩を進
 めて基督教が個人及び國家に對する使命如何を究め、又新約より進で舊約に及び以て此福音が全然人
 間の宗教觀念を満足せしむるに足ることを論明したり

讀者請ふ思へ吾人が本件の研究に従事したるの眞意は單に歴史上の攷究として智識の慾を満さんが爲
 めに非ず吾人は誠心誠意身を過去の記録と遺物との中に置き謹んで眞理を傾聴し依て以て諸君の爲め
 にも予自身の爲めにも最良の實際的宗教を發見せんと欲したるのみ、されば本題の歸着は單に推理の
 問題に非ず、良心の問題なり單に證據の輕重を比較する而已ならずまた實に吾人の心情が衷心より撰
 擇すべき緊要問題にてあるなり

吾人は本件の開始に於て陪審官中に四個の階級ありと明言したりしが便宜の爲め今之を二個の隊伍に
 區別すべし。第一は從來基督教徒と公言せる人々の部屬にして此部屬中には多年其信仰に根據を据る
 基督と其福音とが神より來れる理由を明白に説明し得る人もあるべく又單に内部の證明に頼りて之を

信に依て以て心中に奪ふ可らざる希望を抱くと雖も昔て福音の史的基礎を充分に檢査したると無き人
 々もあらん想ふに此兩者は吾人の所論を讀で殊に興味と利益とを得られたりと信す要するに斯る證據
 を學ぶ事愈々多ければ益々深く之を信するに至るべければ信仰の依て築かるゝ土臺を確むるは是れ一
 層有用なる基督教徒となるの法に外ならず、されば吾人は這種の人々が本書を讀で以前よりも一層熱
 切なる信仰を得られたりと想像するも強ち失當には非ざるべし

吾人は本書を綴りつゝ快感に堪へざるものありそは此天啓教が漸次世人の會得する所となり斯教太陽
 日を逐うて益々其光輝を發しつゝあるを知ればなり、看よ喜んで外國に宣教する者樂んで献金する者
 我を救ひ給へと祈らすして他人の爲めに我を強くし給へと願ふ者益々其多きを加へ健全なる信仰と智
 慧ある動作とを以て日々暗黒と罪惡とに溺惑せる同胞兄弟を救ふる者天下幾萬人なるを知らざるに至
 り

さて第二の部屬即ち宗教問題に就て從來何等の決心をも爲さざりし人々の中には人間が心を籠て考究
 す可き此嚴肅なる大問題を日一日年一年輕々看過したる者もあらん、又不幸にも常に懷疑の密雲中に
 掩はれたる者もあらん、されば吾人が諸君と共に探究の旅路に上りし以來諸君は多少意を此問題に注

がるゝに至りしならん吾人は諸君が基督教の眞理を單に道理的に承認するを以て満足する者に非ず吾人が諸君に訴へ且つ望む處は心情の賛同良心の應答日常生活に於る眞箇の順服にして夫の名譽噴々たる法律家マリソン氏の如き決心を得るに在り氏はオハヨー州の有名なる辯護士にして大審院評定官の椅子を占むる人なるが嘗て一友より自己の宗教意見を問はれしとありしに其日氏は信否如何んを明決す可しとの意盛んに心中に起りければ直ちに事務所を閉ぢて靜想黙思に時を費したり、彼は机上にある法律書中の法律書(聖書)を取り數時の間義務てふ問題を思念したりしに、醒覺せる彼が心中に湧出る思想は曰く人類一般の罪惡、曰く全人類が救主によりて救はる可き必要、曰くイエス(救主)とは人類中に與へられたる唯一の名稱、曰く此救主を信するの必要、曰く過去の不良なる行爲に對する痛悔の必要、曰く信仰告白の必要、曰く信仰の道に従ひ之を實行するの必要、曰く今は即ち此教を受くべきの時なり等の自覺にてありき斯て幾多の法律書を堆積せる書齋に跪き律法中の最も高き律法(神の擲理)に全然其心意と其生涯とを委託したりされば此日彼が私邸に歸りし時は全く別人の如く未だ嘗て知らざりし平和と幸福を感じたり、彼れが妻戸口に出で、之を迎へければ彼は直ちに其心靈上の變化を物語り且つ「家族を呼び集めよ我等共に祈らん」と告げけるに妻は「數人の辯護士客室に待

てりされば食堂にて祈りせん」と言ひければ氏は語調を高め「予が主基督を我家に迎へ奉るは今回を以て初めとす我は主を食堂に迎ふるが如き非禮を爲すを欲せず」と言放ち内に入りて客に會釋し「予は今や基督教徒となりたれば先づ祈禱を以て予が新生活の門出と爲さんと欲す諸君若し此室に居るを好まずんば暫く他の室に待たれたし」とありければ彼等は室を出つるも聊か穩かならぬ嫌あり共に止まりて彼が熱誠の祈禱を聴きしが中には彼が全心全靈を籠たる感謝と懇禱とに心を動かし遂に救主に歸依するの念を起したる者さへありしとぞ

若し夫れ諸君にして自己の宗教を定めんとならに基督教徒たる乎將た全く不信者たる乎兩者其一を擇ばざるを得ず詞を換へて之を言へば諸君の信す可きものは基督教か然らざれば不信説なるべし、蓋し文明社會に於て宗教を信せんとせば基督教の外他に何物もあらざればなり請ふ思へ回々教と云ひ佛教と云ひ(佛教中に深遠なる思想ありと誇稱すれどもそは寧ろ東洋哲學の部門に屬し生命ある宗教其物にはあらず)何れも無稽にあらずんば没理の偶像禮拜に過ぎざるにあらずや

エドモンド、パーク嘗て言へり「基督教に反對する著述家等は縱令斯教の組織を容認せざるも、さりて別に自ら新宗教を制定せんとは試みざるなり」と此評や彼が郷國と其當時に於て事實の正鵠を得

たる而已ならず世界何れの國何れの時に於ても亦然り知らずや不信者等は基督に代ふべき何物をも有せざることを、ベルナツ博士の「果して然るが然らば汝は之に勝れる宗教を見出せし乎」と詰問は實に不信者頂門の一針なり、されば今や諸君の眼前には向つて進む可き二條の道路あり曰く基督教曰く不信説是なり、基督が「我に來らざる者は我に背く者なり」と説き給ひしは正に此意に外ならず吾人は茲に基督教と不信説とに關する二三の意見を開陳して諸君が撰擇の資料となさん

第一、吾人が諸君に薦むるに基督教を以てする所以のものは斯教は建設的にして不信説は破壊的なればなり、吾人は已に前章に於て斯教の歴史的發展を見、又斯教は人間の徳義的需を充さんとて大能の神が親しく畫策し給へるものなるを見たり、人若し基督教の教理を一瞥せば必ずや此目的の着々遂行せられつゝあるを知るべし福音は曰く人は罪ありと人の良心は此非難を默諾せるに非ずや印度人は愚かにも自殺して其罪を贖はんと試むれども聖書は神子基督の犠牲によりて罪惡の必然的結果たる處罰を免るべき道を説けり基督教は隣人に對する我等の義務を始めとし其他總ての事理を明白に示教して遺す處なし吾人若し未來の状態を問はば斯教は欣んで教て曰ふ「汝は永遠不滅なり汝の爲めに幾多の邸第既に備はれり」と悲悶あれば則ち慰藉を下し要求あれば則ち満足を與へ死も其刺を失ひ墓も其

勝利を奪はる要するに人心の祈願一として満足と餘剩とを以て應答せられざるはなし若し夫れ一言以て不信説の真相を評せんか單に曠野と言はば足りなん見よ吾人の心霊時に寂寞と罪惡と悲哀とを感じて絶叫するも一の慰藉も一の契約も來るとなく徒らに懷疑より生ずる冷談なる「不定」を聴くに過ぎず否只に之のみならず屢々君が心より生命のパンを奪うて饑に陥らしむる者なり基督教は光明なり希望なり建設なり不信説は暗黒なり絶望なり破壊なり故に吾人は切に望む諸君請ふ基督に來れ

第二、社會に於ける結果より論ずるも由來基督教は建築的にして不信説は常に破壊的なりき夫れ建設は破壊よりも困難なると幾層なるを知らず一莖の莖も之に花を開かしむるには天地を造りし全能の力を要す日光之を照し雨露之を沾し以て其美を養はざるべからず而も之を破壊せんこそば瞬時にして踏み碎くを得べし建設破壊の難易到底比較す可らざるなり然るに基督此世に降りて獨力此難事に當り福音の基礎を猶太教の遺趾に置き以て今日の美花を開かせ給へり基督教一度樂器に觸るれば天地調和の光榮ある音曲となり嘲哢として吾人の心奥に響き一度畫工の筆に觸るれば聖書中の人物風景共に世界美術の標本となり一度建築家の腦漿に觸るれば世界最大の建物基督教の聖堂となり一度演説者の舌に觸るれば教師は世界最大の雄辯家となり一度人の心情に觸れば幾万の幼老を養護するの救助院とな

れり、之に反して不信説は宛ら疫病の如く何にまれ破壊し得べき事物を求めて止まず殊に審美と人道
 てふ宮殿の如き極力之を破壊したること佛國に於ける暗黒の歴史は則ち其好例なり當時ホルテールを
 總裁に推戴せる夫の不信説は憐れにも其墳墓に題して死は永遠の睡眠なりと云ひ血腥き革命の中途に
 於て文明を寸断し鮮血もて全地を沾し遂に絶望せる巴里の市民をして誰か出で、我等を此淵より救ひ
 上げよと叫ばしむるに至れりデューマ之に應じて「今や彼等の絶叫は彼等を救ふべき者の來らん事に
 て則ち彼等が最も要する所のものは一の神にぞある」と言ひしは誠に恰當の答なりき諸君請ふ斯る淺
 ましき破壊的不信説を棄て、一日も早く基督に來れ

第三、吾人は既に個人に對する基督教の好良なる結果を見人間の品性が斯教によりて高められ不信説
 によりて害はれたるを審らかにしたり夫のマルス丘上に説教せる偉人物は誰ぞ是ぞ背て教徒を迫害し
 て自ら快としたるソローの後身にして今は熱誠忠實なる福音の大宣傳者にあらずや第四世紀に於て當
 時の懷疑家を論倒したる有名なるヒツポの大神學者は誰ぞ是ぞ福音の感化によりて放蕩無類の性行を
 棄て高貴老實なる生涯を送りたるアウガスチン其人に非ずや又十二世紀の頃聖靈の召を受けて素行を
 改め正義の傳令使となり幾百千の人靈に生命の光明を與へたるは誰ぞ是ぞ彼の有名なるノーバード其

人にあらずや若し夫れ近時に就て言はんかオー、ガードナーは「恐るべき者」として面識ある者の間
 に指彈せられニューヨーク市中屈指の惡徒なりしかば賭博飲酒は素より彼が日夜の業なりしに一朝慈
 母の祈禱に感激し罪靈の淨化を蒙りし以來忠實に基督に奉事し多年他人の模範となるべき生活を送り
 終に義人として其生涯を了りたり又同市の暗黒危險なる地區に輝ける光明あり是ぞヂエリー、マオー
 レーの説教所なると讀者の疾く知る所なり彼れ少年としては擧徒の群に入り成長の後は竊盜たり殺人
 者たりしも監獄に苦役中一度福音の召を蒙り悔悟して教徒となりし以來幾多の苦楚艱難を経て信仰益
 々堅固となり遂に墮落せる幾千人の生靈を救ふに至れり彼れ死するや市の有名なる牧師等爲めに吊詞
 を述べ市民亦上下の差別なく共に此良善篤實なる死者の爲めに名残の涙を流したり特に又かの禁酒論
 を絶叫して向ふ所敵無き快人物を誰ぞかなす是ぞ其名遠近に轟けるゴフ氏にして彼が爲めに墮落より
 救出されたるもの其數幾人なるを知る可からず以上列擧したる人々は何れも皆基督教の力に依りて其
 精神を改鑄せられたる幾千万人中の二三のみ讀者若し眼を轉じて此方面に於ける不信説の結果を観察
 せば必ずや一驚を喫せざらんとするも得ざる可し諸君は其勇將ヒュームの不徳なる行爲を見ずやホル
 テールの嫌疑すべき品性を見ずやトマス・ヘインの放逸極りなきを見ずや

此他基督教徒の誠實莊重なる生涯を示すの例は時の古今地の東西を問はず極めて夥多にして到底之を
 擧げ盡すの遑なきなり人或は問はん不信説を唱道する儕輩中にも時に或は欽慕す可き品性を具せる者
 あるに非ずやと吾人は「然り誠に之れあり而も彼等の輝くや宛がら光を借りたる月の如くに輝けり」
 と答へんのみ殊に當代の懷疑家にして問々品行方正なる者あるは大に其縁由なくんばあらず夫のイン
 ガソ一の如きは幼時慈母と共に跪座して神に祈禱し乃父の講壇より多年福音の教義を聴き斯教勢力の
 範圍内に其前半生を送りたれば名こそ懷疑家として世に知られたれ實は基督教主義の家庭に生長し基
 督教主義の交友に接し基督教主義の校舎に學び素養全く成りしは斯教の賜物なりしなり此他斯る類例
 無きにあらざるも其要無きを以て吾人また多く言はざる可し只夫れ試みに福音が個人に及ぼしたる勢
 力を二三世紀間世界より除き去らんには其結果や實に見るに忍びざるものあらん是れ過去の經驗に徴
 して何人も首肯せざるを得ざる所なり

第四、吾人は今や最後に諸君に勸むるに直ちに福音を承認し之を自己の所用に供せんとを以てせざる
 べからず若し夫れ人生なるものが現世のみのものならんには宗教の問題や殊に重きを置くに足らざれ
 ども人間には尙生存すべき來世あると吾人が自然に有する天賦の知覺なる而已ならず確實に默示によ

りて開明せられたる嚴かなる眞理なれば吾人は現世てふ有限の利害のみを能事とせる淺蕪なる不信説
 を棄て永遠の安慰を授くべしと約し給へる基督の教を諸君に推薦せざるを得ざるなり
 之を要するに吾人は早晚住み馴れし場所と親戚知己に永訣し一度去りて復た歸らざる旅程に上らざる
 べからず之れ實に吾人が宗教を目して對岸の火災視する能はざる所以なり乞ふ思へ幾多の莊重なる思
 念の題目諸君の病牀に蝟集し來る時「不信仰」てふものが如何なる慰藉を諸君に給與し得る乎
 數年前インガン一其實弟を葬るの辭に曰く「人生は兩端にある寂寞無趣味の山嶺に挿まれたる狹隘な
 る溪谷なり我等は此兩山嶺の以外を見んと企つるもそは徒勞のみ我等如何に大聲を發するも聞ゆるも
 のは自己が絶叫の反響のみ」とホルテール曰く「人間の苦痛は凡ての動物の苦痛を併合したるよりも
 尙ほ多し彼は生活を愛すると同時に死に於ては彼を待てるを知れり彼は瞬時の幸福を樂めども忽ち幾種
 の苦難に遭遇し終には蟲類の群り食ふ處となるなり嗟予は寧ろ生れざりしを欲するなり」と
 爾者若し斯る不信者等の意味なき廢語を離れて基督教の慰藉に移らば渴して冷水を得たるの心地すべ
 し基督教は「爾等心に憂ふる勿れ、神を信じ又我を信すべし、我父の家には第宅多し」と是れ實に
 救主最後の契約にして暗黒なる未來に一大光明を與へしものなり使徒保羅が「我が生るは基督の爲め

また死るも我が益なり」と言ひしは彼が衷心に洋々たる來世の希望ありしを證して餘りありと謂ふべし

ハンナ、モーア女史嘗て「余は基督教徒に就て見る所の一の顯著なる事實ありそは彼等死に臨んで寧も其教徒たりしを後悔する者無きと是なり」と言しが不信者の死は大に其趣を異にし病勢の暮るも共に畏怖の念益々加はり不安の狀態常に傍人をして悚然たらしむ讀者よ君は今尚ほ此人生の大準備を不問に措きつゝあるか今日之を定めずとも他日必ず機會ある可しと妄想しつゝあるか、君の生命の一日終末に近きつゝあるを悟らざるか若くは又此一大事を空しく未決の問題として放擲し死に臨んで始めて痛悔し「既に遅し」と臍を噛むの愚を學ばんと欲する因果して然らば諸君はハイデルベルグ大學に教鞭を執りしパウルス博士の惘然たる最後に倣はんと欲する者なり彼は靈魂の不滅其他何にまれ超自然的なる一切の事物を否定したる無神論者なりしが病革まるや彼は痛く恐れ慄き最後の悲劇を待つ間の數時最も苦しき默想を爲せり斯くて何事をか悟りたらん如き容子にて俄かに兩眼を開き天井を凝視し「寔に來世あるなり」と叫び了りて遂に逝きぬ吾人は讀者が彼よりも早く此發見を爲し主基督と其福音を信じ「既に遅し」てふ永久の悔恨に陥ると無からんとを切望して止まざるなり

讀者は實に本件の曲直を決裁する審判官なり故に慎重に自己の定案を下し他日身自ら嚴かなる天の法庭に立ち大審判者たる神の審問を受くるに際し自己の意志と生活とに毫末の遺憾なからしめんとは是れ余の熱望に堪へざる處本書を著す所以の微志亦實に是に存するなり

(完)

1/36

明治三十五年八月十五日印刷
明治三十五年八月十五日發行

譯者 ダブリュー、エー、クレメント

同 大倉本澄

發行者 堀田達治

東京市京橋區銀座四丁目二番地

九三三七一 基督教公判錄

東京市京橋區銀座四丁目二番地

發行所 教文館

東京市京橋區銀座四丁目二番地

印刷所 青山學院實業部

東京府豊多摩郡澁谷村大字
青山南町七丁目一番地

1/36

明治三十五年八月十五日發行
明治三十五年八月十五日印刷

譯者 ダブリュー、エー、クレメント

同 大倉 本 澄

發行者 堀田 達 治

東京市京橋區銀座四丁目二番地

印刷者 馬淵 鶴 吉

東京府豊多摩郡澁谷村大字
青山南町七丁目一番地

發行所 教文館

東京市京橋區銀座四丁目二番地

印刷所 青山學院實業部

東京府豊多摩郡澁谷村大字
青山南町七丁目一番地

教文館
141115

92
271

